

栃木県埋蔵文化財調査報告第 357 集

# 興聖寺城跡・寺之後遺跡

—安全な道づくり事業費（交付金）主要地方道佐野田沼線新吉水工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2013.3

栃木県教育委員会  
財とちぎ未来づくり財団

# 興聖寺城跡・寺之後遺跡

—安全な道づくり事業費（交付金）主要地方道佐野田沼線新吉水工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2013. 3

栃 木 県 教 育 委 員 会  
財 と ち ぎ 未 来 づ くり 財 団

## 序

興聖寺城跡こうしょうじじょうあとおよび寺之後遺跡てらのうしろいせきは、栃木県南西部の佐野市吉水地内に所在します。この地域は、豊かな自然環境のもとたくさん遺跡が確認されており、両遺跡も古代から中世の佐野の歴史を考えるうえで重要な遺跡です。

興聖寺城跡は、安貞2年(1228)に佐野国綱くにつなが築いて以来、戦国時代に唐沢山城に移るまで佐野の一带を支配していた城館跡と考えられており、方形に巡る大規模な土塁と堀跡が現在も保存され、佐野市史跡に指定されています。一方、寺之後遺跡はこれまでの発掘調査で古代の竪穴建物跡などがたくさん発見されており、『和名類聚抄』安蘇郡麻績郷あそぐんおみごうに関連する遺跡と考えられています。

このたび、安全な道づくりを目的とした主要地方道佐野田沼線新吉水工区の歩道拡幅工事に先立ち、計画地内に所在する両遺跡の取り扱いについて、関係諸機関と協議を重ねた結果、記録保存を目的とした発掘調査を実施いたしました。発掘調査では、興聖寺城跡の堀跡の一部が確認できたほか、古代の集落跡や中世の墓穴、井戸跡などが発見されました。

本報告書は、平成22・23年度に実施した興聖寺城跡と寺之後遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。本書が、県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、佐野市教育委員会をはじめとする関係諸機関、並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

栃木県教育委員会

教育長 古澤利通

## 例 言

1. 本書は、栃木県佐野市吉水地内に所在する興聖寺城跡・寺之後遺跡の発掘調査報告書である。両遺跡の概要については、年報等で一部公表されているが、本書をもって正報告とする。
2. 発掘調査は、安全な道づくり事業費（交付金）主要地方道佐野田沼線新吉水工区に伴う記録保存調査である。
3. 発掘調査は、栃木県県土整備部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、財団法人とちぎ未来づくり財団（平成22年度以前 財団法人とちぎ生涯学習文化財団）埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査から整理作業および報告書作成までの担当は次のとおりである。

### 【発掘調査】

平成22年度（寺之後遺跡発掘調査）平成22年8月10日～平成23年3月30日

財団法人とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター 調査部

調査第二担当副主幹（担当リーダー）塚本師也 嘱託調査員 宅間清公

平成23年度（興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査）平成23年4月1日～平成24年3月29日

財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 調査部

調査第二担当副主幹（担当リーダー）塚本師也 嘱託調査員 宅間清公

### 【整理作業・報告書作成】

平成24年度（興聖寺城跡・寺之後遺跡整理作業及び報告書作成）

平成24年4月2日～平成25年3月29日

財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 調査課

副主幹兼課長 芹澤清八 副主幹 後藤信祐

5. 本書の執筆・編集は後藤が担当し、副所長初山孝行が校閲した。
6. 再委託業務のうち、除草作業は林土木株式会社、重機による表土除去は林土木株式会社・株式会社木村・三陽建設株式会社に委託した。また、基準点測量・基準杭の建植は株式会社ニッコー、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は中央航業株式会社、寺之後遺跡の自然科学分析についてはバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。なお、自然化学分析については、附章として掲載した。
7. 写真撮影は各年度の担当者（発掘調査における遺構：塚本・宅間、遺物：後藤）が行った。
8. 金属製品の保存処理・X線写真撮影は車塚哲久が行った。
9. 発掘調査の実施ならびに報告書の作成にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を賜った。  
栃木県県土整備部、安足土木事務所、佐野市教育委員会、佐野警察署、興聖寺、柴田誠治、奥澤規夫、柴田ミツ、奥澤ゲン、株式会社奥澤末松商店、金子和代（順不同）
10. 発掘調査参加者は、次の通りである。  
新井 恵、飯塚美智子、小玉淳子、小野君子、亀田浩子、小森美代子、齋藤貴子、提著一雄、塩島道子、島崎アキ子、清水季節、清水房枝、津久井幸子、津久井重光、永島 栄、南雲 進、藤田 博、山上菊三、山根真美、吉永 茂（五十音順）
11. 整理作業・報告書作成参加者は、次の通りである。  
田村範子、高久玲子、芳賀美津子
12. 本遺跡の出土遺物・資料類は、財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センターで保管している。



## 凡 例

1. 遺跡の略号は、興聖寺城跡：S N-K S (SANO-KOUSYOUJIYOUATO)、寺之後遺跡：S N-T U (SANO-TERANOU-SIRO) である。
2. 遺構略号は、発掘調査時はS-の通し番号で管理していた。しかし、整理・報告書作成の段階で番号は基本的に同じとしたが、遺構の種類によって以下のように表示した。  
S I (竪穴建物跡)、S E (井戸跡)、S D (溝跡)、S K (土坑)、S X (不明遺構)
3. 遺構実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として、各調査区の全体図1/160、各遺構の平面図及び断面図は1/50で表示した。
4. 遺構平面図中の方位は、世界測地系(日本測地系2000・Japanese Geodetic Datum 2000)平面直角座標系第IX系に基づいている。断面図中の水準は、東京湾平均海面からの標高である。
5. 土層説明の記載は、発掘調査時の観察に準拠している。  
土層の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監査の『新版 標準土色帖 1996年度版』に従った。混入物の含有量については、多量・やや多量・中量・やや少量・少量の5段階に、しまり及び粘性については、富む・やや富む・やや欠く・欠くの4段階に分け記載した。
6. 遺物実測図の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として、土器類は1/4、石器・鉄製品は1/3(ただし五輪塔は1/5)、銭貨の拓本は1/1としている。
7. 土師器の内面黒色処理、陶磁器の施釉部分は網かけにより示した。また、断面図については、須恵器は黒く塗りつぶし、陶磁器は網かけを行った。
8. 須恵器・陶器破片遺物の拓本は、「内面-断面-外面」の順に掲載した。
9. 出土遺物観察表および遺構計測表中における計測値の( )は推定値、[ ]は残存値を表す。
10. 遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監査『新版 標準土色帖 1996年度版』を参考とした。
11. 写真図版の遺物の縮尺は基本的に不統一である。

# 目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次

第1章 調査の経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法と経過	4
第2章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
第3章 興聖寺城跡の発掘調査	
第1節 発掘調査の概要	15
第2節 発見された遺構と遺物	15
第4章 寺之後遺跡の発掘調査	
第1節 発掘調査の概要	22
第2節 発見された遺構と遺物	
1. 西1区	24
2. 西2区	38
3. 西3区	45
4. 西4区	55
5. 西5区	57
6. 東1区	58
7. 東2区	63
8. 東3区	68
9. 東4区	73
10. 東5区	75
11. 遺構外出土遺物	83
第3節 平成12年度工事立会調査	91
第5章 まとめ	
第1節 興聖寺城跡・寺之後遺跡の調査成果	100
第2節 興聖寺城跡関連史料と発掘調査	101
第3節 これまでの発掘調査からみた寺之後遺跡の広がり	104
附 章 寺之後遺跡の自然科学分析	106

# 挿 図 目 次

第 1 図	興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査区全体図	2	第 35 図	SK-160・162～167、SD-161 実測図	56
第 2 図	道跡の位置と橋木原の地形区分	8	第 36 図	西 5 区全体図及び SK-266～268 実測図	57
第 3 図	道跡周辺の地形図	9	第 37 図	東 1 区全体図	59
第 4 図	興聖寺城跡・寺之後遺跡周辺の道跡	13	第 38 図	SI-248、SK-252～255、SX-251 実測図	60
第 5 図	興聖寺城跡発掘調査区全体図	16	第 39 図	SX-256・257、SK-258～261 実測図	61
第 6 図	興聖寺城跡発掘調査区全体図	17	第 40 図	SK-262～264 実測図	62
第 7 図	M-2 区 SI-1 実測図	18	第 41 図	SX-256 出土遺物	63
第 8 図	4 区西ち割り実測図	19	第 42 図	東 2 区全体図	64
第 9 図	興聖寺城跡出土遺物	20	第 43 図	SI-234、SK-244・245 実測図	64
第 10 図	寺之後遺跡基本土層（東 2 区南壁）	22	第 44 図	SI-246、SK-247 実測図	65
第 11 図	寺之後遺跡発掘調査区全体図	23	第 45 図	SI-246 出土遺物	66
第 12 図	西 1 区全体図	25	第 46 図	東 3 区全体図	68
第 13 図	SI-16、SK-1～14・17～19 実測図	27	第 47 図	SI-243、SK-171・233・235～241 実測図	69
第 14 図	SI-34、SK-20～27・32・35～40 実測図	29	第 48 図	SI-243 カマド実測図	69
第 15 図	SI-101、SK-30・31・68～70・100・102 ～105、SX-33 実測図	31	第 49 図	SK-233 出土遺物	70
第 16 図	SK-41～67・71・72 実測図	33	第 50 図	SI-243 出土遺物	72
第 17 図	SI-16・34・101、SK-50・61・104 出土遺物	35	第 51 図	東 4 区全体図	73
第 18 図	SK-102 出土遺物	36	第 52 図	SK-170・172～179 実測図	73
第 19 図	西 2 区（南）全体図	38	第 53 図	SK-180～189・191～219・230～232 実測図	74
第 20 図	SI-73・77・82、SK-74～76・78～80 実測図	39	第 54 図	東 5 区全体図	75
第 21 図	SI-82、SD-83 実測図	41	第 55 図	SI-302・303、SK-301・313 実測図	76
第 22 図	SK-85・87、SD-86 実測図	41	第 56 図	SI-304、SK-312 実測図	78
第 23 図	西 2 区（北）全体図	42	第 57 図	SK-305・306・308～311、SE-307 実測図	80
第 24 図	SI-89 実測図	43	第 58 図	SI-303・304、SK-306～312、SE-307 出土遺物	81
第 25 図	SK-94、SD-95・96 実測図	43	第 59 図	遺構外出土遺物	83
第 26 図	SI-73・77・82、SD-83・95・96 出土遺物	44	第 60 図	平成 12 年度工事立会調査位置図	92
第 27 図	西 3 区全体図	46	第 61 図	SI-01～03・07 出土遺物	93
第 28 図	SI-110、SK-111 実測図	47	第 62 図	SI-05・11・12 出土遺物	94
第 29 図	SK-112～117・119～121 実測図	48	第 63 図	SI-13 出土遺物（1）	95
第 30 図	SI-136、SK-122～128・130～135 実測図	49	第 64 図	SI-13 出土遺物（2）	96
第 31 図	SI-158、SK-137～157・159・265 実測図	51	第 65 図	SK-01、SX-01・02 出土遺物	97
第 32 図	SI-110・136 出土遺物	52	第 66 図	藤原家所蔵古絵図（興聖寺城跡及び周辺）	102
第 33 図	SI-158、SK-124・141・151 出土遺物	53	第 67 図	興聖寺城跡及び周辺の城館・河川・水路推定図	103
第 34 図	西 4 区全体図	55	第 68 図	これまでの発掘調査区と寺之後遺跡の広がり	105

# 表 目 次

第 1 表	興聖寺城跡・寺之後遺跡周辺の道跡一覧	14	第 16 表	SD-96 出土遺物観察表	45
第 2 表	興聖寺城跡出土遺物観察表	21	第 17 表	SI-110 出土遺物観察表	54
第 3 表	寺之後遺跡調査区別道跡表	24	第 18 表	SI-136 出土遺物観察表	54
第 4 表	SI-16 出土遺物観察表	36	第 19 表	SI-158 出土遺物観察表	54
第 5 表	SI-34 出土遺物観察表	37	第 20 表	SK-124 出土遺物観察表	54
第 6 表	SI-101 出土遺物観察表	37	第 21 表	SK-141 出土遺物観察表	54
第 7 表	SK-50 出土遺物観察表	37	第 22 表	SK-151 出土遺物観察表	54
第 8 表	SK-61 出土遺物観察表	37	第 23 表	SX-256 出土遺物観察表	63
第 9 表	SK-102 出土遺物観察表	37	第 24 表	SI-246 出土遺物観察表	67
第 10 表	SK-104 出土遺物観察表	37	第 25 表	SK-233 出土遺物観察表	70
第 11 表	SI-73 出土遺物観察表	44	第 26 表	SI-243 出土遺物観察表	71
第 12 表	SI-77 出土遺物観察表	44	第 27 表	SI-303 出土遺物観察表	82
第 13 表	SI-82 出土遺物観察表	45	第 28 表	SI-304 出土遺物観察表	82
第 14 表	SD-83 出土遺物観察表	45	第 29 表	SK-306 出土遺物観察表	82
第 15 表	SD-95 出土遺物観察表	45	第 30 表	SE-307 出土遺物観察表	83

第31表	SK-312出土遺物観察表	83	第43表	平成12年度工事立会道構一覽	91
第32表	道構外出土遺物観察表	84	第44表	SI-01出土遺物観察表	97
第33表	西1区道構一覽	84	第45表	SI-02出土遺物観察表	97
第34表	西2区道構一覽	86	第46表	SI-03出土遺物観察表	97
第35表	西3区道構一覽	87	第47表	SI-05出土遺物観察表	98
第36表	西4区道構一覽	88	第48表	SI-07出土遺物観察表	98
第37表	西5区道構一覽	88	第49表	SI-11出土遺物観察表	98
第38表	東1区道構一覽	88	第50表	SI-12出土遺物観察表	98
第39表	東2区道構一覽	88	第51表	SI-13出土遺物観察表	99
第40表	東3区道構一覽	89	第52表	SK-01出土遺物観察表	99
第41表	東4区道構一覽	89	第53表	SX-01出土遺物観察表	99
第42表	東5区道構一覽	90	第54表	SX-02出土遺物観察表	99

## 写真図版

### 図版一 興聖寺城跡・寺之後道跡 遠景

- 興聖寺城跡・寺之後道跡遠景（西上空から）
- 興聖寺城跡及び発掘調査区（西上空から）

### 図版二 興聖寺城跡 遠景及び現況

- 興聖寺城跡全景（南東上空から）
- 東門付近（東から）
- 北側土塁・外堀跡（東から）
- 南側土塁・外堀跡（西から）
- 調査前状況（西土塁西側を北から）

### 図版三 興聖寺城跡 調査区・道構

- M-1区（南から）
- M-2区（南から）
- M-2区 SI-1（南西から）
- M-2区 SI-1 セクション（西から）
- 調査区1（南から）
- 調査区2（南から）
- 調査区3（南から）

### 図版四 興聖寺城跡 調査区・道構

- 調査区4（南から）
- 調査区4 礎出土状況（西から）
- 調査区4 礎下断ち割り（南から）
- 調査区5（南から）
- 調査区6（南から）
- 調査区7（南から）
- 調査区8（南から）
- 調査風景（南から）

### 図版五 寺之後道跡 道跡・道構

- 寺之後道跡遠景（北から）
- 調査区遠景（南東から）

### 図版六 寺之後道跡 道構（西1区）

- 西1区垂直全景（上が東）
- SK-4 完掘状況（南から）
- SK-5 セクション（南から）
- SK-7・8・10・12 完掘状況（西から）

SK-9 完掘状況（東から）

SK-11 完掘状況（西から）

SK-13 完掘状況（西から）

### 図版七 寺之後道跡 道構（西1区）

- SI-16 完掘状況（南から）
- SI-34 完掘状況（東から）
- SK-26 完掘状況（東から）
- SK-32 完掘状況（東から）
- SK-39 完掘状況（東から）

### 図版八 寺之後道跡 道構（西1区）

- SK-41 完掘状況（東から）
- SK-42 完掘状況（東から）
- SK-43 完掘状況（東から）
- SK-45 完掘状況（東から）
- SK-46・47 完掘状況（東から）
- SK-48 完掘状況（東から）
- SK-50・72 完掘状況（東から）
- SK-53 完掘状況（東から）

### 図版九 寺之後道跡 道構（西1区）

- SK-57 完掘状況（東から）
- SK-58・60 完掘状況（東から）
- SK-59 完掘状況（西から）
- SK-61 完掘状況（西から）
- SK-62 完掘状況（西から）
- SK-65・66 完掘状況（東から）
- SI-101・SK-102 遺物出土状況（東から）
- SK-102 遺物出土状況（東から）

### 図版一〇 寺之後道跡 道構（西2区南）

- 西2区南垂直全景（上が東）
- SI-73 完掘状況（東から）
- SI-77 完掘状況（西から）
- SI-82・SD-83 完掘状況（西から）
- SK-75 遺物出土状況（東から）
- SK-79 遺物出土状況（東から）

- SK-85・SD-86 完掘状況 (西から)
- 図版一〇 寺之後遺跡 遺構 (西2区北)**
- 西2区北垂直全景 (上が東)
- SK-94 セクション (南から)
- SK-94 完掘状況 (西から)
- SD-95 礎出土状況 (西から)
- SD-95・96 完掘状況 (西から)
- 図版一一 寺之後遺跡 遺構 (西3区)**
- 西3区垂直全景 (上が東)
- SI-110 完掘状況 (西から)
- SI-110 カマド完掘状況 (北西から)
- SI-110 カマドソテ断ち廻り状況 (西から)
- 図版一二 寺之後遺跡 遺構 (西3区)**
- SI-136 完掘状況 (西から)
- SI-136 完掘状況 (南から)
- SI-136 遺物出土状況 (南から)
- SI-136 遺物出土状況 (南から)
- SI-158 完掘状況 (西から)
- 図版一三 寺之後遺跡 遺構 (西4・5区)**
- 西4区全景 (上が東)
- 西5区垂直全景 (上が北)
- SK-266～268 完掘状況 (西から)
- 流路跡セクション (西から)
- 図版一四 寺之後遺跡 遺構 (東1区)**
- 調査区遠景 (南東から)
- 東1区垂直全景 (上が西)
- SK-252～255 完掘状況 (東から)
- SK-263・264 完掘状況 (東から)
- 図版一五 寺之後遺跡 遺構 (東1・2区)**
- SI-248・SX-251・SK-252～255 完掘状況 (東から)
- SX-256 完掘状況 (東から)
- SX-257 完掘状況 (東から)
- 東2区垂直全景 (上が北)
- 図版一六 寺之後遺跡 遺構 (東2・3区)**
- SI-234 完掘状況 (西から)
- SI-246 遺物出土状況 (東から)
- 東3区垂直全景 (上が西)
- 図版一七 寺之後遺跡 遺構 (東3区)**
- SI-243 完掘状況 (南から)
- SI-243 遺物 (No.1) 状況 (南から)
- SI-243 遺物 (No.2) 状況 (南から)
- SI-243 カマドソテ断ち廻り (北から)
- SK-171 完掘状況 (東から)
- 図版一八 寺之後遺跡 遺構 (東3・4区)**
- SK-235～238 完掘状況 (東から)
- SK-239～241 完掘状況 (東から)
- 東4区垂直全景 (上が西)
- SK-170 完掘状況 (西から)
- SK-172～179 完掘状況 (東から)
- SK-180～194 完掘状況 (東から)
- SK-196 完掘状況 (東から)
- 図版一九 寺之後遺跡 遺構 (東4・5区)**
- SK-199～203 完掘状況 (西から)
- SK-204～211 完掘状況 (東から)
- SK-210 完掘状況 (西から)
- SK-215～219 完掘状況 (東から)
- 東5区垂直全景 (南から)
- 東5区垂直全景 (北から)
- 図版二〇 寺之後遺跡 遺構 (東5区)**
- SI-302・303 完掘状況 (南から)
- SI-302 完掘状況 (西から)
- SI-303 カマドセクション (南から)
- SI-303 カマド完掘 (南から)
- SI-303 礎出土状況 (南から)
- 図版二一 寺之後遺跡 遺構 (東5区)**
- SI-304 完掘状況 (南から)
- SI-304 遺物出土状況 (北から)
- SI-304 カマドセクション (南から)
- SK-301 完掘状況 (西から)
- SK-305 完掘状況 (西から)
- SK-306 完掘状況 (西から)
- SE-307 完掘状況 (西から)
- 図版二二 寺之後遺跡 遺構 (東5区)**
- SI-304 完掘状況 (南から)
- SI-304 遺物出土状況 (北から)
- SI-304 カマドセクション (南から)
- SK-301 完掘状況 (西から)
- SK-305 完掘状況 (西から)
- SK-306 完掘状況 (西から)
- SE-307 完掘状況 (西から)
- 図版二三 興聖寺城跡 遺物**
- 各調査区出土遺物 (1～18)
- 図版二四 寺之後遺跡 遺物 (西1・2区)**
- 西1区 (SI-16-1-3, SI-34-1-2-3, SI-101-1-2-3-5, SK-50-1, SK-61-1, SK-102-1-2, SK-104-1)、西2区 (SI-73-2, SI-77-1, SI-82-1-3, SD-83-1, SD-95-2, SD-96-1-2)
- 図版二五 寺之後遺跡 遺物 (西3区・東1区)**
- 西3区 (SI-136-1-2-6-7, SI-158-1-2, SK-124-1, SK-141-1～3, SK-151-1～3)、東1区 (SX-256-1～4)
- 図版二六 寺之後遺跡 遺物 (東2・3区)**
- 東2区 (SI-246-5-6-8-11-12-18-19-21)、東3区 (SI-243-1-5～9, SK-233-1-3)
- 図版二七 寺之後遺跡 遺物 (東5区・遺構外)**
- 東5区 (SI-303-2, SI-304-1-2, SK-306-1-2, SE-307-1-3～6)、遺構外出土遺物1～12
- 図版二八 寺之後遺跡 遺物 (工事立会調査)**
- SI-01-1-4～6, SI-03-1-2-5-8, SI-05-1-4～6
- 図版二九 寺之後遺跡 遺物 (工事立会調査)**
- SI-11-2～5, SI-13-3～21
- 図版三〇 寺之後遺跡 遺物 (工事立会調査)**
- SI-13-22～30-35-39-40, SK-01-1, SX-01-1-2, SX-02-1

## 第1章 調査の経緯

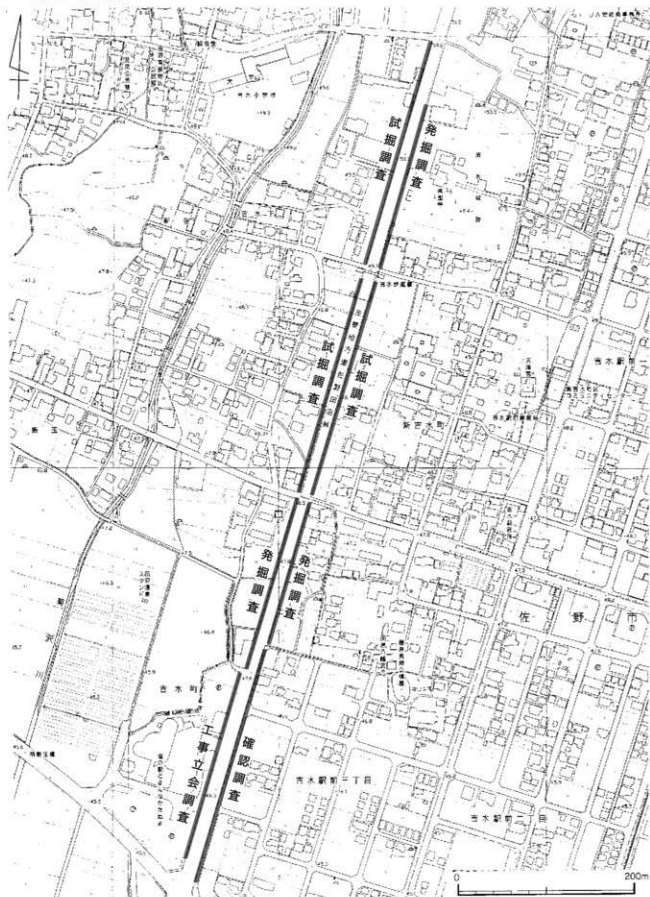
### 第1節 調査に至る経緯

興聖寺城跡・寺之後遺跡が所在する佐野市域には、群馬県前橋市から茨城県水戸市まで北関東三県を結ぶ国道50号、足利から県都宇都宮市、さらには県東部の那珂川町から茨城県日立市へと続く国道293号と、市街地の南と北に東西にのびる二つの幹線道路が走っている。主要地方道（栃木県道16号）佐野田沼線はこの二つの路線を結ぶ6.674kmの短い道路であるが、佐野市と旧田沼町の両市街地を結ぶ重要な道路である。また、産業道路といわれるように当地域の発展に重要な路線の一つで、特に葛生地区で生産される石灰・砕石等を首都圏に運搬する大型車が利用する道路でもある。終日交通量は多く、全線が4車線（片側2車線）である。交通の要衝である小見町交差点には平成15年に建設された道の駅「どまんなかたぬま」が建設され、道路利用者の休息および地域振興施設として多くの人に利用されている。さらに、平成23年3月19日には群馬・栃木・茨城の北関東三県を結ぶ北関東自動車道が全線開通し、佐野田沼インターから佐野市内へ向かう最短の道路として、交通量はさらに増えている。

旧田沼町の南部に位置する主要地方道佐野田沼線新吉水工区は、小見町交差点（道の駅「どまんなかたぬま」と吉水小学校を結ぶ工区（L=1,020m、W=20m）であり、通学路としては指定されていないものの、地元の歩行者の利用頻度も非常に高い。しかし、現況の歩道幅員は1.5mと狭く、自動車交通、特に大型車の交通が非常に多い（1,442台/12h）ことから、利用者にとっては、非常に危険な状態になっている。そこで、幅員3.5mの自転車歩行者道を拡幅整備することで、利用者の安全を確保することとし、快適な道路環境を整備することとなった。

一方、この地域は、歴史的にも佐野市域の古代から中世を語る上で重要な地域として周知されている。寺之後遺跡は昭和54～55年にかけて圃場整備に伴い2ヶ月ほどの緊急発掘調査が実施され、竪穴建物跡24軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡1条が発見された。平成13年には道の駅建設に伴い、小見町交差点の北西部の確認調査が行われ、前回の圃場整備事業の調査区南側に隣接する建物および取り付け道路部分の発掘調査が実施された。その結果、35m四方、1,225㎡のA調査区から竪穴建物跡20棟、掘立柱建物跡3棟、井戸跡8本、土坑23基が発見されている。また、東側（A調査区北側）の駐車場部分については、埋蔵文化財へ影響は及ばないとして発掘調査は実施しなかったが、2,000㎡ほどの水田に12m間隔で2m幅の3本のトレンチを設定したところ竪穴建物跡28軒が確認された。このことから、この範囲だけで100軒程度の竪穴建物跡の存在が想定され、北側に向かって古墳時代末から平安時代の竪穴建物跡が重複しながらかなりの密度で存在していることが予想された。また、『続日本記』延暦3年5月3日の条に「下野国安蘇郡主帳外正六位下若麻績部牛養」という名や、『和名類聚抄』にも麻績（おみ）郷の名がみえ、さらに隣接地に小見という字名が残っていることや、道の駅の交差点名が小見であるなど、古代麻績郷を考える上で重要な遺跡であることは容易に想像されよう。

また、寺之後遺跡の北東700mには、佐野市指定史跡である中世の興聖寺城跡（清水城跡）がある。東西116m、南北133mのほぼ方形の土塁と、その外側に堀跡が良好な状態で残っている。『栃木県誌』などによれば、安貞2年（1228）、佐野国綱が岩崎義基のために築いたとあるが、これまで発掘調査等は行われておらず、詳細は不明である。『蓼沼家所蔵古絵図』との照合などから、水堀で囲まれた曲輪が周囲に広がることなども予想されている。



第1図 興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査区全体図

平成20年2月13日付けで県土整備部から主要地方道佐野田沼線吉水工区の遺跡の照会があり、平成20年2月20日栃木県教育委員会文化財課により、市道101号線から市道2089号線までの500mほどの間の試掘調査が行われた。試掘調査の結果と上記のような興聖寺城跡・寺之後遺跡の重要性を鑑み、栃木県教育委員会・栃木県県土整備部、佐野市教育委員会と協議を重ねた。そして、歩道幅に伴う幅2mの狭い調査区ではあるが、遺物の散布がみられる道の駅北側から市道206号線までの寺之後遺跡については路線両側について発掘調査、市道206号から吉水歩道橋までは試掘調査で遺構遺物が検出されなかったため発掘調査は実施せず工事立会調査での対応、吉水歩道橋から市道2089号線までの興聖寺城跡については、現道東側は外堀がかかると考えられることから発掘調査、西側については試掘調査で対応することとなり(第1図)、平成22年度に発掘調査を実施することとなった。

【平成22年度】5月の段階で、諸事情により興聖寺城跡の発掘調査が年度内は難しくなったことから、寺之後遺跡の発掘調査が可能な部分のみ実施することとなった。平成22年7月1日付け文財号外で、栃木県教育委員会事務局文化財課課長から財団法人とちぎ生涯学習文化財団理事長あて、寺之後遺跡発掘調査の見積書提出の依頼があり、同日付けとち理文123号で見積書(見積金額・積算説明書)を栃木県知事あて回答した。そして、平成22年8月9日付け文財号外で、「平成22年度寺之後遺跡の埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結について」の依頼があり、8月10日付けとち理文141号で回答を行い、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」栃木県知事と財団法人とちぎ生涯学習文化財団理事長の間で取り交わされ、委託業務契約が締結された。主な契約内容は、委託業務名称：寺之後遺跡発掘調査(安全な道づくり事業費(交付金)主要地方道佐野田沼線新吉水工区に伴う発掘調査)、委託業務地：佐野市吉水、委託業務内容：発掘調査(調査面積900㎡)、委託期間：契約締結日(平成22年8月10日)～平成23年3月30日(うち3ヶ月)、委託料：16,000,000円(うち消費税761,904円)、である。

【平成23年度】興聖寺城跡と寺之後遺跡の前年度の未調査区(東5区)である。平成23年4月1日付け文財号外で、栃木県教育委員会事務局文化財課課長から財団法人とちぎ未来づくり財団理事長あて、「平成23年度県土整備部道路整備課事業に伴う発掘調査(興聖寺城跡・寺之後遺跡)の費用見積について」依頼があり、同日付けとち理文64号で見積書(見積金額・積算説明書)を栃木県知事あて提出した。そして、平成24年4月1日付け文財号外で、「平成23年度興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査の委託契約の締結について」の依頼があり、同日付けとち理文76号で回答を行い、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が栃木県知事と財団法人とちぎ未来づくり財団理事長の間で取り交わされ業務委託契約が締結された。主な契約内容は、委託業務名称：興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査(安全な道づくり事業費(交付金)主要地方道佐野田沼線新吉水工区に伴う発掘調査)、委託業務地：佐野市吉水地内、委託業務内容：発掘調査(調査面積850㎡)、委託期間：契約締結日(平成23年4月1日)～平成24年3月29日のうち3ヶ月、委託料：16,260,000円(うち消費税774,285円)、である。

発掘調査も終了に近づいた7月後半、発掘調査終了後に速やかに歩道建設工事着工の予定であったが、諸事情により遅延することとなった。そのため、安全確保のため発掘調査区の新機による埋め戻しの委託料・プレハブ用地の借地料が新たに必要となり、文化財課と協議を行い、平成23年7月28日文化号外で「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書の変更契約書」が取り交わされ、委託契約の変更契約が締結された。変更された委託料は18,240,000円(うち消費税868,571円)である。

【平成24年度】発掘調査で出土した遺物と遺構などの記録類の整理作業と報告書作成である。平成24年4月2日付け文財号外で、栃木県教育委員会事務局文化財課課長から財団法人とちぎ未来づくり財団理事長



あて、「平成24年度県土整備部道路整備課事業に伴う発掘調査（興聖寺城跡・寺之後遺跡）の費用見積について」依頼があり、同日付けとち埋文22号で見積書（見積金額・積算説明書）を栃木県知事あて提出した。平成24年4月2日付け文財号外で、「平成24年度興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査の委託契約の締結について」の依頼があり、同日付けとち埋文39号で回答を行い、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が栃木県知事と財団法人とちぎ未来づくり財団理事長の間で取り交わされ業務委託契約が締結された。委託業務名称：興聖寺城跡・寺之後遺跡発掘調査（安全な道づくり事業費（交付金）主要地方法道佐野田沼線新古水工区に伴う発掘調査）、委託業務地：下野市紫474 栃木県埋蔵文化財センター、委託業務内容：整理作業・報告書作成、委託期間：契約締結日（平成24年4月2日）～平成25年3月28日、委託料：16,390,000円（うち消費税780,476円）などである。なお、人件費の見直しなどにより、人件費が減額されたため、平成25年1月10日に文化財課と協議を行い、平成25年1月11日付文化号外で「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書の変更契約書」が取り交わされ、1月15日委託契約の変更契約が締結された。変更された委託料は14,639,000円（うち消費税697,095円）である。

## 第2節 発掘調査の方法と経過

### （1）発掘調査の方法

今回の興聖寺城跡・寺之後遺跡の発掘調査は、2m前後の幅で、現道と同じN-16°-Eの方向に細長いトレンチを設定して発掘調査を行った様のものである。長さは、興聖寺城跡が約150m、寺之後遺跡が約200mで、諸事情から数カ所調査できなかつた部分もあったが、確認調査で遺構が発見された部分について発掘調査を実施した。グリッドは、両遺跡の調査区が共通の座標に載るよう設定した。寺之後遺跡の発掘調査区の南西端が入るように、世界測地系平面直角座標IX系のX=38270、Y=23355を基点とし、5m方眼を設定した。南西優位の原則で、基点から東方向にA、B、C・・・、北方向に1、2、3・・・とし、各グリッドの名称とした。なお、興聖寺城跡の南西端の基点は、X=38730、Y=23205で、グリッドはAG-93である。

発掘調査は、まずロームが粘土化したにぶい褐色土の地山直上まで、重機により表土除去を行った。その後、簡儀等を使って遺構確認作業を行い、土層を確認しながら遺構を掘り下げていった。図面は基本的に土層断面図と遺構平面図を1/20で作成し、器形のわかるような遺物は図面に描き加えた。遺構については暫時エレベーション図がおこせるようレベルングも行った。写真撮影は35mmモノクロとリバーサルフィルムを用い、基本的に遺構のセクション、遺物の出土状態、完備状況について行った。また、遺構のまとめり、調査区全景についても適宜撮影を行った。

### （2）発掘調査の経過

【平成22年度】7月21日に安足土木事務所・文化財課・埋蔵文化財センターで、発掘調査区・期間等について、9月16日に事務所プレハブ・駐車場・残土置き場の確保等について現地協議を行い、9月下旬から発掘調査の諸手続、器材等の準備を行い、現地での作業は10月から開始した。

10月1・4日	現地における調査準備	設置
10月14日～10月18日	除草作業	10月27日～11月2日 西区遺構確認作業
10月19日	器材搬入	11月4日～11月22日 西1区掘り下げ
10月21日	発掘作業員説明会	11月15日～11月26日 西2区遺構掘り下げ
10月25・26日	西区重機による表土除去・安全柵	11月15日～11月19日 西1・2区セクション

## 図作成

11月17日～11月26日 西3区遺構掘り下げ

11月26日～12月10日 西4区遺構掘り下げ

12月6・7日 西区遺構精査・平面図作成

12月6・7日 東区重機による表土除去

12月8日 東区遺構確認作業

12月9日～12月14日 西3区平面図作成

12月9日 西1・2区完掘写真撮影

12月14・15日 西4区平面図作成

12月14・15日 東5区遺構掘り下げ

12月15日 東2・3区遺構掘り下げ

12月16日 東5区平面図作成

12月16日～12月20日 東区セクション図作成

12月17日 東1区遺構掘り下げ

12月20日 東3区平面図作成

12月21日 西区、東1区航空写真撮影

午後、安足土木事務所・文化財課・埋文  
センター3者による現地打ち合わせ

(西側調査区の一部引き渡し、進捗・予算の執行の確認、安全策の撤去と調査区の埋め戻しの時期等)

12月22・24日 西区住居跡カマド精査

1月18日 航空写真撮影、午後、安足土木事務所・文化財課立会のもと、調査区(12/21日分以外)の引き渡し

1月19日 現場撤収作業

平成23年3月30日付けで発掘調査完了報告書を栃木県知事に提出し、平成22年度の委託業務は完了した。検出された遺構と遺物は、堅穴建物跡14軒、土坑46基、溝跡6条、ピット190基、不明遺構4基、土師器・須恵器・陶器・縄文土器・瓦・砥石・五輪塔・鉄釘・銭貨などである。

【平成23年度】4月11日、安足土木事務所・文化財課・埋文文化財センターの三者で、寺之後遺跡の調査済み箇所と未調査区の確認、興聖寺城跡を含む今年度調査可能箇所の確認と両遺跡の調査に関わる諸問題について現地協議を行った。その後、4月19・20日、5月10日に調査区近隣の関係者に対し発掘調査説明、協力依頼を行った。

## 寺之後遺跡東5区

5月18日 現地においての調査準備

5月20日 プレハブ設置・器材搬入

5月23日～5月25日 重機によるアスファルト・表土除去、安全柵設置



寺之後遺跡西1区発掘調査風景



寺之後遺跡西2区遺構実測風景



寺之後遺跡東5区発掘調査風景

## 第1章 調査の経緯

- 5月26・27日 遺構確認作業
- 5月31日～6月9日 遺構掘り下げ
- 6月6日～6月14日 セクション図作成
- 6月15日～6月17日 平面図作成・写真撮影
- 6月21日～6月23日 遺構精査・図面補足・確認
- 6月24日 安全柵撤去
- 6月25日 重機による埋め戻し作業
- 7月22日 文化財課立会のもと、引き渡し

### 興聖寺城跡

- 6月6日 調査区草刈り及び伐採
- 6月9日 興聖寺及び佐野市教育委員会立会のもと調査区設定
- 6月27日～6月30日 土塁西側、人力による試掘調査
- 6月28日～7月4日 南1・2区（アスファルト部分）重機による表土除去、発掘調査
- 7月5日 南1・2区の重機による埋め戻し作業
- 7月12日 1～4区重機による表土除去
- 7月13日 5～8区重機による表土除去
- 7月14日 安全柵設置
- 7月15日 9～11区重機による表土除去
- 7月15日～7月29日 調査区掘り下げ
- 7月22日 文化財課立会のもと、アスファルト舗装部分引き渡し



興聖寺城跡確認調査風景



興聖寺城跡重機による表土除去風景

- 8月1日～8月3日 4区断ち割り
- 8月4・5日 図面作成・写真撮影
- 8月8日 航空写真撮影
- 8月18日 器材撤収作業・プレハブ撤去
- 8月18・19日 安全柵撤去、重機による埋め戻し作業
- 9月14日 文化財課立会のもと、興聖寺西側発掘調査区引き渡し

平成24年3月29日付け発掘調査完了報告書を提出し、平成23年度の委託業務は完了した。検出された遺構と遺物は、興聖寺城跡：堅穴建物跡1軒、堀跡の一部、土師器、陶磁器など少量、寺之後遺跡東5区：堅穴建物跡3軒、土坑6基、井戸1基、ピット4基、土師器・須恵器など、である。

### (3) 整理作業・報告書作成の経過

発掘調査で記録された情報は、遺構図面74枚（興聖寺城跡7枚、寺之後遺跡67枚）、遺構写真35mmモノクロ、カラーリバーサルフィルム各12本（興聖寺城跡各2本、寺之後遺跡各10本）のほか、再委託した基準点測量図、空中写真などである。出土遺物は収納ケース（55×24×20cm）9箱で、文化財課が平成13年度に工事立会調査で出土した寺之後遺跡の遺物（収納ケース6箱）についても、同じ事業であることから、

県土整備部の了承を得て、整理作業を行い本報告書に掲載することとした。

4月2日 記録類・遺物の確認

4月3日～4月11日 遺物洗浄及び注記、図面台紙作成

4月12日～4月27日 遺物接合、遺構図面整理及び修正

5月2日～5月16日 寺之後遺跡（工事立会分）遺物接合

5月12日～5月31日 遺物復原、遺構一覧表作成

6月1日～7月24日 遺物実測・遺物観察表作成

7月25日～8月3日 寺之後遺跡（工事立会分）遺物実測

8月6日～8月10日 遺物拓本

8月13日～9月14日 遺物トレース

9月18日～10月25日 遺構トレース

10月28日～11月22日 遺構図版・原稿作成

11月26日～12月7日 遺物図版・原稿作成

12月10日～12月13日 遺物写真撮影

12月14日～27日 写真図版・原稿作成

1月7日～1月18日 挿図及び写真図版、遺構一覧及び遺物観察表確認、原稿作成

1月22日 印刷製本契約、入稿

1月23日～3月15日 校正、遺物・記録類収納準備

3月18日～3月22日 遺物記録類収納

3月25日 報告書納品、検査

平成25年3月25日刊行された本報告書をもって、安全な道づくり事業費（交付金）主要地方道佐野田沼線新吉水工区に伴う興聖寺城跡・寺之後遺跡の発掘調査はすべて終了したことになる。



整理作業風景（遺物復元）



整理作業風景（遺物拓本）



整理作業風景（報告書校正）

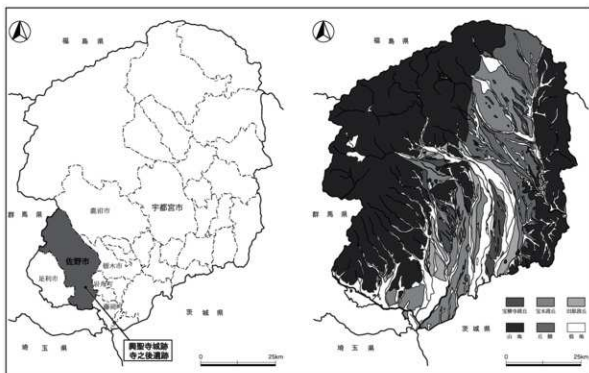
## 第2章 遺跡の環境

## 第1節 地理的環境

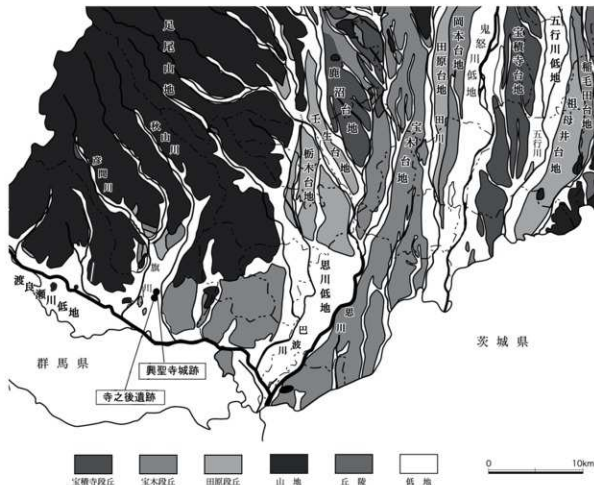
興聖寺城跡・寺之後遺跡は栃木県の南西部に位置する佐野市に所在する。現在の佐野市は、平成17年2月28日に佐野市・田沼町・葛生町が合併して誕生したもので、東西約14km、南北約35km、面積356.07km<sup>2</sup>と市域が拡大している。地形に沿って北西から南西へ細長い形をしており、東は栃木市および上野原郡岩舟町・藤岡町、西は足利市、北東は鹿沼市、北西は足尾山地の分水嶺を県境とし群馬県みどり市・桐生市、南は渡良瀬川を県境とし群馬県館林市の8市町と接している。

関東平野の北縁にあたる佐野市域の地形は、北西の県境に位置する根本山・氷室山・熊鷹山・丸岩岳など1000mを越える山々から南東へ向かって徐々に低くなる山地、これらの山々を水源とする秋山川・旗川・彦間川などの河川によって形成された狭小な谷底平地や段丘、山地を抜けて広がる扇状地及び佐野面と呼ばれる台地、これら河川の下流で合流する渡良瀬川までの沖積地の大きく4つから形成されている。なお、南東には、足尾山地の最南端が関東平野に突出して分断丘陵となった三義山があり市境となっている。

現況の佐野市の土地利用を地目別にみていくと、面積は山林が8,314haと一番広く、次いで田3,566ha、宅地2,795haなどとなっている。北部から中央部にかけては、東側の旧葛生町の山々が明治以降主要産業である石灰岩・砕石の採掘により、路頭が目立っているものの、緑豊かな森林や美しい清流など自然環境に恵まれており、狭小な谷底平野や台地地面には田畑や宅地が広がりを見せている。中部に広がる扇状地は畑地も多いが、近年は灌漑施設が整備され水田も広がりを見せている。一方、市の南部と西部は、現在は住宅や産業基盤が集積する都市的地域と農業が展開する地域となっている。商業施設は、佐野駅の南と桐生岩舟線沿いに多く分布している。近年では、市の南東部の国道50号と東北自動車道がクロスする周辺に、商業・



第2図 遺跡の位置と栃木県の地形区分 (S=1/250,000)



第3図 遺跡周辺の地形図 (S=1/400,000)

住宅用地であるサザンクロス佐野（高萩・越名地区）、産業用地である佐野みかも台産業団地（町谷地区）、佐野インター産業団地（西浦・黒袴地区）から成る佐野新都市が整備されており、大型商業施設が進出するなど新しい商業地域が形成され、県内はもとより、関東一円からも多くの人が訪れている。工業施設は栄町（佐野工業団地）と下羽田（羽田工業団地）のほか、西の産業道路沿いにも多く分布している。また、沖積地は今もほとんどが水田で、低地の中の小規模な台地面や渡良瀬川沿いの自然堤防上に農村集落があり、水田・畑地・果樹園などがモザイク状に分布している。

興聖寺城跡・寺之後遺跡が所在する吉水地区は、旧田沼町の南端、佐野市街地から3.5kmほど北西に位置する。地形的には扇状地から沖積地へ移行する地点にあたる。砂礫層を基盤としており、扇状地から流出したロームが粘土化したものが地山となっている。昭和40年代以降、圃場整備・区画整理・道路整備事業などの開発により、現在は宅地や水田地帯となっているが、それ以前は扇状地を伏流してきた地下水が湧出する箇所が多くみられ、泉や沼の占める割合が高かったといわれている。良質な水が豊富に湧いていたことから付けられた「吉水」という地名の由来を理解することができる。興聖寺城跡・寺之後遺跡は、秋山川と旗川の両河川により発達した扇状地の末端から沖積地に立地するが、微視的には、秋山川の支流である美路（菊沢）川右岸の微高地上で、両遺跡の周辺にはいくつかの浅い谷が入り込んでいたものと思われる。

## 第2節 歴史的環境

興聖寺城跡(1)および寺之後遺跡(2)は、田沼扇状地から沖積地に移行する地点に位置しており、この扇状地の段丘上や沖積地の微高地上には多くの遺跡が確認されている。これらの中には、北関東自動車道をはじめとする道路建設事業や佐野新都市整備事業等開発に伴う発掘調査で内容が明らかになった遺跡も多いが、昭和40年代の区画整理事業などの開発で十分な調査もされることがなく、すでに煙滅しまった遺跡も少なくない。ここでは、市史や町史に伴う所在調査や発掘調査の成果を中心として、興聖寺城跡・寺之後遺跡の周辺に所在する遺跡について、時代ごとに概要を示す。

**旧石器時代** 吉水地区周辺では、この時代の遺跡はほとんど確認されていないが、傾城塚遺跡(23)では、発掘調査に伴って尖頭器2点と剝片1点が発見されている。いずれも層位に伴うものではないが、田沼扇状地内で唯一出土位置がわかる資料として貴重な事例である。このほか、傾城塚遺跡の北方約400mに位置する大森遺跡(25)で石器1点、北西の随岸坊遺跡(35)で剝片が採集されている程度である。田沼扇状地は砂礫層を基盤とし、その上に粘土化したローム層が堆積しているため、旧石器時代の居住空間としては適さない環境であったと考えられる。一方、越名沼周辺では後期旧石器時代の大規模な環状ブロックが確認された上林遺跡(106)をはじめ、ツール類が豊富に出土する遺跡が点在している。

**縄文時代** 縄文時代に入ると、田沼扇状地末端の吉水地区周辺でも遺跡が散見できるようになる。既に消滅してしまった遺跡も少なくないが、吉水地内に杉内遺跡(17)、一丁田遺跡(6)、清水端遺跡(4)、五平前遺跡(3)、小見遺跡(7)、栃本地内に五通A遺跡(15)、五通B遺跡(14)、三通遺跡(26)など縄文中後期を中心とした遺跡が点在する。しかし、単発的に少量の遺物や遺構が発見されているのみで、旧石器時代に引き続き、居住空間としては適さない環境下にあったと考えられる。

扇状地の縄文時代の遺跡については、概括的には唐沢山周辺や扇状地北側の丘陵およびその裾部分に早期から前期、平地部分の微高地上に中期以降の遺跡が分布する傾向が認められる。出流原小学校内遺跡(47)では、発掘調査によって早期後葉の良好な標識資料が出土している。傾城塚遺跡(23)では、時期が明確な遺物は伴っていないが、縄文早期～前期と推測される陥し穴状遺構17基が検出されており、包含層からは縄文早期から後期の土器片と、打製石斧・石鏃などの石器が出土している。随岸坊遺跡(35)や吉水遺跡(13)などでも前期黒浜式の破片が出土している。また、赤見地区の北の内遺跡(51)では、中期後半から後期前半の集落跡が確認されている。

沖積地に目を転じると、越名沼周辺では屋敷東Ⅱ遺跡(110)で燃系文明期の住居跡、上林遺跡(106)や下林遺跡(108)・エグロ遺跡(113)・松山遺跡(114)で前期の住居跡が確認されている。また、馬門南遺跡(116)では中期の袋状土坑、四ツ道北遺跡(109)では後期前半の住居跡や土坑が検出されるなど、各時期の集落が確認されている。

後期後半から晩期の遺跡は市域には少なく、周辺では出流原遺跡(47)や木郷遺跡(52)で土器片が採集されている程度である。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡は全局的に少ない傾向にある。吉水地内では一丁田遺跡(6)で中期末の細頸壺が出土しているのみである。周辺では、赤見地区に中期の再葬墓群として著名な出流原遺跡(47)が所在するほか、扇状地西側の丘陵上の随岸坊遺跡(35)、片峰B遺跡(36)などで中期の破片が採集されている。

**古墳時代** 古墳時代前期に入ると、栃木県南西部は毛野地域の中心となり、田沼扇状地南の平野部に前方後円墳、前方後方墳が築造されるようになる。主要なものとしては、前方後方墳と方墳群からなる松山古墳

(114)、前方後円墳である馬門愛宕塚古墳(115)などで、ほかに工業団地内遺跡(102)や上林II遺跡(107)では方形周溝墓が確認されている。主要な集落遺跡としては、堀米遺跡(89)、クジラ山西遺跡(101)、工業団地内遺跡(102)、新若宮遺跡(112)、馬門愛宕塚古墳に隣接する馬門南遺跡(116)、などがあげられる。

中期になると、毛野国の大首長墓である群馬県太田市に太田天神山古墳が築造され、それまでの首長墓は円墳化していく。この時期の代表的な古墳としては唐沢山の南端山麓に位置する八幡山古墳(87)、主要な集落遺跡としては、大型高環が多数出土した竪穴住居跡などが発見され大規模な集落跡と考えられる人丸神社裏遺跡(72)のほか、工業団地内遺跡(102)、若宮遺跡(111)、新若宮遺跡(112)などが確認されている。

後期に入ると、再び首長墓が上毛野・下毛野に対応する東西の2地域に分かれて群集墳が築造されるようになる。田沼扇状地の西側に接する台地上にも、トコチ山古墳(9)、五箇古墳群(69)、蓮沼古墳群(67)、四十八塚古墳群(49)、中妻古墳群(37)などの群集墳が密集して数多く造られる。寺之後遺跡の東にある藤原秀郷公墳墓として市指定史跡となっている直径24mの円墳、東明寺古墳(5)も立地などからこの時期のものとも考えられている。また、丘陵上にも鯉山古墳群(40)、陸岸坊古墳(35)などが分布する。

この時期になると集落遺跡も数多く確認されている。中期から継続する遺跡としては、人丸神社裏遺跡(72)、堀米遺跡(89)、若宮遺跡(111)などがあり、この時期から集落が開始する遺跡としては、寺之後遺跡(2)、新町遺跡(97)、住宅団地内遺跡(99)、摘田遺跡(100)のほか、古墳時代後期の住居40軒などが発掘調査確認された傾城塚遺跡(23)や、吉水駅前の土地改良工事に伴って土師器がたくさん出土した当遺跡東方400mに所在する一丁田遺跡(6)などがある。このように、田沼扇状地内でもこの時期から遺跡が数多く確認されるようになるが、いずれの遺跡も、扇状地内に島状に残る微高地上に営まれた集落跡である。この地域では古墳時代以降の散布地がいくつも確認されていることから、まだこの時期の集落跡が数多く存在している可能性が高い。なお、唐沢山ゴルフ場内(96)からは、6世紀末から7世紀初頭の埴輪窯跡12基が発見されている。

奈良・平安時代 佐野市域は、律令制下では下野国安蘇郡に含まれる。「倭名類聚抄」によれば、安蘇郡内には四つの郷が存在し、遺跡周辺に残る「小見」の地名から、現在の興聖寺城跡・寺之後遺跡付近は「麻績(おみ)郷」の推定地とされている。古墳時代に引き続き古代の集落が確認されている寺之後遺跡(2)や人丸神社裏遺跡(72)は、この「麻績郷」に属する集落である可能性が高い。麻績郷は、郷名が示すとおり、布(麻)の生産が盛んであったと推測され、編物石と考えられる棒状礫が出土する遺跡が少なくなく、寺之後遺跡をはじめ、ゴロノミヤ遺跡(105)・人丸神社裏遺跡(72)では、竪穴建物跡の床面から纏まって出土しており興味深い。一方、「安蘇郡」に属する地域とされる越名沼周辺や蘆川流域にも、馬門南遺跡(116)や工業団地内遺跡(102)、ゴロノミヤ遺跡(105)、館之前遺跡(78)といった大規模な集落が形成されるようになる。

一方、唐沢山城の東側にあたる三疊山東山麓には、律令制下で発展した一大産業遺跡群である三疊山麓窯跡群が展開する。窯跡群は6世紀後半から生産を開始していると想定されるが、発掘調査で確認された北山・八幡窯跡群は7世紀末から8世紀初頭に須恵器生産を開始しており、その後続く周辺の窯跡群と共に、県内各地へ須恵器の供給を行っている。さらに8世紀になると町屋窯跡群等で瓦の生産が始まり、下野国分寺・下野国府へ瓦を供給したことが明らかとなっている。また、北関東自動車道建設に伴い調査が行われた寂光沢窯跡では、奈良時代後半から平安時代前期(8世紀後半から9世紀前半)の窯跡3基が確認され、初期の瓦生産から須恵器生産主体へと移行する状況が明らかになっている。

寺之後遺跡(2)の集落が最も機能していた平安時代には、後に安蘇郡一帯を支配する佐野氏ゆかりの人



物として著名な藤原秀郷が下野国内で勢力を保持していたとされる時代でもある。平安時代の遺跡も、前代同様に沖積地内の狭い微高地上に集落が展開するものが多いと予測されるが、発掘調査で確認された遺跡は、寺之後遺跡のほかは、栃本西遺跡(12)、松葉遺跡(61)、蓮沼遺跡(65)、向原遺跡(68)で竪穴建物跡が数軒確認されている程度である。また、館之前遺跡(78)では寺に関連する遺物が多く出土していることから、平安末期創建と伝えられる安楽寺と関連が深い遺跡と考えられている。

中世 古代末期になると、佐野市域では藤原秀郷の子孫から別れた小山氏・足利氏の二大勢力が拮抗する。12世紀末、源平合戦を経て源氏側の小山氏は幕府の有力御家人となった一方、平家側についた足利惣領家の藤姓足利氏は滅亡してしまう。しかし、藤姓足利氏末流にあたる佐野氏は小山氏側に加担し、鎌倉御家人として現在の佐野市域を支配するようになったとされる。そのため佐野市域には、これらの有力氏族に関わる鎌倉戦国期中世城館が数多く残っている。今回発掘調査した興聖寺城(清水城)跡(1)は、唐沢に根小屋を移す前の佐野氏の館跡と考えられており、周辺には主要なものだけでも、小見城跡(8)、堀米城跡(91)、田沼城跡(18)、小中館跡(74)、鯉山城跡(39)、鳥井戸城跡(38)、阿曾沼城跡(103)、岩崎城跡、小倉城跡などが確認されている。

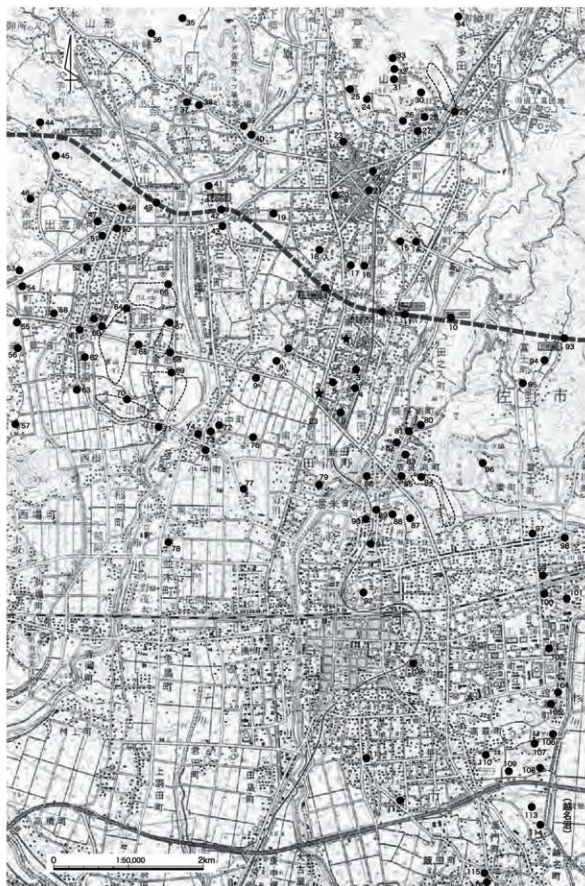
戦国期に一帯を支配した佐野氏の本拠地とされるのが、唐沢山城跡(10)である。15世紀末に佐野盛綱が築城したと伝わるが、現在までの発掘調査では、まだその年代は明らかになっていない。現在、山頂付近に見られる高石垣などの遺構は天正18年(1590)以降の改修によるものと考えられているが、改修から間もない慶長7年(1602)に、最後の城主佐野信吉が佐野城(春日岡城)(92)へ移城したことを期に廃城となったとされる。佐野城も佐野氏の改易と共に、慶長19年(1614)、僅か12年で廃城の道をたどることとなった。また、本田正純が元和2年(1616)に築いたとされる吉水城については、吉水駅前区画整理事業で消滅してしまったと考えられている。

城館以外の中世遺跡として特筆されるのが、道路状遺構と共に地下式坑、方形竪穴などが数多く確認された領城塚遺跡(23)である。道路状遺構を中心とした方形竪穴遺構・井戸・地下式竪穴などの一連の遺構群は13～14世紀にかけて成立したもので、文献史学・考古学両分野で不明な点が多いとされる中世前半期において、ムラの景観を理解するための貴重な調査事例といえる。また、小峯山遺跡(71)では中近世の墓地在調査され、板碑や五輪塔が多数出土している。

#### 【主要参考文献】

- 佐野市史編さん委員会 1975『佐野市史』資料編1 原始・古代・中世
- 田沼町 1984『田沼町史』第2巻 資料編 原始・古代・中世
- 財団法人 栃木県文化振興事業団 1983『栃木県の中世城館』
- 田沼町 1985『田沼町史』第6巻 通史編上
- 佐野市教育委員会 1990『佐野市遺跡地図』
- 栃木県教育委員会 1997『栃木県埋蔵文化財地図』
- 栃木県教育委員会・財団法人 とちぎ未来づくり財団 2012『榑崎渡戸古窯跡・榑崎中妻遺跡・栃本西遺跡・唐沢山城跡』(『栃木県埋蔵文化財調査報告』第353集)

※その他、佐野市教育委員会及び田沼町教育委員会刊行埋蔵文化財発掘調査報告書、栃木県教育委員会刊行の佐野市所在遺跡の発掘調査報告書を参考。



第4図 興聖寺城跡・寺之後遺跡周辺の遺跡（破線部は北関東自動車道）

第1表 興聖寺城跡・寺之後遺跡周辺の遺跡一覧

No.	照番号	遺跡名	種別	時代	No.	照番号	遺跡名	種別	時代
1	5206	興聖寺城(清水城)跡	城館跡	鎌倉～室町	59	5300	勝小路城跡	城館跡	奈良・平安～中世
2	5209	寺之後遺跡	集落跡	古墳～平安	60	5285	千代岡北道跡	散布地	縄文・古墳～平安
3	5208	五平前道跡	散布地	縄文	61	5287	松葉道跡	集落跡	古墳～中世
4	5239	清水城遺跡	散布地	縄文	62	5278	赤見市場古墳	古墳	古墳
5	5210	東明寺古墳	古墳	縄文	63	5271	十三法塚古墳群	古墳	古墳
6	5211	一丁田道跡	散布地	縄文～平安	64	5281	東山古墳群	古墳	古墳
7	5333	小見道跡	散布地	縄文	65	5351	蓮沼道跡	集落跡	平安
8	5332	小見城跡	城館跡	室町	66	5316	中山古墳群	古墳	古墳
9	5331	トトコチ山古墳	古墳	古墳	67	5316	蓮沼古墳群	古墳	古墳
10	5215	唐沢山城跡	城館跡	中世・戦国	68	5318	向原道跡	集落跡	平安
11	—	橋本東道跡	散布地	古墳～平安?	69	5319	五箇古墳群	古墳	古墳
12	—	橋本西道跡	集落	平安	70	5320	愛宕山古墳群	古墳	古墳
13	—	吉水道跡	散布地	縄文	71	—	小塚山道跡	墓地	中近世
14	5203	五通B道跡	散布地	縄文	72	5327	人丸神社裏道跡	集落跡	縄文・古墳～平安
15	5202	五通A道跡	散布地	縄文	73	5326	後口道跡	散布地	古墳～平安
16	5204	六通道跡	散布地	縄文	74	5325	小中館跡	城館跡	室町
17	5205	杉内道跡	散布地	縄文	75	6283	穴田道跡	散布地	奈良～平安
18	—	田沼城跡	城館跡	中世	76	3437	中瀬道跡	散布地	奈良～平安
19	5335	寺丁原古墳	古墳	古墳	77	6284	諏訪田道跡	散布地	奈良～平安
20	5200	二ツ山道跡	散布地	古墳	78	2009	館之前道跡	集落跡	奈良・平安
21	5199	一畑塚古墳	古墳	古墳	79	6392	権道寺地寺跡	寺院跡	中世
22	5198	福向久保古墳	古墳	古墳	80	5245	大田山麻跡	墓地	鎌倉～室町
23	5194	植城塚道跡	集落跡	縄文・古墳・中世	81	5244	奈良洲古墳群	古墳	古墳
24	5192	愛宕山古墳	古墳	古墳	82	5246	奈良薮道跡	散布地	古墳～平安
25	5193	大森道跡	散布地	旧石器	83	6412	中道道跡	散布地	不明
26	5195	三通道跡	散布地	縄文	84	6415	榎木古墳群	古墳	古墳
27	5196	深根道跡	散布地	古墳～平安	85	6396	下田道跡	散布地	古墳～平安
28	5197	糠子尾道跡	散布地	古墳～平安	86	6393	上通西道跡	散布地	古墳～平安
29	5093	山越古墳群	古墳	古墳	87	6411	八幡山古墳	古墳	古墳
30	5178	竜谷道跡	散布地	縄文・古墳～平安	88	6397	茶白山古墳	古墳	古墳
31	5091	源磯口道跡	散布地	古墳～平安	89	6394	榎木道跡	集落跡	弥生～平安
32	5089	菊水道跡	散布地	縄文・古墳～平安	90	6395	上通東道跡	散布地	奈良～平安
33	5090	飯沼入道跡	散布地	古墳～平安	91	6400	榎木城跡	城館跡	中世(鎌倉)
34	5087	白道跡	散布地	古墳～平安	92	6406	佐野城(春日岡城)跡	城館跡	近世
35	5049	随岸坊古墳	古墳	古墳	93	5238	行屋道跡	不明	中世?
36	5048	片峰B道跡	散布地	弥生	94	5239	ゼニゴ沢道跡	窯跡	奈良～平安
37	5056	中倉古墳群	古墳	古墳	95	5240	上富士窯跡	窯跡	奈良～平安
38	5062	鳥居戸城跡	城館跡	中世・戦国	96	—	唐沢山ゴルフ場墳輪窯跡	窯跡	古墳
39	5065	鵜山城跡	城館跡	中世・戦国	97	—	新町道跡	集落跡	古墳～中近世
40	5066	鵜山古墳群	古墳	古墳	98	12	米山古墳群	古墳	古墳
41	5073	芝宮道跡	散布地	奈良～平安	99	—	住宅団地内道跡	集落跡	古墳～平安
42	—	芝宮南道跡	散布地	古墳～平安?	100	—	楠田道跡	集落跡	古墳～平安
43	5334	十三泉塚古墳	古墳	古墳	101	—	クジラ山西道跡	集落跡	古墳～平安
44	5365	大平塚群	塚	中世	102	6497	工業団地内道跡	集落跡	縄文・古墳～中世
45	5364	八木道跡	散布地	縄文	103	6486	阿曾沼城跡	城館跡	中世(鎌倉～室町)
46	5363	龍竜寺裏道跡	散布地	縄文・奈良・平安	104	—	北の山道跡	集落跡	古墳・中近世
47	5341	出流原道跡	集落跡	縄文・弥生	105	6525	プロノミヤ道跡	集落跡	縄文・古墳～中世
48	5340	出流原白山古墳	古墳	古墳	106	6534	上林道跡	集落跡	旧石器
49	5339	四十八塚古墳群	古墳	古墳	107	6533	上林日道跡	集落跡	古墳・縄文
50	5344	宿西2号墳	古墳	古墳	108	6536	下林道跡	集落跡	旧石器・縄文
51	5343	北の内道跡	集落跡	縄文・古墳～平安	109	6535	四ノ道北道跡	集落跡	旧石器・縄文
52	5305	ドー平道跡	散布地	縄文・古墳～平安	110	6537	屋敷東日道跡	集落跡	縄文
53	5357	鶴崎古墳群	古墳	古墳	111	6391	若宮東道跡	集落跡	縄文・古墳～中世
54	5356	清明塚古墳	古墳	古墳	112	—	新若宮道跡	集落跡	古墳・平安・中近世
55	5263	町屋古墳群	古墳	古墳	113	6557	エゾロ道跡	集落跡	旧石器・縄文・古墳・中世
56	5265	八長寺庵寺	寺院跡	中世	114	6585	松山道跡	窯跡	縄文・古墳
57	5268	市の沢古墳群	古墳	古墳	115	6575	馬門愛宕塚古墳	古墳	古墳
58	5287	赤見城跡	城館跡	室町	116	6576	馬門南道跡	集落跡	縄文・弥生・古墳

## 第3章 興聖寺城跡の発掘調査

### 第1節 発掘調査の概要

今回の発掘調査区は、主要地方道佐野田沼線の東側で、歩道と興聖寺城跡の西側土塁の間である。長さは約200mあるが、幅はわずか2mで、N-16°-Eの方向の細長い調査区である。また、位置的に西側土塁とほぼ並行することから、その外堀を確認することを主目的とした。

まず、興聖寺南側の運送会社部分について調査を実施した。出入口を確保し、その南北に調査区(M-1・2区)を設定した。そして、アスファルトを切断してから、重機で地山まで掘り下げ、遺構確認作業を行った。M-2区北端で堅穴を1基確認した以外は、遺構は確認されなかった。完掘後、実測図作成・写真撮影など記録をとり、安全管理上早急に埋め戻しを行った。

興聖寺の西側部分については、まず長さ2～3m、幅1～1.5mの試掘トレンチを7箇所設け(第5図)、覆土の状態や深さを人力により確認した後、状況を見て重機を使用して表土除去を行うこととした。北側の1～4トレンチには、中世から近世のものと思われる磨滅の著しい土師器の小皿や内耳土器、陶器片などの小破片や銭貨(寛永通寶)などが若干出土したが、現代の陶磁器類や瓦、ガラス瓶などがほとんどであったことから、昭和40年代の県道造成工事の際に、現地表から1m以上の深さまで掘削・埋め戻しが行われていることが明らかとなった。

試掘調査の結果から、遺構が確認できる面まで重機で掘り下げることとしたが、電柱や樹木・敷地の出入り、未買収箇所などの関係から、興聖寺の北側アスファルト部分の3区(9～11区)を含め11箇所の断続的な調査区を設定となった(第6図)。なお、各調査区とも、西側が側溝壁、東側が現表土下1mまで昭和40年代の県道造成工事の際の埋め戻し土で柔らかいことから、安全管理上、1.5mほどの深さで掘り下げは断念せざるをえなかった。なお、現道西側については諸条件が整った後、確認調査を実施し、その結果で対応することとなった。

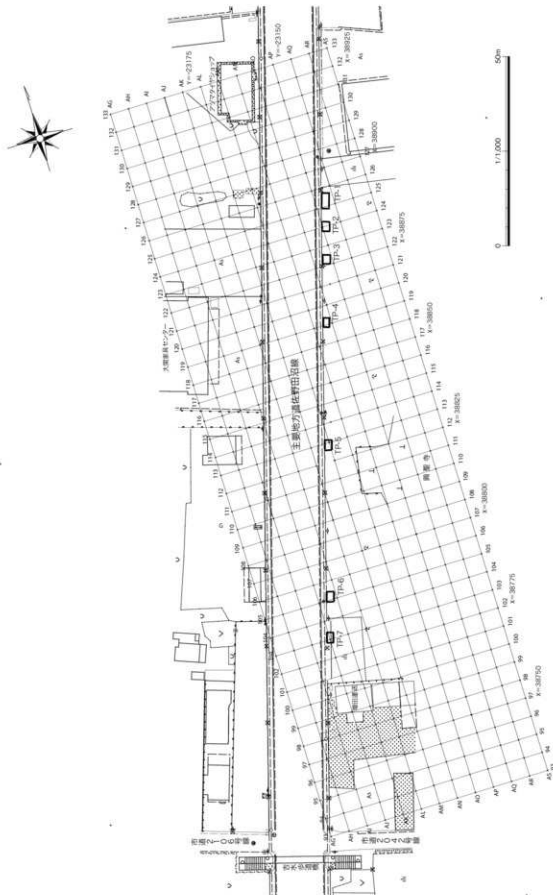
### 第2節 発見された遺構と遺物

試掘調査の結果から、今回の聖寺城跡発掘調査で実際に設定した調査区の面積は約210㎡である。南側のM-1・2区では、現地表下60～70cmの深さで、地山を確認することができた。さらに、M-2区の北端では、堅穴建物跡と思われる掘り込みを確認したが、南壁付近の僅かな調査であったため不明な点が多い。

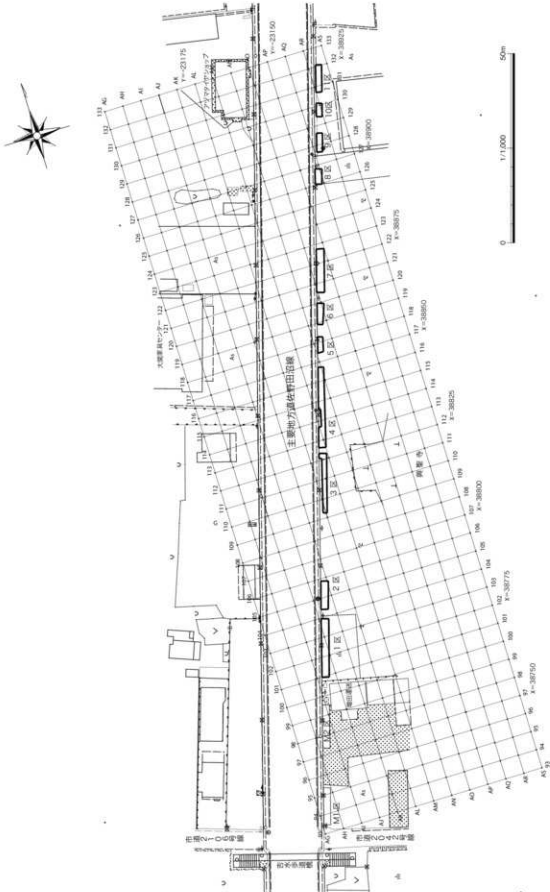
興聖寺西側の調査区では、残念ながら調査区の幅が狭く、西側は側溝、東側は埋め戻し土のため、安全面から深く掘り下げることができず、堀跡は確認できなかった。唯一、4区で表土下2.5mまで断ち割りを行い、わずかではあるが堀の覆土と思われる土層を確認した。以下、各調査区について記述を行う。

**M-1区** 最南端の調査区で、AG-93～AG-95グリッドに位置する。幅1.9m、長さ10m、調査面積約19㎡。現地表下70cmほどで地山を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

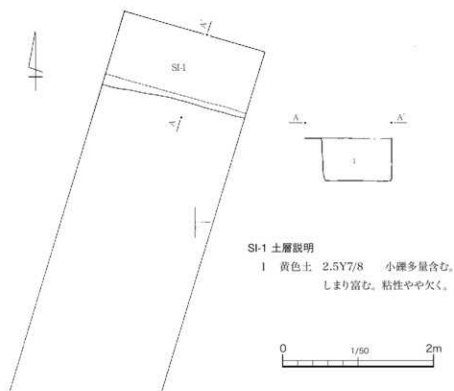
**M-2区** M-1区の北端から11m北で、AH-97～AH-99、AI-98・AI-99グリッドに位置する。幅1.9m、長さ10.5m、調査面積約20㎡。現地表下60cmほどで地山が確認された。調査区北端で、堅穴の南側一部が出土した。東西2.0m以上、南北0.5m以上で、確認面から底面までの深さは40cmであるが、断面では確認面の約15cm上から掘り込みが確認でき、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。南壁のラインは西側上端に若干の崩れがみられるが、ほぼ直線的に延びる。調査区の長軸にほぼ直交し、N-74°-Eである。



第5図 興聖寺城跡試掘調査区全体図



第6図 興隆寺城跡発掘調査区全体図



第7図 M-2区 SI-1 実測図

底面は平坦で、固く締まっている。出土遺物は、磨滅の著しい土師器小皿の体部小破片が1点出土したのみである。

遺構の極一部を調査したに過ぎず不明な点が多いが、壁の立ち上がりや深さ、底面の状況など判断すると、興聖寺城跡の外堀の南側に位置する方形竪穴遺構の可能性が考えられる。

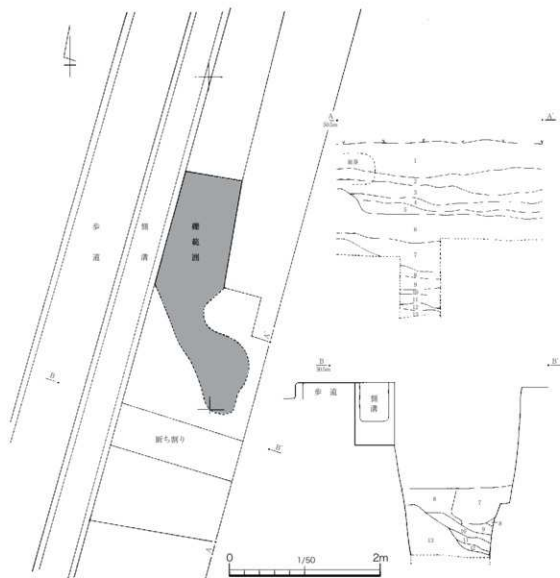
1区 興聖寺西側の最南端の調査区で、AI-100～103、AJ-102～103グリッドに位置する。幅2m、長さ15m、調査面積約30㎡。外堀の南西コーナー部分に当たると考えられるが、遺構は確認できなかった。出土遺物は縄文土器（後期）片1点、土師器小皿の体部・底部・高台部の小破片各1点を図示した。

2区 1区北端から2m北で、AJ-104・105グリッドに位置する。幅2m、長さ7.3m、調査面積約16.1㎡。遺構・遺物は確認されなかった。

3区 2区北端は未買収部分があり、幅が狭く掘り下げが難しいことから、18mほど北側から3区を設定した。AK-109、AL-109～112グリッドに位置する。幅1.1～2.0m、長さ16m、調査面積約18.4㎡。出土遺物は、図示した石鉢と思われる破片のほか、磨滅の著しい土師器小皿の小片4点、須恵器甕の胴部小片1点が出土している。

4区 3区北端から0.8m北で、AL-112・113、AM-112～116、AN-116グリッドに位置する。幅1.0～1.9m、長さ21.2m、調査面積約36.7㎡。現地表下1.5mほどの深さまで掘り下げ、南端から1.5mほど北側でほぼ同じ高さで分布する礫群を確認した。これらは第6層下面から第7層上面にかけて分布しているものである。第1～5層と異なり、第6・7層は大小礫を多数含むものしまりに富むことから、この礫群の時期を確認するため、南側に幅50cm、深さ120cmほど東西に断ち割り、土層の観察を行った。

その結果、第1～7層については昭和40年代に県道造成した際に埋め戻した土であることが明らかにな

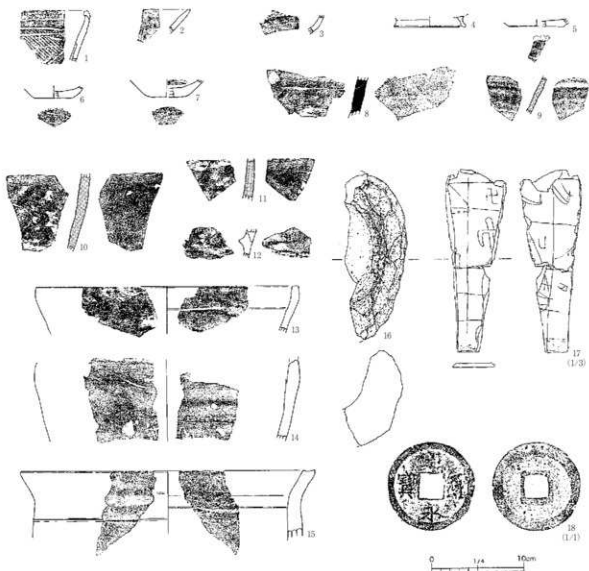


第8図 4区断ち割り実測図

## 4区土層説明

1	灰黄褐色土	10YR4/2	大小礫やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。
2	褐灰色土	10YR4/1	大小礫多量含む。しまり富む。粘性欠く。
3	にぶい黄褐色土	10YR5/3	中小礫含む。黄褐色土の再堆積。しまりやや富む。粘性やや富む。
4	灰黄褐色土	10YR4/2	大中小礫多量含む。しまりやや欠く。粘性やや富む。
5	褐灰色土	10YR4/1	大小礫多量含む。しまり欠く。粘性欠く。
6	灰黄褐色土	10YR4/2	中小礫含む。しまり富む。粘性やや富む。
7	褐灰色土	10YR4/1	大小礫多量含む。しまり富む。粘性欠く。
8	にぶい黄褐色土	10YR5/3	小礫少量含む。黄褐色砂質土層。しまり富む。粘性富む。
9	褐灰色土	10YR5/1	大礫少量含む。灰褐色砂質土層。しまりやや富む。粘性やや富む。
10	にぶい黄褐色土	10YR5/4	中小礫少量含む。黄褐色砂質土層。しまり富む。粘性やや富む。
11	灰黄褐色土	10YR5/2	中小礫少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
12	黒褐色土	10YR3/2	灰色粘土を少量斑に含む。しまりやや富む。粘性やや富む。
13	灰黄褐色土	10YR4/2	大中小礫多量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。





第9図 興聖寺城跡出土遺物

り、第6～7層の確群は現代のものであることが明らかとなった。第8～第13層については、各層が同質土で形成され、斜め方向に規則的に堆積しており、西側から堀底に向かって流れ込んだものと考えられる。堀の覆土と考えられるが、堀の底面及び側面は確認することはできなかった。第12層からは土器片が出土している。表土から270cmほど掘り下げたところで安全面からこれ以上の掘り下げは断念し、断面図を作成して埋め戻しを行った。

出土遺物は小破片ばかりであるが、土師器の小皿1点、内耳土器2点、甕2点、卍などの刻線が施された薄い粘板岩製の石版1点を図示した。このほか、磨滅の著しい土師器小皿の小片10点、内耳土器の小片1点などが出土している。

5区 4区北端から4m北で、AN-117・118グリッドに位置する。幅1.3m、長さ4.1m、調査面積約5.3㎡。遺構・遺物は確認されなかった。

6区 5区北端から3m北で、AN-118・119、AO-119グリッドに位置する。幅1.5～2.0m、長さ5.6m、調査面積約9.8㎡。遺構・遺物は確認されなかった。

7区 6区北端から3m北で、AO-120～122グリッドに位置する。幅2m、長さ11.7m、調査面積約23.4㎡。遺構は確認されなかった。出土遺物は、図示した土師器小皿の小片1点のみである。

8区 7区北端から17m北で、AP-126・AQ-126グリッドに位置する。幅1.8～2.0m、長さ4.0m、調査面積約7.6㎡。遺構・遺物は確認されなかった。

9区 8区北端から4m北で、AQ-127～128グリッドに位置する。幅1.8m、長さ5.0m、調査面積約9.0㎡。外堀の北西コーナー付近と予想されるが、遺構・遺物は確認されなかった。

10区 9区北端から4m北で、AQ-129・130、AR-129・130グリッドに位置する。幅1.8m、長さ3.8m、調査面積約6.8㎡。遺構・遺物は確認されなかった。

11区 10区北端から2.5m北で、AR-130・131グリッドに位置する。幅1.8m、長さ7.5m、調査面積約11.3㎡。遺構・遺物は確認されなかった。

第2表 興聖寺城跡出土遺物観察表

番号	種別	出土区	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	縄文土器 深鉢	1区	口縁部破片	口縁部は朝顔形に開き、端部は内屈型厚する。器厚6mm、沈線と縄文単節RL(横回転)により文様(磨酒縄文)が展開。	緻密。黒色・白色細粒少量、雲母粒若干含む。良好	外面：褐色 内面：明赤褐色	後期前葉
2	土師器 小皿	4区	口縁部小破片	内外面ヨコナデ。口縁部内面炭化物付着	黒灰色細粒少量含む。良好	外面：橙色 内面：橙色	
3	土師器 小皿	1区	体部小破片	内面黒色処理?	緻密。灰色細粒少量含む。良好	外面：赤褐色 内面：黒色	全体的に磨滅
4	土師器 高台付皿	1区	高台部1/5のみ遺存	貼り付け高台(高台部剥落)。高台径7.6cm、高台高1.0cm	やや緻密。黒灰色細粒少量含む。やや不	外面：明赤褐色 内面：褐色	磨滅顕著、反転 復原
5	土師器 小皿	7区	底部小破片	推定底径5.2cm、底面回転糸切り	緻密。灰色・赤色細粒少量含む。良好	外面：淡褐色 内面：淡褐色	全体的に磨滅、反 転復原
6	土師器 小皿	1区	底部1/4のみ遺存	推定底径4.6cm、底面ヘラナデ	緻密。灰色・赤色細粒少量含む。良好	外面：橙色 内面：褐色	磨滅顕著、反転 復原
7	土師器 小皿	試掘 4区	底部破片	推定底径4.2cm、内面ヘラミガキ?	緻密。黒灰色細粒多量含む。良好	外面：黒褐色 内面：黒褐色	磨滅顕著、反転 復原
8	須恵器 壺	3区	胴部破片	内面：ヘラナデ、ナデ。2～2.5cmの間隔で横位の粘土紐接合痕が2条。外面：ヘラナデ、ナデ、2cmの間隔で、2条の浅い並行沈線が走る。	緻密。灰色細粒・白色微粒少量含む。良好	外面：暗青灰色 内面：暗青灰色	
9	陶器 埴	試掘 1区	体部破片	内外面施釉。稚かに段を有す。	緻密。黒色・白色・微粒若干含む。良好	外面：浅黄色 内面：浅黄色	
10・11	陶器 壺	試掘 1区	胴部破片	内面：ヘラナデ、ナデ。自然軸を付着外面：ヘラナデ、ナデ	緻密。黒色・白色・微粒若干含む。良好	外面：赤褐色 内面：暗赤褐色	常滑
12	土師器 内耳瓶	4区	内耳接合部小破片	内外面ナデ整形。外面炭化物付着。	緻密。黒色細粒多量、赤色細粒若干含む。良好	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色	全体的に磨滅
13	土師器 内耳瓶	4区	口縁部破片	推定口径28cm。口縁部部向頭伏。縁部より2.5cm下の内面に段差が走る。内外面ヨコナデ・ナデ、外面剥落・付着物あり。	緻密。黒色細粒多量、赤色・白色・雲母微粒若干含む。良好	外面：暗褐色 内面：にぶい褐色	
14	土師器 壺	4区	胴部破片	外面ヘラミガキ。内面ヨコナデ	緻密。黒色細粒多量、白色・雲母微粒若干含む。良好	外面：黒褐色 内面：褐灰色	
15	土師器 壺	4区	口縁部破片	推定口径31cm。口縁部は「く」の字に外反。頸部外面に微隆起線。内面に僅かな段差が走り、やや荒れている。口縁部ヨコナデ	緻密。黒灰色細粒多量、赤色・白色細粒少量、雲母微粒若干含む。良好	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色	
16	石鉢	3区	破片	厚さは粗い敲打により整形。	石材：安山岩	褐灰色	重さ838g
17	石版	4区	破片	厚さ3mm。格子状や凸の刻線	石材：粘板岩	青黒色	破片接合
18	銭貨	試掘 4区	完存	直径2.4cm。寛永通寶		黒色	磨滅顕著

## 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

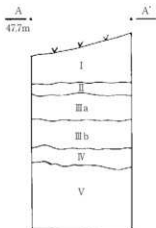
## 第1節 発掘調査の概要

寺之後遺跡の今回の調査区は、主要地方道佐野田沿線の歩道拡幅に伴うもので、調査区は幅約15mの現道（歩道を含む）の両側幅2m前後、長さ200mほどの細長いものである。遺跡全体から見れば、寺之後遺跡の北側部分に15m（現道幅）間隔で南南西から北北東方向（N-16°-E）に2m幅の2本のトレンチ調査を行ったようなものである。現道及び出入口、電柱などの諸事情から、数カ所調査ができなかった部分もあるが、東西各5区に分け発掘調査を実施し、未調査部分については工事立会等で対応することとした（第11図）。なお、東5区の発掘調査は店舗のアスファルト部分であるため、これを切断除去する必要から平成23年度に実施することとなったが、それ以外は、平成22年度に実施した。

基本土層は、東2区の南壁で記録した（第10図）。7層に分層され、第1層は表土で厚さ20～40cm、第2層は厚さ10cmほどのしまりのある層で、田畑の床土である。第3層が近世以前の堆積土層と考えられ、灰色スコリア（火山灰?）の含有量などから上下2層（第Ⅲa層：厚さ約20cm、第Ⅲb層：厚さ約20cm）に細分された。第Ⅳ層は10～15cmの厚さの漸移層で、その下の第Ⅴ層が地山である。遺構の確認は、基本的に第Ⅳ層上面まで重機で埋土を除去してから行っている。

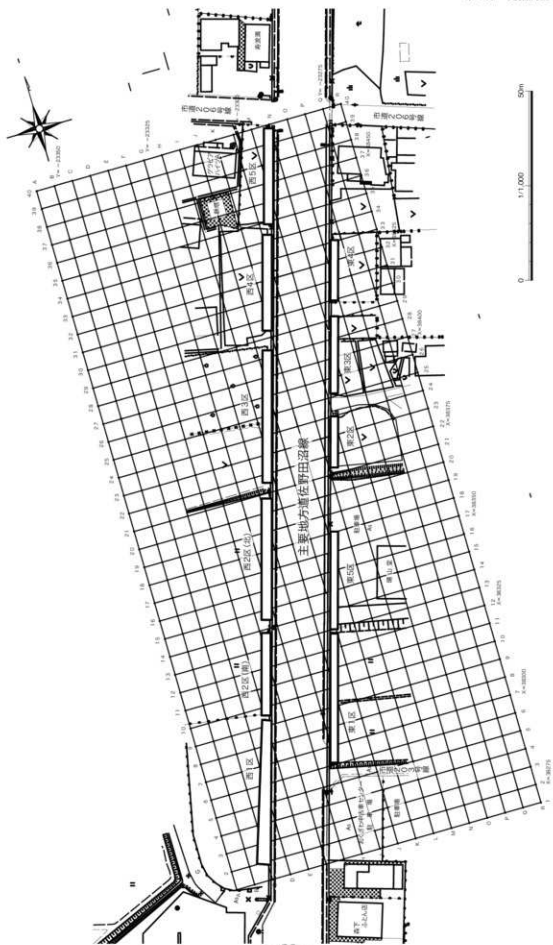
今回の寺之後遺跡の実際の調査面積は、県道西側調査区335.9㎡、同東側調査区198.7㎡、合計534.6㎡である。検出された遺構は、調査区の幅が狭いことからほとんどが遺構の一部分を調査したのみで、調査区外まで延びるものが多い。そのため、遺構の分類については困難なものも少数あるが、確認された遺構総数は272、内訳は竪穴建物跡17軒、土坑244基、溝跡6条、井戸跡1本、不明遺構4基で、各調査区の出土遺構数は第3表に示したとおりである。

竪穴建物跡は完掘できたものはないが、17軒確認されている。カマドや柱穴・壁溝・貯蔵穴などの付属施設が調査されていないものも多く、形状・覆土・床面の状況などから竪穴建物跡のコーナーや壁際の一部と判断したものも少なくない。平安時代が最も多いが、古墳時代後期から中世まで確認されている。調査面積



I	にぶい褐色土	7.5YR5/3	黄色土微粒子少量含む。しまりやや富む。粘性欠く。
II	にぶい褐色土	7.5YR5/4	黄色土微粒子やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。
Ⅲa	黒褐色土	7.5YR3/2	黄色土微粒子少量、焼土粒子・灰色スコリアやや少量、炭化物粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。
Ⅲb	黒褐色土	7.5YR3/1	灰色スコリア中量、黄色土微粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
IV	にぶい褐色土	7.5YR5/3	黄色土微粒子やや多量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
V	にぶい褐色土	7.5YR5/4	黄色土微粒子多量含む。しまり富む。粘性やや富む。

第10図 寺之後遺跡基本土層（東2区南壁）



第11図 寺之後遺跡発掘調査区全体図

第3表 寺之後遺跡調査区別遺構数

調査区	竪穴住居跡 (SI)		土坑 (SK)		溝跡 (SD)		井戸跡 (SE)		不明遺構 (SX)		遺構総数
	遺構No.	数	遺構No.	数	遺構No.	数	遺構No.	数	遺構No.	数	
西1区 (H 22 調査)	16・34・101	3	1～14・17～ 27・30～32・35～ 72・100・102～105	80(61)		0		0	33	1	84
西2区 (H 22 調査)	73・77・82・89	4	74～76・78～ 81・85・87・94	10(6)	83・86・95・ 96a・96b	5		0		0	19
西3区 (H 22 調査)	110・136・158	3	111～117・119 ～135・137～ 157・159 265	48(37)		0		0		0	51
西4区 (H 22 調査)		0	160・162～167	7(4)	161	1		0		0	8
西5区 (H 22 調査)		0	266～268	3(3)		0		0		0	3
東1区 (H 22 調査)	248	1	252～255・258～ 264	14(11)		0		0	251・256・ 257	3	18
東2区 (H 22 調査)	234・246	2	244・245・247	3(1)		0		0		0	5
東3区 (H 22 調査)	243	1	171・235～241	10(9)		0		0		0	11
東4区 (H 22 調査)		0	170～219・230～ 232	59(56)		0		0		0	59
東5区 (H 23 調査)	302～304	3	301・306・306・308 ～313	10(4)		0	307	1		0	14
合 計	17		244(192)		6		1		4		272
2001年度 工事立会	1～13	13	1～5	5		0		0	1～3	3	21
總 計	30		249(192)		6		1		7		293

※土坑数の( )内は、小土坑数。土坑Noは枝番(a・b・c)があるため、No数と遺構数は一致しない。

から考えると比較的密であり、分布は西側が27ライン、東側が26ラインを北限とする。

土坑は244基確認されているが、約8割が直径50cm以下の柱穴状の小土坑である。時期を推定できるような遺物の出土は極めて少ない。直径1m前後の円形や楕円形の土坑は、重複関係や覆土、数少ない破片資料などから中世以降のものが多くと考えられる。小土坑は194基検出されており、西1・3区、東4区にやや纏まって分布している。

溝跡6条は、いずれも上幅50～80cmで、深さは10～25cmと浅く、西側調査区(2区:5条、4区:1条)から検出されており、ほぼ東西方向に延びる。15m東側の調査区では未調査区にかかるものもあるが、延長上から溝跡は全く確認されていない。井戸跡は東5区から1本検出されている。溝跡・井戸跡とも土坑同様、出土遺物は少なく、磨滅の著しい土器片が数点出土したのみである。

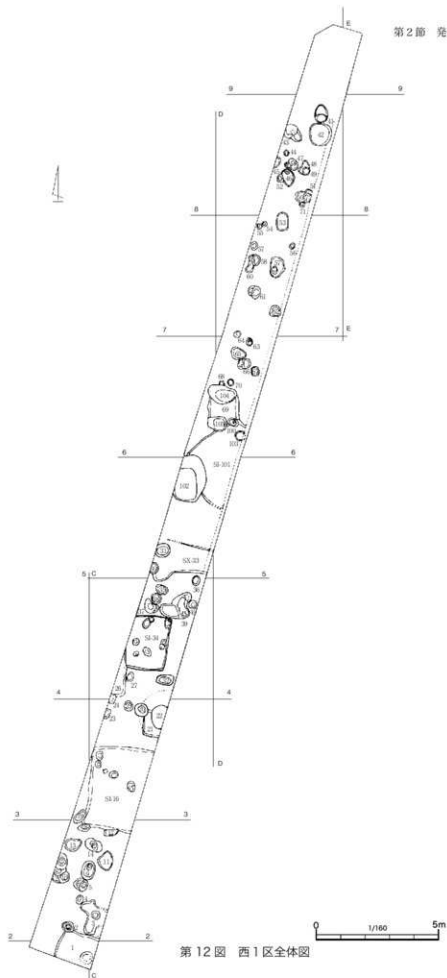
なお、本章の第3節で報告するが、平成13年度に実施した今回の調査区の南側の歩道拡幅工事の立会調査で、竪穴建物跡13軒、土坑5基、不明遺構3基を確認している。

## 第2節 発見された遺構と遺物

### 1. 西1区

【概要】西側最南端の調査区で、B-1～3、C-2～6、D-5～10、E-8・9グリッドに位置する。幅1.7～2.0m、長さ40.5m、調査面積約91.1㎡。竪穴建物跡3軒、土坑80基、不明遺構1基を検出した。

第2節 発見された遺構と遺物



3軒の竪穴建物跡は、調査区の南半から3～5mの間隔で検出されている。土坑は調査区内から万遍なく検出されている。SK-21・42・53・69・102など長軸が1mを超える土坑は楕円形や長楕円形・長方形の形状のものもあるが、多くは直径50cm以下の柱穴状の小土坑(61基)である。SK-22は全体の1/2ほどの調査であるが、本遺跡では唯一フラスコ状を呈する土坑である。SK-1・26については調査範囲が狭く明確ではないが、竪穴建物跡のコーナー部の可能性もある。

SI-16 (第13・17図、図版七)

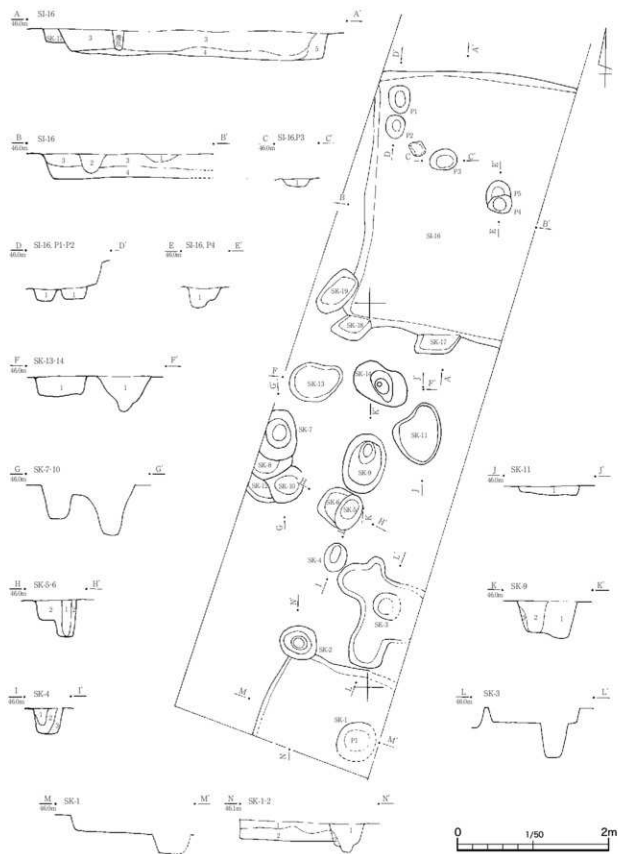
位置：大部分がC-3グリッドに位置し、わずかにB-3・4、C-2グリッドを含む。重複等：南及び西壁南側で深さ10～15cmの浅い3基の小土坑(SK-17～19)と重複する。東半及び北西コーナーは調査区外となる。平面形・規模：南北3.55m、東西は最も長い北壁で2.50m、方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約8.1㎡である。確認面からの深さは32～36cmである。主軸方向：N-10°-E 覆土：大きくは3層(第3～5層)に分層される。北壁際に壁の崩落土と考えられる黄色土ブロックを多量含む第5層が堆積した後、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む第3・4層がほぼ水平に堆積する。床面：南東部分は地山を平坦にして床面としている。北西コーナー付近で3基の小穴(P1:36×27cm、深さ16cm、P2:30×25cm、深さ19cm、P3:36×28cm、深さ9cm)、中央で重複する2基の小穴(P4:33×23cm、深さ24cm、P5:32×(20)cm、深さ17cm)が確認されている。付属施設：調査した範囲内では、柱穴・壁溝・貯蔵穴・カマド等は検出されなかった。時期的にはカマドが付設される竪穴建物跡と思われるが、北壁で確認されていないことから、東壁に付設されているものと予想される。出土遺物：図示した須恵器坏底部、土師器甕口縁部各1点のほか、須恵器小破片4点(回転糸切り坏底部2点)、磨滅の著しい土師器甕の小破片が多数出土している。時期：覆土中の破片資料のみであるが、出土遺物から9世紀中葉の竪穴建物跡と考えられる。

SI-34 (第14・17図、図版七・二四)

位置：C-4グリッドに位置する。重複等：南西でSK-26と重複するが、本遺構のほうが新しい。西側は調査区外となる。南側にSK-27・32、北側にSK-37・39などの小土坑が近接する。平面形・規模：南北2.24m、東西は1.72m以上で、方形プランと予想される。調査した面積は約3.8㎡である。確認面からの深さは15cmと浅い。主軸方向：N-9°-E 覆土：黄色土ブロック中量、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む褐色土1層である。床面：地山をほぼ平坦にして床面としている。床面から8基の小穴(P1:39×30cm、深さ21cm、P2:25×25cm、深さ16cm、P3:40×26cm、深さ27cm、P4:29×23cm、深さ9cm、P5:43×29cm、深さ22cm、P6:19×18cm、深さ12cm、P7:22×18cm、深さ15cm、P8:25×25cm、深さ13cm)が確認されている。P1とP2、P4とP7は重複し、P2・4・5は壁に接する。P5内からは天目碗の破片が出土している。出土遺物：図示した天目碗・磁器碗の底部破片、釘各1点のほか、内耳鍋の破片・須恵器片各1点、磨滅の著しい土師器(土師質土器)小破片12点が出土している。時期：小破片ではあるが、出土遺物と遺構の形状等から、中世の所謂「方形竪穴遺構」の可能性が高い。

SI-101 (第15・17図、図版九・二四)

位置：C-5・6、D-5・6グリッドに位置する。重複等：南西コーナーでSK-102、北西コーナー付近でSK-69・100・103・105と重複するが、いずれの土坑よりも本遺構が古い。東半は調査区外となる。



第13図 SI-16、SK-1～14・17～19実測図



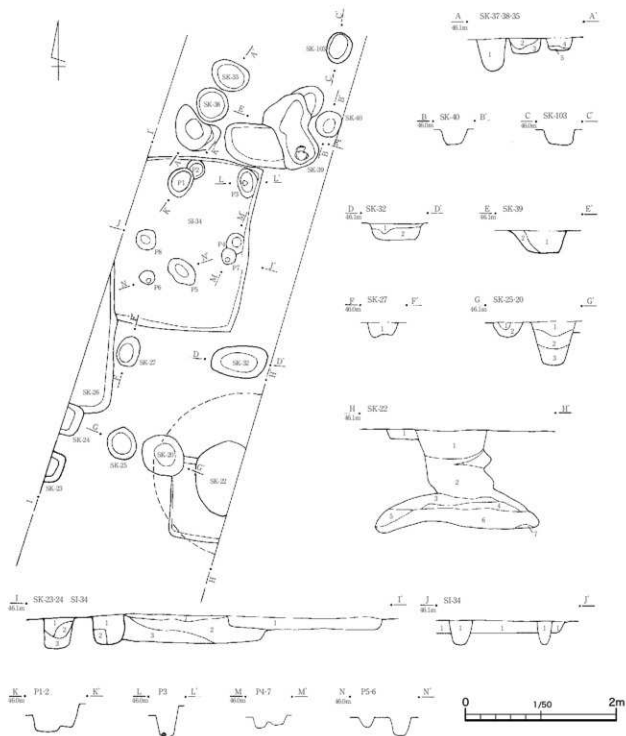
#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

##### 西1区土層説明①(第13図:SI-16, SK-1・2・4・7・9・11・13・14)

###### SI-16

1	黒褐色土	7.5YR3/2	黄色土ブロックやや多量、青灰色土粒子やや少量、青灰色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性欠く。
2	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック・小石やや少量、黄色土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性欠く。
3	灰黄褐色土	10YR4/3	黄色土粒子・黄色土ブロック中量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
4	灰褐色土	7.5YR4/2	黄色土ブロック・青灰色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
5	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック多量、黄色土微粒子・黄色土粒子・青灰色土粒子・青灰色土ブロックやや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
P-1			
1	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック・砂粒中量、黄色土粒子・焼土粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。
P-2			
1	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック・砂粒中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。
P-3			
1	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック・砂粒中量、黄色土粒子・焼土粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。
P-4			
1	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック・炭化物粒子・砂粒中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・焼土ブロック少量含む。
SK-1			
1	黒褐色土	7.5YR3/2	黄色土粒子・青灰色土粒子やや少量、焼土ブロック少量、砂粒含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	暗褐色土	7.5YR3/3	黄色土粒子・青灰色土粒子・焼土ブロックやや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-2			
1	褐色土	7.5YR4/1	黄色土粒子・青灰色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	にぶい褐色土	7.5YR5/3	黄色土ブロックやや多量、青灰色土粒子やや少量、青灰色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-4			
1	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄色土微粒子・黄色土ブロック中量含む。しまり富む。粘性やや富む。
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄色土微粒子やや多量、黄色土ブロックやや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-7			
1	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子中量、黄色土粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
2	にぶい黄褐色土	10YR5/4	黄色土微粒子多量、白色スコリアやや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
SK-9			
1	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子中量、青灰色土微粒子・炭化物粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。
2	灰黄褐色土	10YR4/2	黄色土微粒子やや多量、青灰色土微粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
3	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄色土微粒子多量含む。しまり富む。粘性やや富む。
SK-11			
1	にぶい黄褐色土	10YR5/4	黄色土微粒子中量含む。しまり富む。粘性欠く。
SK-13			
1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄色土微粒子中量、黄色土粒子・炭化物粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
SK-14			
1	褐色土	10YR4/1	黄色土粒子中量、黄色土微粒子やや少量、黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。

平面形・規模：南西コーナーが土坑に切られ、南壁がやや曲線的であるため明確ではないが、推定で南北3.3m、東西は調査範囲で2.4mである。調査した面積は約3.7m<sup>2</sup>である。確認面からの深さは、西壁では20cmあるが、南壁は7～10cmと浅い。主軸方向：N-43°W 覆土：黄色土をやや多く含む暗褐色土1層である。床面：地山を確認面から30cm前後掘り下げた後、ロームと青灰色土の混土を10cmほど平坦に埋め戻して床面としている。付属施設：埋め戻した床面は特に硬化していなかったため、調査時に掘り方まで下げてしまった。断面図からは壁溝の存在が予想される。カマドはSK-100・103断面図のSI-101の土層に、



第14図 SI-34、SK-20～27・32・35～40実測図

西1区土層説明②(第14図:SI-34、SK-20～27・35・37～39)

SI-34

I 褐色土 7.5YR4/3 黄色土ブロック中量、黄色土粒子・炭化物微粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

P-7

I 灰色土 5 Y 5/1 黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

P-8

I 灰色土 5 Y 5/1 黄色土粒子中量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

SK-20

- 1 黒褐色土 7.5YR3/2 黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- 2 黒褐色土 7.5YR3/2 黄色土ブロック・青灰色土粒子やや少量、黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- 3 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土ブロック・青灰色土粒子中量、黄色土粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

SK-21

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄色土微粒子多量含む。しまり富む。粘性欠く。

SK-22

- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土ブロック中量、黄色土粒子・白色粒子やや少量、小礫少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子やや少量、黄色土粒子・黄色土ブロック・小礫少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- 3 褐色土 7.5YR4/2 黄色土粒子中量、黄色土ブロックやや少量、焼土粒少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 4 灰色土 10YR5/1 黄色土ブロック・青灰色土ブロックやや多量、黄色土粒子・青灰色土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 5 オリーブ灰色土 7.5YR4/2 小礫・砂粒やや少量、黄色土粒子・黄色土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 6 オリーブ灰色土 7.5YR4/2 黄色土ブロック・青灰色土ブロック・小礫中量、黄色土粒子・青灰色土粒子・砂粒やや少量含む。しまりやや欠く。粘性富む。鉄分の付着が強い。
- 7 オリーブ黄色土 5YR6/4 砂粒やや多量含む。しまりやや欠く。粘性富む。鉄分の付着が強い。

SK-23

- 1 褐色土 7.5YR4/3 黄色土ブロック・砂粒中量、黄色土粒子・青灰色土ブロックやや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- 2 褐色土 7.5YR4/3 黄色土ブロック多量、砂粒中量、青灰色土粒子やや少量、青灰色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- 3 にぶい赤褐色土 5YR5/3 砂粒中量、黄色土ブロック・青灰色土ブロックやや少量、黄色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

SK-24

- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土ブロック・砂粒中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄色土粒子・黄色土ブロック多量、砂粒中量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

SK-25

- 1 黄色土粒子・焼土粒子中量、炭化物粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。

- 2 黄色土粒子やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。

SK-26

- 1 褐色土 7.5YR4/1 黄色土ブロック・青灰色土ブロック中量、黄色土粒子・青灰色土粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

- 2 褐色土 5Y5/1 黄色土ブロック・青灰色土ブロック中量、黄色土粒子・青灰色土粒子・焼土粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

- 3 にぶい褐色土 7.5YR5/4 黄色土ブロック中量、青灰色土ブロック・焼土粒子やや少量、黄色土粒子・青灰色土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

SK-27

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土粒子やや多量、炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性欠く。

SK-35

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 黄色土微粒子中量、黄色土粒子・炭化物粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。

- 2 褐色土 10YR4/1 黄色土粒中量、黄色土ブロックやや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

SK-37

- 1 黒褐色土 10YR3/1 黄色土微粒子・黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。

SK-38

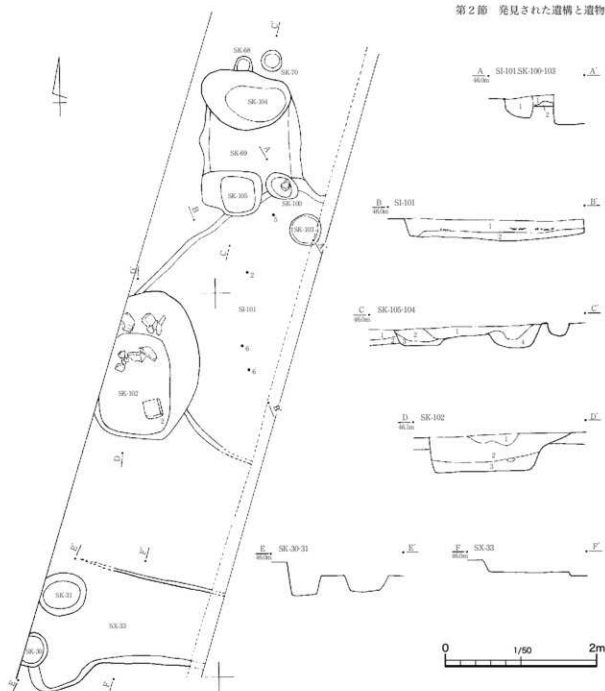
- 1 黒褐色土 10YR3/2 焼土粒子やや少量、黄色土微粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。

- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土微粒子やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。

SK-39

- 1 褐色土 7.5YR4/1 黄色土ブロック・砂粒やや多量、炭化物ブロック中量、黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

- 2 にぶい褐色土 7.5YR5/3 砂粒やや多量、黄色土ブロック・黄色粒やや少量。



第15図 SI-101、SK-30・31・68～70・100・102～105、SK-33実測図

西1区土層説明③(第15図:SI-101、SK-100-104-105)

SK-100・SI-101カマド

- |         |          |   |
|---------|----------|---|
| 1 灰色土   | 7.5YR4/1 | 黄色土ブロック・炭化物粒子・砂粒中量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 2 赤色土   | 10R5/8   | 焼土ブロック。しまり富む。粘性やや欠く。                      |
| 3 暗赤灰色土 | 10R4/1   | 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。     |

SI-101

- |          |          |  |
|----------|----------|--|
| 1 暗褐色土   | 7.5YR3/3 | 黄色土粒子やや多量、黄色土ブロック・焼土粒子中量、青灰色土粒子・炭化物粒子やや少量、焼土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 2 にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・青灰色土粒子・青灰色土ブロックやや多量、焼土粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |

SK-102

- |        |          |   |
|--------|----------|---|
| 1 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 砂粒やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。                           |
| 2 褐色土  | 7.5YR4/3 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・炭化ブロック・砂粒やや少量、焼土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |

#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

3	にぶい褐色土	7.5YR5/3	黄色土ブロックやや多量、砂粒中量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-104・105			
1	灰褐色土	7.5YR5/2	黄色土ブロック中量、黄色土粒子・焼土粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
2	にぶい褐色土	7.5YR5/4	黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子やや少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
3	にぶい褐色土	7.5YR5/3	黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、青灰色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
4	褐灰色土	7.5YR4/1	青灰色土粒子中量、黄色土粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。

焼土ブロックの層や粘土ブロックを多量含む層が認められること、調査区境の北壁がやや突出することから、北壁の北西コーナー寄りにカマドが付設されていたものと考えられる。出土遺物：床面直上から破片が出土しているが、1/2以上遺存しているものはない。土師器環4点、甕の胴部から底部の破片2点を図示した。他に土師器甕の小破片が多数出土している。時期：出土した環などの特徴から7世紀後半に比定されよう。

#### SK-1 (第13図)

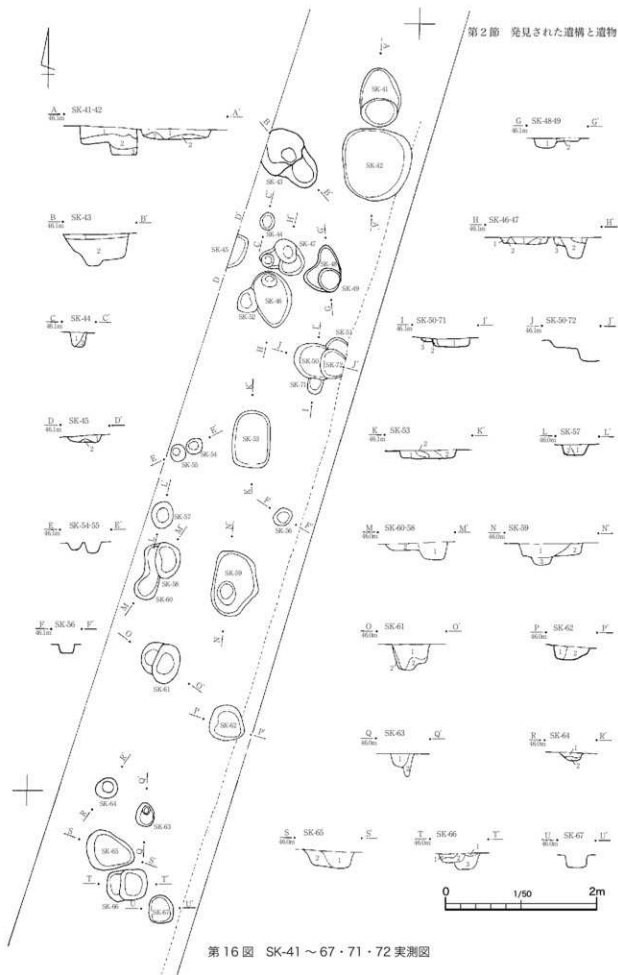
位置：B-1・2、C-1・2グリッドに位置する。調査区外へ延び、大半はB-1・C-1グリッドに含まれる。重複等：北西コーナーで柱穴状のSK-2と重複するが、本遺構の方が古い。北側には近接してSK-3が位置する。平面形・規模：北西コーナー部と考えられ、東西1.38m、南北1.08m、約1.5㎡を調査した。確認面からの深さは20～24cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方向：N-28°-E 覆土：ほぼ水平な2層に分層されたが、共に均一性が高い。床面：地山を平坦にして床面としており、中央(南東)に向かって若干深くなる。北西コーナーから1mほど内側の床面で、直径約50cm、深さ21cmの小土坑を確認した。出土遺物：覆土中から土師器甕の胴部・須恵器環の高台部と体部の小破片各1点が出土したのみである。時期：調査した面積が少ないため土坑として扱うが、壁に立ち上がり、覆土の状況、出土遺物などから、古代の竪穴建物跡の可能性もある。

#### SK-22 (第14図)

位置：C-3・4グリッドに位置する。東半は調査区外となる。重複等：南側上面でSK-21と重複する。本土坑が古い。近接して西側にSK-20・25、北側にSK-32が位置する。平面形・規模：開口部径が南北で0.96m(東西0.55m調査)、底径が南北2.15m(東西1.10m調査)で、いずれもほぼ円形を呈すると思われる。確認面からの深さは1.28mで、北側の頭部で壁の崩落が認められるが、開口部から80cmほど円筒状に掘り込んだ後、大きくオーバーハングする所謂「フラスコ状土坑」の形態を呈する。底径は開口部径の2倍以上ある。覆土：7層に分層されたが、第4層に黄色土ブロックが多いのと、南側底面直上に砂層(第7層)が見られるのが特徴的である。底面：地山を平坦にしているが、ゆるやかな凹凸がみられる。出土遺物：覆土中から磨減の著しい土師器の小破片が20点ほど出土している。時期：形状は縄文時代中期のフラスコ状土坑に形状や覆土の堆積状況などは酷似するが、坑内から土師器の小破片のみしか出土していないこと、調査区内及び周辺でこの時期の遺構や遺物が確認されていないことから、時期は不明とする。

#### SK-26 (第14図、図版七)

位置：C-4グリッドに位置する。大半は西側調査区外へ延びる。重複等：南側でSK-24、北東でSI-34と重複する。SK-24・SI-34より本遺構のほうが古い。東側には近接してSK-27が位置する。平面形・規模：南東コーナー部で、東壁1.80m、南壁0.55m、約0.5㎡の面積を調査した。確認面からの深さは28cm、



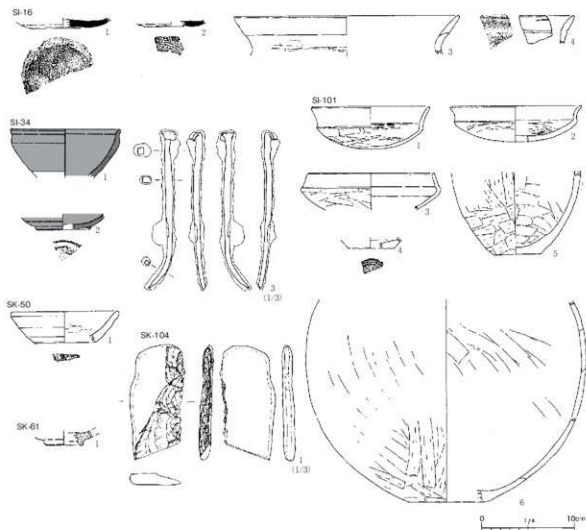
第16図 SK-41～67・71・72実測図

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

西1区土層説明④(第16図:SK-41～50・53・57～66・71)

SK-41			
1	褐色土	7.5YR4/3	黄色土ブロック多量、砂粒中量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	暗褐色土	7.5YR3/3	黄色土ブロックやや多量、砂粒中量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
3	暗褐色土	7.5YR3/3	黄色土微粒子・焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-42			
1	褐色土	7.5YR4/6	黄色土ブロック多量、炭化物粒子やや少量、焼土粒子・砂粒少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック中量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-43			
1	褐色土	7.5YR4/4	黄色土粒子多量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロックやや多量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-44			
1	黒褐色土	7.5YR3/2	砂粒多量、黄色土粒子・青灰色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	褐色土	7.5YR4/6	砂粒多量、黄色土粒子やや多量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。鉄分付着あり。
SK-45			
1	褐色土	7.5YR4/4	砂粒多量、黄色土ブロック中量、青灰色土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	明褐色土	7.5YR5/6	黄色土ブロック多量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-46			
1	にぶい褐色土	7.5YR5/4	黄色土ブロック多量、砂粒やや少量、炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや富む。
2	明褐色土	7.5YR5/6	黄色土ブロック多量含む。しまり富む。粘性やや富む。
SK-47			
1	褐色土	7.5YR4/3	黄色土ブロック多量、砂粒少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	暗褐色土	7.5YR3/3	砂粒中量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
3	明褐色土	7.5YR5/6	黄色土ブロック多量、砂粒中量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-48・49			
1	暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土粒子・砂粒やや多量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	にぶい褐色土	7.5YR5/4	砂粒やや多量、黄色土微粒子・青灰色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-50・71			
1	灰黄色土	10YR4/2	黄色土微粒子やや多量、黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや富む。
2	黒褐色土	10YR3/1	黄色土微粒子・黄色土ブロックやや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
3	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子やや少量、黄色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや富む。
SK-53			
1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄色土微粒子・黄色土ブロック・炭化物粒子やや少量、小礫少量含む。しまり富む。粘性欠く。
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄色土ブロック中量、黄色土微粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子・小礫少量含む。しまり富む。粘性欠く。
SK-57			
1	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子中量、黄色土ブロックやや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄色土微粒子多量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-58・60			
1	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子中量、黄色土ブロック・青灰色微粒子・炭化物粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
2	にぶい黄褐色土	10YR4/2	黄色土微粒子・黄色土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-59			
1	灰黄褐色土	10YR4/2	黄色土微粒子・黄色土ブロックやや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	褐色土	10YR4/1	黄色土微粒子・黄色土ブロック中量含む。しまり富む。粘性欠く。
3	灰黄色土	10YR4/2	黄色土ブロック中量、黄色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
SK-61			
1	灰黄色土	10YR4/2	黄色土ブロック中量、黄色土微粒子やや少量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
2	にぶい黄褐色土	10YR4/3	黄色土ブロックやや多量、黄色土微粒子中量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

- SK-62  
 1 灰黄色土 10YR4/2 黄色土微粒子やや少量、黄色土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土ブロック中量、黄色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- SK-63  
 1 黒褐色土 10YR3/1 黄色土微粒子・黄色土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。  
 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土微粒子・黄色土ブロック中量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや富む。
- SK-64  
 1 灰黄褐色土 10YR4/2 黄色土微粒子やや多量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。  
 2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄色土微粒子多量、炭化物粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。
- SK-65  
 1 褐灰色土 10YR4/1 黄色土微粒子中量、黄色土粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。  
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄色土微粒子やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。
- SK-66  
 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄色土ブロックやや多量、黄色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。  
 2 褐灰色土 10YR4/1 黄色土微粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 3 にぶい黄褐色土 10YR4/2 黄色土微粒子・黄色土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。



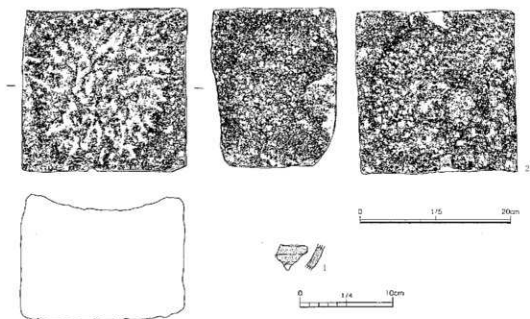
第17図 SI-16・34・101、SK-50・61・104出土遺物



壁は急傾斜で立ち上がる。主軸方向：N-3°-E 覆土：3層に分層された。南側からの流れ込みが観察される。床面：地山を平坦にして床面としている。出土遺物：覆土中から磨滅の著しい土師器製の胴部小破片24点が出土している。時期：調査した面積が少ないため土坑として扱うが、出土遺物や覆土・底面の状況などから、古代の堅穴建物跡の可能性もある。

SK-102 (第15・18図、図版九・二四)

位置：B-5グリッドに位置する。北西部は西側調査区外となる。重複等：北東でSI-101と重複する。本遺構のほうが新しい。東側には近接してSK-27が位置する。平面形・規模：確認面で南北1.90m、東西は推定で1.50mほどの楕円形であるが、底面は南北1.30m、東西0.95mの隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは24cm。壁は南側では急傾斜で立ち上がるが、北側はなだらかである。主軸方向：N-0°-E 覆土：3層に分層された。最下層の第3層に黄色土ブロックが多く含まれるのが特徴的である。床面：地山を平坦にして底面としている。出土遺物：南東隅の覆土中から五輪塔の地輪、北側の第2層から拳大



第18図 SK-102 出土遺物

第4表 SI-16 出土遺物観察表

番号	種別	寸法 (cm)	遺存状況	物	産	粘土・構成	色調	出土位置	備考
1	黒色器 坪	口径 — 底径 8.4 器高 10.0	底面1/4遺存	内面：コナナズ 外面：底面円形赤切90°角縁手持ちヘラタマシ	磨滅。黒灰色細粒多量、白色細粒微量含む、やや不純	外：黒灰色 内：黒・褐色	覆土中破片積層	磨滅顕著 反転復原	
2	黒色器 坪	口径 — 底径 9.0 器高 11.1	底面小破片	内面：コナナズ 外面：底面円形赤切90°	磨滅。黒灰色細粒多量、赤色細粒微量含む、良好	外：灰白色 内：灰白色	覆土中破片出土	磨滅顕著 反転復原	
3	土師器 壺	口径 24.0 底径 — 器高 14.1	口縁部小破片	内面：コナナズ 外面：コナナズ・コビタマシ	磨滅。黒灰色細粒多量、白色・黄白細粒微量含む、良好	外：黒・褐色 内：黒・褐色	覆土中破片積層	磨滅顕著 反転復原	
4	土師器 壺	口径 — 底径 — 器高 13.0	口縁部小破片	内面：コナナズ 外面：コナナズ、断面に沈殿が認め	磨滅。黒灰色細粒多量、白色・赤色細粒微量含む、良好	外：黒・褐色 内：黒・褐色	覆土中破片出土	磨滅顕著	

から人頭大の礫が十数個出土している。このほか、天目境の破片1点、外面が黒褐色、断面及び内面が赤褐色の内耳鍋の胴部と思われる小片が2点出土している。時期：土坑の形状や覆土の状況などから、中近世の墓塚の可能性が高い。

第5表 SI-34 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考					
1	陶磁器 高台付碗 (天目鍋)	口径 底径 器高	— — —	口縁一体部1/6 遺存	内面：黒釉 外面：口縁から体部下平まで黒釉	確認。黒色顔料少量含む。 良好	外：白色 内：褐色(体部下 方明褐色)	P1内蔵片出 土	反転覆蓋				
	陶磁器 高台付碗	口径 底径 器高			内面：黒釉 外面：黒釉					確認。黒色顔料少量含む。 良好	外：オリーブ黄色 内：オリーブ黄色	覆土中破片出 土	反転覆蓋
	鉄製小 釘	先端が曲がっているが、長さ12.4cm。頭部は最高上端を留平に押し潰して折り返した巻頭で、葉の断面はほぼ方形であることから、釘釘に「分刺される。上方で0.4×0.5cm、中央部で0.6×0.5cmで最も太くなり、穂先は0.3×0.3cmで徐々に細くなる。											

第6表 SI-101 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考	
1	土師器 杯	口径 底径 器高	— — —	1/3遺存	内面：口縁部コナダ、体部ヘウナダ 外面：口縁部コナダ、体部ヘウナダ	やや粗い。黒灰色顔料少量、白色・雲母顔料少量含む。良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	覆土中破片出 土	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：口縁部コナダ、体部ヘウナダ 外面：口縁部コナダ、体部ヘウナダ				
2	土師器 杯	口径 底径 器高	— — —	1/3遺存	内面：口縁部コナダ、体部ヘウナダ 外面：口縁部コナダ、体部ヘウナダ	やや粗い。黒灰色顔料少量、白色・雲母顔料少量含む。良好	外：白っぽい褐色 内：褐色	中央北西寄り 覆土中破片出 土	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：黒色焼成 外面：口縁部手持ちヘウナダ				
4	土師器 杯	口径 底径 器高	— — —	底面1/6遺存	内面：ナダ 外面：底面(短軸方向)	確認。黒灰色顔料少量、白色・雲母顔料少量含む。良好	外：黄褐色 内：黄褐色	覆土中破片出 土	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：ヘウナダ・ナダ 外面：ヘウナダ・ナダ				
5	土師器 甕	口径 底径 器高	— — —	底面から胴部 下平のみ遺存	内面：ヘウナダ・ナダ 外面：ヘウナダ・ナダ	粗い。黒灰色顔料少量、白色・赤色顔料少量含む。良好	外：赤褐色 内：白っぽい褐色	中央北西寄り 覆土中出 土	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：ヘウナダ・ナダ 外面：ヘウナダ・ナダ				
6	土師器 甕	口径 底径 器高	— — —	底面から胴部 中央1/4遺存	内面：ヘウナダ・ナダ 外面：ヘウナダ・ナダ	確認。黒灰色顔料少量、白色・雲母顔料少量含む。良好	外：明赤褐色 内：褐色	中央南寄り 覆土中破片接合 部分にのみ	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：ヘウナダ・コナダ 外面：ヘウナダ・コナダ				

第7表 SK-50 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考	
1	土師器 杯	口径 底径 器高	— — —	体部1/6遺存	内面：ヘウナダ・コナダ 外面：ヘウナダ・コナダ	確認。黒灰色・赤色顔料少量、白色・雲母顔料少量含む。やや不良	外：白っぽい黄褐色 内：白っぽい黄褐色	覆土中破片出 土	明転覆蓋 反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：ヘウナダ・コナダ 外面：ヘウナダ・コナダ				

第8表 SK-61 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考					
1	青 磁 高台付碗	口径 底径 器高	— — —	高台部破片	内面：黒釉 外面：黒釉	確認。黒色顔料少量含む。 良好	外：明褐色 内：明褐色 底：灰白色	覆土中破片出 土	反転覆蓋				
		口径 底径 器高			内面：黒釉 外面：黒釉					確認。黒色顔料少量含む。 良好	外：明褐色 内：明褐色 底：灰白色	覆土中破片出 土	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：黒釉 外面：黒釉					確認。黒色顔料少量含む。 良好	外：明褐色 内：明褐色 底：灰白色	覆土中破片出 土	反転覆蓋

第9表 SK-102 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考	
1	陶 器 高台付碗 (天目鍋)	口径 底径 器高	— — —	体部破片	内面：黒釉 外面：体部下平黒釉	確認。黒色顔料少量含む。 やや不良	外：黒色、灰褐色 内：オリーブ褐色	覆土中破片出 土	反転覆蓋
		口径 底径 器高			内面：黒釉 外面：体部下平黒釉				
2	石製品 瓦輪部	径 厚さ	— —	1/3環遺存	地輪。上面は木軸を受けるため、環行部分にのみ高直さ(8cm、高さ2cmほど)を設け、上面は膠着により滑らかに仕上げられる。中心部はのみみられる立方体。	石材：凝灰岩	灰白色	土坑南側 覆土中破片出 土	重量1,000g
		径 厚さ			地輪。上面は木軸を受けるため、環行部分にのみ高直さ(8cm、高さ2cmほど)を設け、上面は膠着により滑らかに仕上げられる。中心部はのみみられる立方体。				

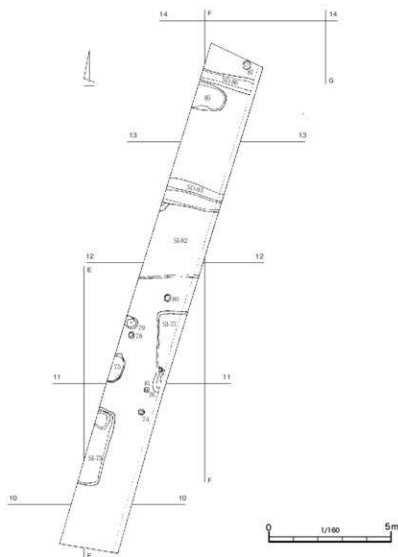
第10表 SK-104 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考				
1	石製 板蓋	長さ 幅 厚さ	— — —	存在	縦長い扁平石を削り、側面に溝を掘り方形を形成する。	石材：頁岩	灰灰色	覆土中出土				
		長さ 幅 厚さ			縦長い扁平石を削り、側面に溝を掘り方形を形成する。					石材：頁岩	灰灰色	覆土中出土
		長さ 幅 厚さ			縦長い扁平石を削り、側面に溝を掘り方形を形成する。					石材：頁岩	灰灰色	覆土中出土

## 2. 西2区

【概要】 西1区の北側の調査区で、D-9・10、E-9～14、F-12～16、G-15～20、H-19・20グリッドに位置する。諸事情で中央4.4mほど調査を行っていない部分がある。南側は幅2.4m、長さ21.2m、調査面積約50.9㎡。北側は幅2.0m、長さ32.0m、面積約64.0㎡。竪穴建物跡4軒、土坑10基、溝跡5条を検出した。

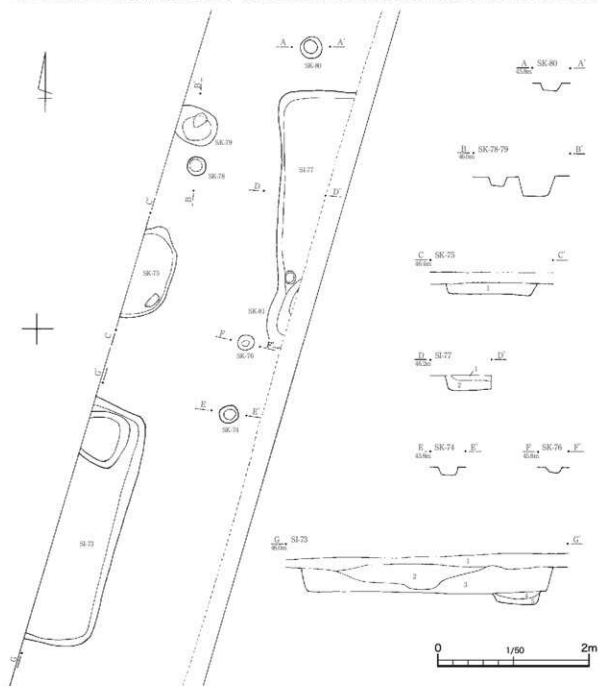
遺構は北半に向かうにしたがい密度が低くなり、G-18グリッド以北では遺構は検出されなかった。竪穴建物跡は調査区の南半から2～3mの間隔で3軒検出されている。北側のSI-89については、底面の状況から竪穴建物跡と判断した。土坑は少なく、長径1mを超える楕円形や長楕円形ものは、いずれも調査区外へ延び完掘ができなかった。小土坑5基はいずれも南側からで、まばらに検出されている。溝跡は南側で2条、北側で3条確認されている。南側の2条(SD-83・86)は幅約5mの間隔で並行して確認されており、北側も3条の溝(SD-95・96a・96b)が近接ないしは重複するものの、ほぼ並行して確認されている。小破片ではあるが、出土遺物から中世以降の溝跡と考えられる。



第19図 西2区(南)全体図

## SI-73 (第20・26図、図版一〇・二四)

位置：E-10グリッドで検出された。西半は調査区外となり、D-10グリッドに含まれる。重複等：なし。北側1mにSK-75、北東2mほどにSI-77が位置する。平面形・規模：南北3.75m、東西は0.8mほど調査したに過ぎないが、方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約2.6㎡である。確認面からの深さは32cmである。主軸方向：N-14°-E 床面：地山を平坦にして床面としている。覆土：2層に分層された。自然堆積と思われる。付属施設：北東コーナーの床面で南北71cm、東西60cm以上、床面からの深さ13～18cmの略円形の土坑が確認されている。底面は平坦であるが南側が若干浅く、壁はなだらかである。位置や覆土から貯蔵穴の可能性もあるが、調査範囲が狭いため明確でない。出土遺物：土師器の坏1点と甕の口縁部1点を図示した。他に接合しなかったが図示した甕の胴部破片を含む土師器の小破



第20図 SI-73・77、SK-74～76・78～80実測図

西2区南土層説明①(第20図:SI-73、SK-75-77)

SI-73

- |   |         |          |   |
|---|---------|----------|---|
| 1 | にぶい褐色土  | 7.5YR5/4 | 黄色土微粒子やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。基本土層第II層。                       |
| 2 | にぶい黄褐色土 | 10YR6/4  | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・焼土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。     |
| 3 | 暗褐色土    | 7.5YR3/3 | 黄色土粒子・黄色土ブロックやや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。          |
| 4 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/3  | 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土ブロックやや多量、炭化物粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。 |
| 5 | 暗褐色土    | 7.5YR3/4 | 黄色土微粒子・黄色土粒子・炭化粒子やや少量、黄色土ブロック・焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。    |

SK-75

- |   |         |         |  |
|---|---------|---------|--|
| 1 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/3 | 黄色土微粒子やや多量、青灰色土粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。 |
|---|---------|---------|--|

SK-77

- |   |      |          |  |
|---|------|----------|--|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土粒子・黄色土ブロックやや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                     |
| 2 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子・青灰色土ブロックやや少量、青灰色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |

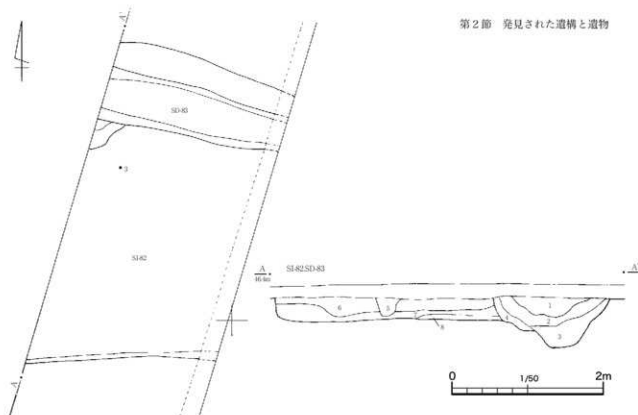
片約60点、須恵器環の小破片2点などが出土している。時期：覆土中の破片資料ではあるが、出土遺物から9世紀代の竪穴建物跡と考えられる。

SI-77(第20・26図、図版一〇・二四)

位置：E-10グリッドで検出された。重複等：南西コーナーでSK-81と重複する。平面形・規模：西壁2.65m、北壁0.95m。北西コーナーから西壁付近を調査したのみで、大半は東側調査区外へ延びる。方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約2.5㎡である。確認面からの深さは18cmである。主軸方向：N-78°-W 覆土：2層に分層された。下層に黄色土の混入が多く、レンズ状の自然堆積である。床面：地山を平坦にして床面としている。付属施設：調査範囲内では確認されなかった。出土遺物：図示した土師器環1点ほか、土師器小破片1点出土したのみである。時期：出土遺物は少ないが、図示した環の形状から10世紀代の竪穴建物跡と考えられる。

SI-82(第21・26図、図版一〇)

位置：E-11・12、F-12グリッドに位置する。重複等：北側はSD-83と重複する。本道構のほうが古い。南側1.5mに主軸方向がほぼ同じSI-77が位置する。平面形・規模：調査した範囲は南北3.10m、東西2.25mで、方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約6.9㎡である。確認面からの深さは南壁で28cmである。主軸方向：N-10°-E 覆土：3層に分層された。自然堆積で、全体的に焼土粒・炭化粒の混入が見られる。床面：地山をほぼ平坦にして床面としている。付属施設：調査した範囲内では、柱穴・壁溝・貯蔵穴等は検出されなかったが、本建物跡を切るSD-83の第4層が多量の焼土を含むことから、北壁西側にカマドが付設されていたことが予想され、浅い窪みは東側に延びないことからカマドの掘り方の痕跡と考えられる。出土遺物：須恵器環の底部1点、土師器甕の胴部から底部2点を図化した。土師器甕は同一破片と思われるものが多数出土しているが、底部や口縁部(小破片のため未図化)とは直接接合しなかった。このほか、須恵器片10点、磨滅の著しい土師器片が45点ほど出土している。時期：小破片ではあるが、須恵器環及び土師器甕の破片から8世紀後葉の竪穴建物跡と考えられる。

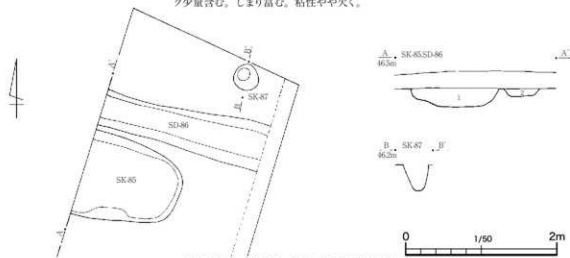


第21図 SI-82、SD-83実測図

## 西2区南土層説明②(第21図:SI-82、SD-83)

## SI-82・SD-83

- |          |          |  |
|----------|----------|--|
| 1 褐色土    | 7.5YR4/3 | 青灰色土粒子・炭化物粒子やや少量、黄色土ブロック・焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                    |
| 2 褐色土    | 7.5YR4/3 | 炭化物粒子中量、黄色土ブロックやや少量、青灰色土粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。                |
| 3 にぶい褐色土 | 7.5YR5/3 | 黄色土ブロック・砂粒中量、焼土粒子やや少量、焼土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。               |
| 4 褐色土    | 7.5YR4/4 | 焼土粒子・焼土ブロックやや多量、黄色土ブロック・砂粒中量、炭化物粒子・炭化物ブロックやや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。     |
| 5 暗褐色土   | 7.5YR3/3 | 焼土粒子・焼土ブロック中量、炭化物粒子・炭化物ブロックやや少量、黄色土ブロック・青灰色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 6 褐色土    | 7.5YR4/4 | 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・砂粒やや少量、黄色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                 |
| 7 暗褐色土   | 7.5YR3/3 | 焼土粒子やや少量、焼土ブロック・炭化物粒子・砂粒少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                         |
| 8 にぶい褐色土 | 7.5YR5/3 | 黄色土ブロック中量、青灰色土ブロック・砂粒やや少量、焼土ブロック・炭化物粒子ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。       |



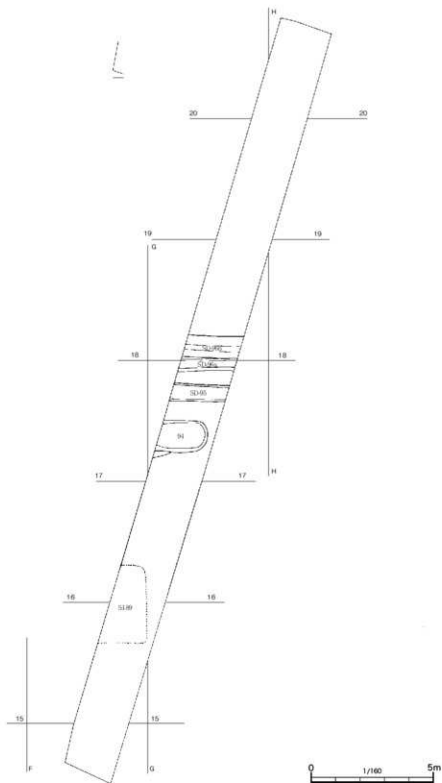
第22図 SK-85・87、SD-86実測図

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

西2区南土層説明③ (第22図:SK-85、SD-86)

SK-85・SD-86

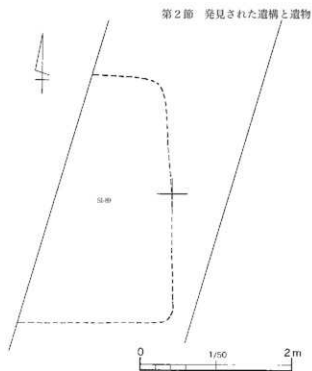
- 1 にぶい黄褐色土 10YR6/4 黄色土微粒子多量、焼土粒子やや少量、青灰色土微粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄色土微粒子やや多量、青灰色土微粒子・焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。



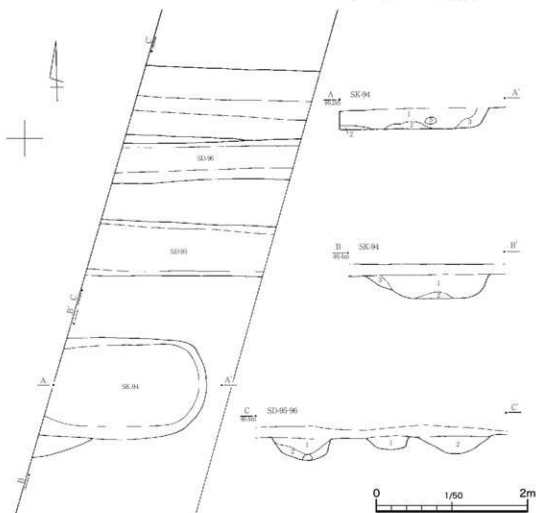
第23図 西2区(北)全体図

SI-89 (第24図)

位置：C-3グリッドに位置し、西半は調査区外となる。重複等：なし。平面形・規模：南北3.24 m、東西は最も長い南壁で1.95 m。方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約4.3㎡である。主軸方向：N-0° 床面：地山を平坦にして床面としている。方形で中央がわずかに窪み、周辺に比べ硬化していることから、竪穴建物跡と判断した。付属施設：なし。出土遺物：なし。時期：大きさ・形状などから古代の竪穴建物跡と考えたが、詳細は不明。



第24図 SI-89実測図



第25図 SK-94、SD-95・96実測図



西2区北土層説明 (第25図: SK-94、SD-95・96)

SK-94

- 1 ぶい黄褐色土 10YR5/3 黄色土微粒子多量、青灰色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄色土微粒子やや多量、青灰色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 3 褐灰色土 7.5YR4/4 黄色土ブロックやや多量、黄色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。

SK-95

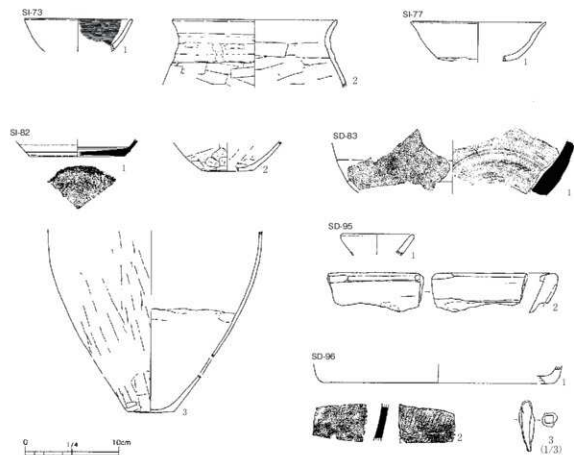
- 1 ぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土微粒子多量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。  
 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄色土微粒子やや多量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

SD-96a

- 1 ぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土微粒子やや多量、青灰色土粒子少量含む。しまり欠く。粘性富む。

SD-96b

- 1 ぶい黄褐色土 10YR5/3 黄色土微粒子多量、青灰色土粒子少量含む。しまり欠く。粘性富む。



第26図 SI-73・77・82、SD-83・95・96出土遺物

第11表 SI-73出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・構成	色調	出土位置	備考
1	土師器 杯	口径 (11.3) 底径 (3.4)	口縁部小破片	内面: ヘラミダテ, 内面原色処理 外面: ココナデ	織成, 黒灰色顔料少量 白色・金雲母顔料微量含む。良好	外: 黒色 内: 明褐色	樽土中破片出土	外表面黒顔料を 反映する
2	土師器 甕	口径 (7.4) 底径 (1.5)	口縁～肩部1/4遺存	内面: 口縁部ヨコナデ, 胴部～フナダテナデ 外面: 口縁部ヨコナデ, 胴部上半ヘラミダテ	織成, 黒灰色顔料多量 白色顔料少量, 金雲母顔料微量含む。良好	外: 明赤褐色 内: 赤褐色	樽土中破片組合	反映する

第12表 SI-77出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・構成	色調	出土位置	備考
1	土師器 杯	口径 (14.4) 底径 (8.6) 器高 (4.2)	1/5遺存	内面: 原色処理小 外面: 透徹同縁半片ヘラミダテ	小今柄い。白色・黒色顔料やや多量, 白色微粒子少量含む。今中不良	外: 黒褐色 内: 明赤褐色	樽土中破片出土	内外表面黒顔料を 反映する

第13表 SI-82 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考
1	磁器器 杯	口径	—	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、遠近部削込み切り	褐色、灰白色細粒多量、 金雲母細粒散在含む、やや不長	外：暗灰色 内：灰褐色	罐土中破片出土	内面磨面顕著 反転面露
		底径	19.0					
		器高	1.8					
2	土師器 甕	口径	—	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ、底面ヘラケズリ	褐色、黒灰色細粒多量、 白色細粒少量、雲母細粒 散在含む、良好	外：赤褐色 内：暗褐色	罐土中破片結合	反転面露
		底径	13.4					
		器高	3.1					
3	土師器 甕	口径	—	内面：口縁部ココナデ、胴部ヘラナデ・ナデ 外面：口縁部ココナデ、胴部上ヘラケズリ	褐色、黒灰色細粒多量、 白色・赤色・金雲母細粒 散在含む、良好	外：橙褐色 内：赤褐色	カマド面露 土中破片結合	反転面露（底面 と胴縁部は同 個体である が、直縁接合し ない）
		底径	15.0					
		器高	1.9					

第14表 SD-83 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考
1	磁器器 皿	口径	—	内面：ロクロナデ 外面：ナデ	褐色、灰白色細粒少量、 白色細粒若干含む、良好	外：暗灰色 内：灰色	罐土中破片出土	反転面露
		底径	7.8					
		器高	0.7					

第15表 SD-95 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考
1	土師器 小皿	口径	—	内面：ナデ 外面：ナデ	褐色、黒灰色・赤色細粒 少量、白色細粒散在含む、 やや不長	外：L・I・II・III 内：I・II・III・IV	罐土中破片出土	磨面顕著 反転面露
		底径	7.8					
		器高	1.3					
2	土師器 甕	口径	—	内面：ココナデ 外面：ココナデ	褐色、黒灰色・赤色細粒 多量、黒灰色・赤色細粒 若干含む、良好	外：暗褐色 内：L・I・II・III	罐土中破片出土	磨面顕著
		底径	—					
		器高	4.1					

第16表 SD-96 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	出土位置	備考
1	土師器 内耳罐	口径	—	内面：ナデ 外面：ナデ	やや粗い、灰色細粒・黒色 細粒多量、白色細粒、 雲母微量散在含む、良好	外：暗褐色 内：L・I・II・III	罐土中破片出土	磨面顕著
		底径	15.0					
		器高	3.6					
2	磁器器 甕	口径	—	内面：ナデ 外面：平行タテキ・ナデ	褐色、黒灰色・白色細粒 多量、白色細粒若干含む、 良好	外：暗灰色 内：暗褐色	罐土中破片出土	
		底径	—					
		器高	4.0					
3	敷瓦品 割	割の先端部で、若干曲がっている。4.1cmほど残存。裏は上方で9.6×9.6cmの方形で、惣先は総へりに縁むら。						

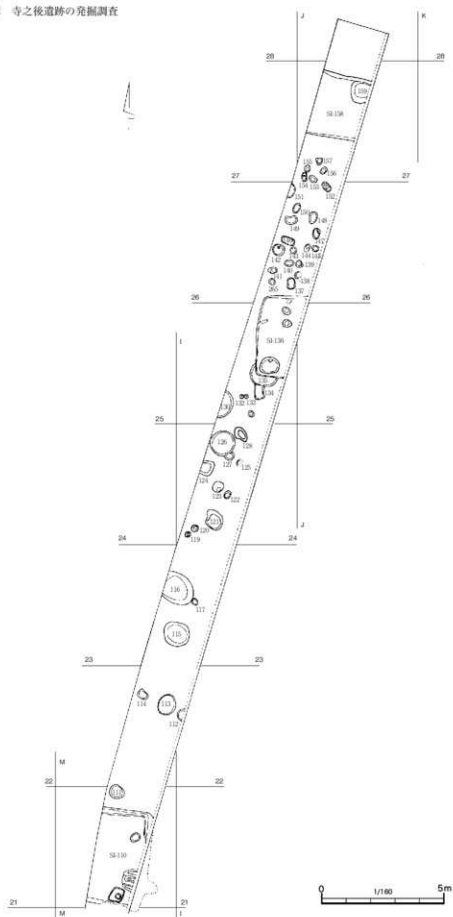
### 3. 西3区

【概要】 西2区の北側の調査区である。H-21～24、I-21～27、J-25～28グリッドに位置する。幅1.9～2.2m、長さ37.7m、調査面積約82.3㎡。竪穴建物跡3軒。土坑48基を検出した。

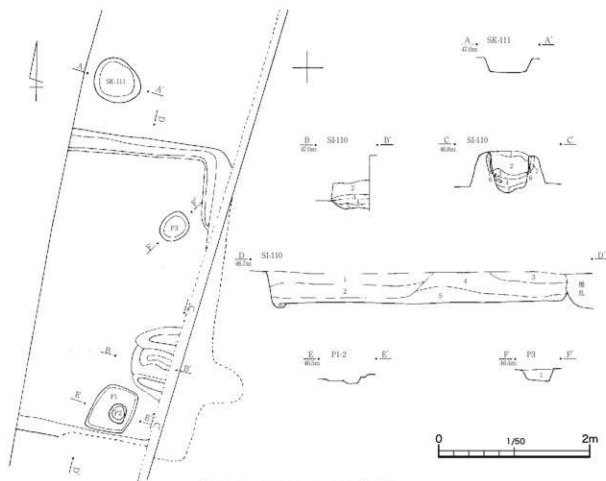
竪穴建物跡は調査区南端で1軒、中央より北側で2軒検出している。南端のSI-110はカマドが確認されており、中央のSI-136と主軸方向をほぼ同じくする。土坑は直径1m前後の円形や楕円形ものが、中央から南側で検出されている。小土坑はSI-136の南北に分布しており、北側のほうが密度は高い。いずれの土坑も遺物の出土は少なく、SK-141・151で磨滅の著しい縄文土器片が出土している以外は、古代以降の土器の小破片がわずかに混入している程度である。

#### SI-110（第28・32図、図版二）

位置：H-21グリッドに位置する。西半および東壁の南側（カマドの大半）は調査区外となる。重複等：なし。平面形・規模：調査した範囲は南北4.00m、東西2.00mで、方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約7.6㎡である。確認面からの深さは南壁で28cmである。主軸方向：N-10°E 覆土：7層に分層された。全体的に黄色土ブロックの混入が多く見られる第4～6層は自然堆積、第1～3層は人為的な埋め戻しと思われる。第7層は壁溝中の覆土である。床面：地山をほぼ平坦にして床面としている。付属施設：北壁および東壁際に沿って幅15～20cm、深さ3～5cmの壁溝が巡る。南壁際では確認できな



第27図 西3区全体図



第28図 SI-110、SK-111 実測図

## 西3区土層説明①(第28図:S I-110)

## SI-110

- |   |         |          |   |
|---|---------|----------|---|
| 1 | 暗褐色土    | 7.5YR3/4 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。              |
| 2 | 灰褐色土    | 7.5YR4/2 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子中量、焼土粒子やや少量、焼土ブロック・炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 3 | 暗褐色土    | 7.5YR3/4 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。              |
| 4 | にぶい黄褐色土 | 10YR6/4  | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・焼土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。           |
| 5 | にぶい黄褐色土 | 10YR7/4  | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子・焼土ブロックやや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。             |
| 6 | 褐色土     | 7.5YR4/3 | 黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子やや少量、黄色土少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                  |

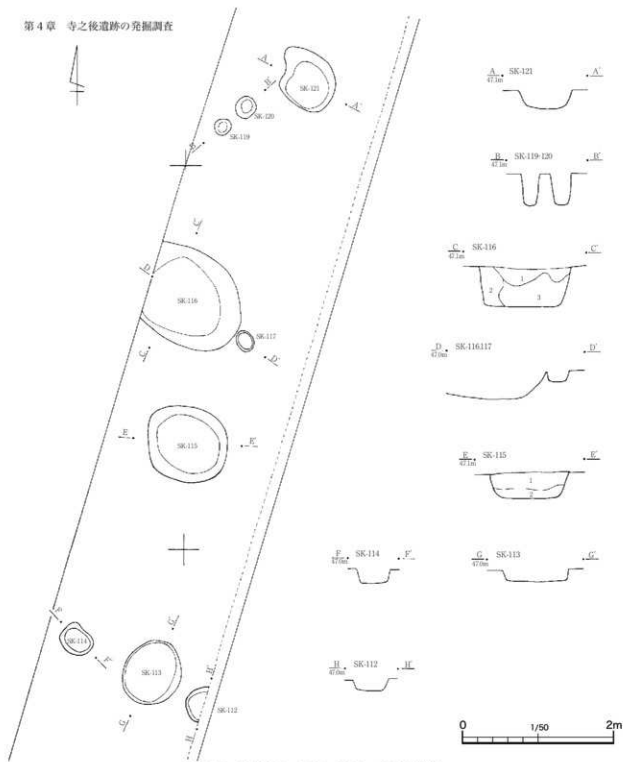
## カマド

- |   |         |          |  |
|---|---------|----------|--|
| 1 | 灰黄褐色土   | 10YR4/2  | 黄色土微粒子やや多量、白色スコリアやや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 2 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3  | 黄色土微粒子やや多量、焼土粒子やや少量、炭化物粒子・白色スコリア少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 3 | にぶい赤褐色土 | 2.5YR4/4 | 焼土粒子多量、焼土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                   |
| 4 | 灰赤色土    | 2.5YR4/2 | 焼土粒子中量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                             |
| 5 | にぶい赤褐色土 | 2.5YR4/3 | 焼土粒子やや多量、焼土微粒子中量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。                 |
| 6 | 橙色土     | 2.5YR7/8 | 焼土微粒子多量含む。しまり富む。粘性やや欠く。地山が焼土化したもの。                 |
| 7 | 明赤褐色土   | 2.5YR5/6 | 焼土微粒子多量含む。しまり富む。粘性やや欠く。地山が焼土化したもの。                 |

## P-1

- |   |      |          |                                      |
|---|------|----------|--------------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・砂粒やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
|---|------|----------|--------------------------------------|

第4章 寺之後遺跡の発掘調査



第29図 SK-112～117・119～121実測図

西3区土層説明②(第29図:SK-115・116)

SK-115

1 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土粒子・砂粒やや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

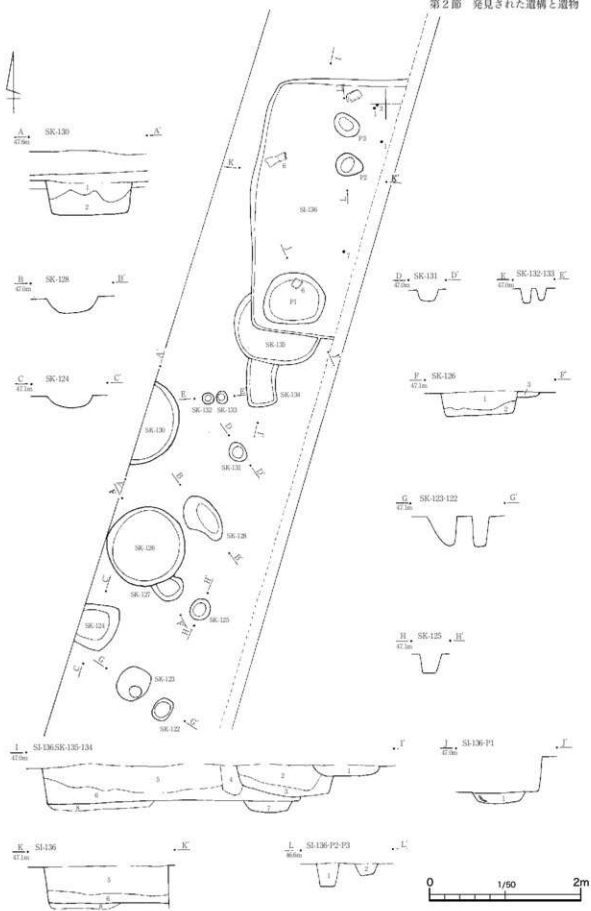
SK-116

2 黒褐色土 7.5YR2/2 黄色土粒子・黄色土ブロック・炭化物粒子・砂粒やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

1 褐色土 7.5YR4/3 黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子やや少量、黄色粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

2 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

3 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。



第30図 SI-136、SK-122～128・130～135 実測図

#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

##### 西3区土層説明③(第30図:SI-136・158, SK-126・127・134・135)

###### SK-126・127

- |   |      |          |   |
|---|------|----------|---|
| 1 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 砂粒中量、黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。SK-126 |
| 2 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 砂粒中量、黄色土粒子・焼土粒子やや少量、黄色土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。SK-127 |
| 3 | 褐色土  | 7.5YR4/4 | 砂粒中量、黄色土粒子・黄色土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。                |

###### SK-130

- |   |      |          |   |
|---|------|----------|---|
| 1 | 褐色土  | 7.5YR4/3 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化ブロックやや少量、焼土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 2 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土粒子・黄色土ブロックやや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。            |

###### SI-136, SK-134・135

- |   |      |          |   |
|---|------|----------|---|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 砂粒中量、青灰色土粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。SK-134                        |
| 2 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子・焼土粒子・白色粒子やや少量含む。しまりやや欠く。粘性欠く。SK-135               |
| 3 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子やや少量含む。しまりやや欠く。粘性欠く。                             |
| 4 | 褐色土  | 7.5YR4/4 | 白色粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。SI-136                       |
| 5 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子・焼土粒子・白色粒子やや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。             |
| 6 | 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・白色粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。               |
| 7 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子やや少量、黄色土粒子・焼土粒子・炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |

###### P-1

- |   |      |          |   |
|---|------|----------|---|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子やや少量、黄色土粒子・焼土粒子・炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
|---|------|----------|---|

###### P-2

- |   |      |          |  |
|---|------|----------|--|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 黄色土ブロック中量、白色粒子やや少量、黄色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
|---|------|----------|--|

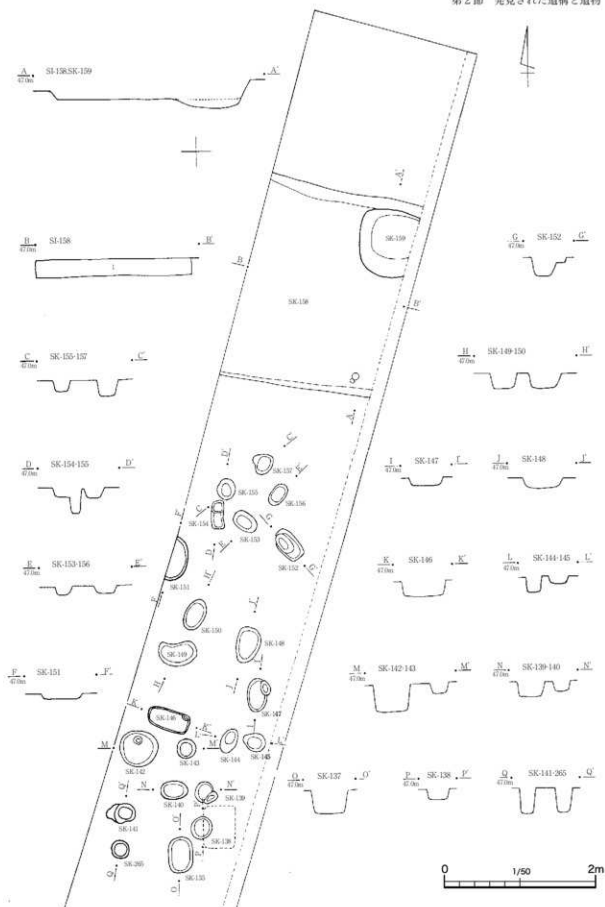
###### P-3

- |   |      |          |  |
|---|------|----------|--|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック・白色粒子やや少量、黄色土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。 |
|---|------|----------|--|

た。カマドは東壁に付設される。中心よりかなり南側に寄っており、右袖から南東コーナーまでは50cmほどの距離しかない。焚口部の両袖を確認したのみで、掛け口・煙道部など大半は調査区外となる。主軸方向はE-15°-Sで、東壁に対して直角方向よりは南側に若干ふれている。袖は地山を掘り残しており、両袖幅98cm、確認された右袖長40cm、左袖長52cmである。焚口は床面の高さより5～8cm浅く掘り込んでいる。第2・3層は天井に由来する層で、第3層は天井内面、第6・7層は袖の内面が焼土化した層である。カマドの南東床面で浅い方形の掘り込み(P1:65×53cm、深さ3cm)を確認している。また、この掘り込みの中と北東コーナー寄りで小穴(P2:24×20cm、深さ5cm、P3:40×33cm、深さ13cm)を確認している。出土遺物:小破片ではあるが、須臾器の坏・蓋、土師器甕の口縁部各1点を図化した。このほか、覆土中から須臾器坏の小破片1点、磨滅の著しい土師器甕の小破片が15点ほど出土している。時期:小破片ではあるが、覆土中の遺物から9世紀後半の堅穴建物跡と考えられる。

##### SI-136(第30・32図、図版一三・二五)

位置:I-25・26、J-25・26グリッドに位置する。東側1/2以上は調査区外となる。重複等:南西コーナーでSK-135と重複する。本遺構のほうが古い。平面形・規模:調査した範囲は南北3.36m、東西は北壁で1.65m、南壁で1.05m、方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約4.6㎡である。確認面からの深さは北壁で51cm、南壁で43cmである。主軸方向:N-2°-E 覆土:2層に分層された。レン



第31図 SI-158、SK-137～159・159・265実測図



西3区土層説明④ (第31図: SI-158, SK-159)

SI-158

- 1 暗褐色土 7.5YR3/4 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

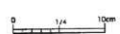
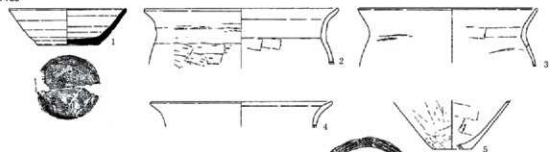
SK-159

- 1 にふい黄褐色土 10YR5/4 黄色土ブロックやや多量、黄色土微粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。

SI-110



SI-136

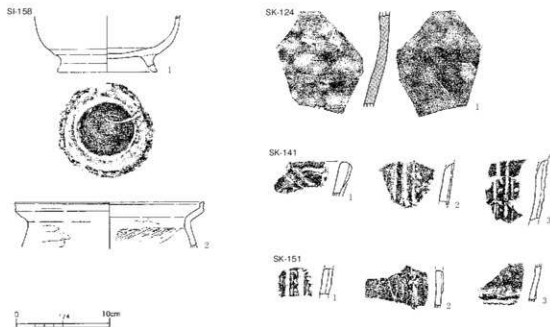


第32図 SI-110・136 出土遺物

ズ状の自然堆積である。床面：地山をほぼ平坦にして床面としている。セクションから判断すると、北西コーナーには浅い掘り方が存在したかもしれない。付属施設：南西コーナーから77×66cm、床面からの深さ16cmの楕円形の皿状の土坑が検出されている。また、北側から2基の小穴（P1：35×27cm、深さ28cm、P2：36×30cm、深さ14cm）が検出されている。出土遺物：ほぼ完全に復原された須恵器の坏1点、土師器甕の破片3点（口縁部2点、底部1点）、瓦・砥石各1点を図化した。須恵器坏は北壁際、瓦は西壁際と南西ピットの破片が接合、砥石は中央やや南から、いずれも床面直上で出土している。このほか、磨滅が著しく接合することはできなかったが、土師器甕の胴部破片などが50点ほど覆土中から出土している。時期：須恵器坏や土師器甕の特徴から9世紀後葉の竪穴建物跡と考えられる。

## SI-158（第31・33図、図版一三・二五）

位置：J-27グリッドに位置する。南北壁を確認したが、東西は調査区外となる。重複等：北壁際東の床面でSK-159と重複する。床面で確認した10cmほどの浅い窪みであり、北側ラインが竪穴建物跡の壁際ラインと一致することから、竪穴建物跡の掘り方の可能性もある。平面形・規模：調査した範囲では、南北2.72m、東西は2.00mで、方形ないしは長方形プランと予想される。調査した面積は約5.2㎡である。確認面からの深さは南壁で18cmである。主軸方向：N-9°-E 覆土：黄色土ブロックを含む暗褐色土1層のみで、分層はできなかった。床面：地山をほぼ平坦にして床面としている。付属施設：調査した範囲内では、カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴等などは検出されなかった。出土遺物：土師器高台付坏1点と、甕の口縁部1点を図化した。他に覆土から磨滅の著しい土師器小破片10点ほどが出土している。時期：南壁際から出土している土師器高台付坏から10世紀代の竪穴建物跡と考えられる。



第33図 SI-158、SK-124・141・151 出土遺物

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

第17表 SI-110 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(m)	遺存状況	特 徴	胎土・堆 成	色 調	出土位置	備 考	
1	煎豆類 煮	口径 112.80	—	小破片	内面:ロコロナデ 外面:ロコロナデ, 天井部へ凸型形 天井中央に凸込み彫刻が観察される。	緑褐色, 黒灰色細粒少量, 白色細粒散見含む。良好	外:灰白色 内:灰白色	覆土中破片拾 合	反転調査
		底径 12.30							
2	煎豆類 坪	口径 12.40	—	小破片(1/7遺存)	内面:ロコロナデ 外面:ロコロナデ	緑褐色, 黒灰色細粒少量, 白色細粒散見。雲母細粒散 見含む。やや不貞	外:灰白色 内:灰白色	覆土中破片拾 合	片面調査 反転調査
		底径 13.70							
3	土師器 壺	口径 106.00	—	口縁部小破片	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ	緑褐色, 黒灰色細粒多量, 白色・赤色細粒散見含む。 良好	外:明赤褐色 内:明赤褐色	覆土中破片拾 合	断面調査 反転調査
		底径 12.40							

第18表 SI-136 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(m)	遺存状況	特 徴	胎土・堆 成	色 調	出土位置	備 考	
1	煎豆類 片	口径 12.5	—	(注)定存	内面:ロコロナデ 外面:ロコロナデ, 底面凹陥縁切り	緑褐色, 黒灰色細粒多量, 白色細粒少量, 白色細粒 散見含む。やや不貞	外:灰オリーブ色 内:灰白色	北壁跡北面蓋 土破片拾合	
		底径 6.6							
		底高 3.9							
2	土師器 甕	口径 121.00	—	口縁一周破片1/5 遺存	内面:口縁部ヨコナデ, 胴部へワナデ・ナデ 外面:口縁部ヨコナデ, 胴部へワナズリ	緑褐色, 黒灰色細粒多量, 赤色・白色細粒少量。雲 母細粒散見含む。良好	外:褐色 内:褐色	覆土中破片出 土	反転調査
		底径 16.10							
3	土師器 甕	口径 20.2	—	口縁部5/6, 肩 部破片	内面:口縁部ヨコナデ, 胴部へワナデ・ナデ 外面:口縁部ヨコナデ, 胴部へワナデ・ナデ	やや粗い。黒灰色細粒多 量。赤色・白色細粒少量。 雲母細粒散見含む。良好	外:褐色 内:褐色	覆土中破片拾 合	断面調査 背面内面調査 反転調査
		底径 16.30							
4	土師器 甕	口径 18.00	—	口縁部破片	内面:ヨコナデ 外面:ヨコナデ	やや粗い。黒灰色・白色 細粒多量。赤色・黒色細 粒少量。雲母細粒散見 含む。良好	外:赤褐色 内:褐色	覆土中破片出 土	断面調査 反転調査
		底径 13.70							
5	土師器 甕	口径 —	—	底面から胴部 下半1/5遺存	内面:へワナデ・ナデ 外面:へワナズリ・へワナデ, 底面へワナデ	粗い。黒灰色細粒多量, 赤色・白色細粒少量。 雲母細粒散見含む。良好	外:赤褐色 内:にじい・褐色	覆土中破片拾 合	反転調査
		底径 14.20							
6	瓦 瓦瓦	長さ 15.4	—	1/4欠損	内面:ナデ・へワナデ 外面:へワナデ 先端に向かって若干凸がる	緑褐色, 黒灰色・白色細粒 少量。白色細粒若干含む。 ほぼ良好	外:灰白色 内:灰白色	西壁跡北面蓋 土破片拾合	先端は堆成により 褐色の部分あり。 内破片拾合。
		厚さ 1.0							
7	石製品 砥石	長さ 16.0	—	平欠品	表面及び左側面は凸い・凹状の溝。底面は全く平 らな状態の溝。右側面は斜めに凹み部が観察され る。表面面は研削による凹凸が認められる。	良好; 砥石目	灰:灰白色 黒:黒褐色	中央やや右側 面蓋上	表面は付着物 (成分?)あり。 断面調査
		厚さ 2.5							

第19表 SI-158 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(m)	遺存状況	特 徴	胎土・堆 成	色 調	出土位置	備 考	
1	土師器 高台付埴	口径 —	—	底面及び外部 下半遺存(高台 環状欠損)	内面:へワミゴキク 外面:ロコロナデ, 底面凹陥へワナズリ付(高台環状土全面凹陥)	やや粗い。黒灰色細粒多 量。白色・赤色・雲母細 粒少量含む。やや不貞	外:明灰白色 内:明灰白色	覆土中破片出 土	断面調査
		底径 16.4							
		底高 11.20							
2	土師器 甕	口径 19.80	—	小破片(1/7遺存)	内面:口縁部ヨコナデ, 胴部へワナデ・ナデ 外面:口縁部ヨコナデ, 胴部へワナデ・ナデ	緑褐色, 黒灰色細粒多量, 白色・赤色細粒散見。雲 母細粒散見含む。良好	外:にじい・褐色 内:明褐色	覆土中破片出 土	外面断面調査 反転調査
		底径 14.00							

第20表 SK-24 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(m)	遺存状況	特 徴	胎土・堆 成	色 調	出土位置	備 考	
1	煎豆類 甕	口径 —	—	胴部破片	内面:ナデ 外面:へワナデ・ナデ	やや粗い。灰白色細粒多 量。赤褐色細粒少量含む。 良好	外:赤褐色 内:にじい・褐色	覆土中破片出 土	二次焼成
		底径 —							
		底高 16.20							

第21表 SK-141 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(m)	遺存状況	特 徴	胎土・堆 成	色 調	出土位置	備 考	
1-3	縄文土器 深鉢	口径 —	—	胴部破片	内面:磨滅 外面:胴部上縁め方向の溝線凹陥を呈した部位 磁石付付着物で汚染され、沈澱による変色も 観察すると予想される。口縁部付近は肥厚。	やや粗い。黒灰色・白色 細粒多量含む。良好	外:褐色 内:褐色・褐色	覆土中破片出 土	SK-141と同一個 体の破片あり。 後遺跡之内1式 断面調査
		底径 —							
		底高 —							

第22表 SK-151 出土遺物観察表

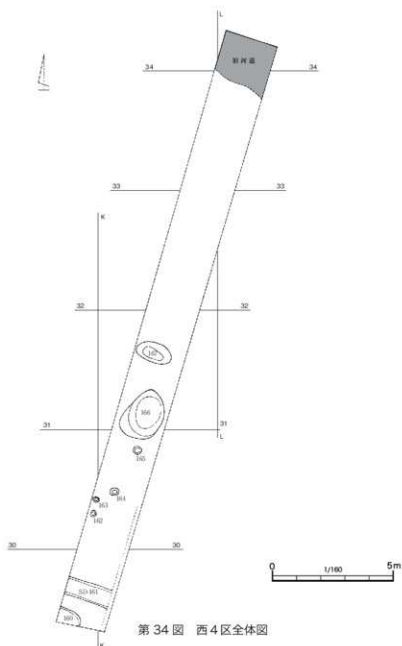
番号	種別	寸法(m)	遺存状況	特 徴	胎土・堆 成	色 調	出土位置	備 考	
1-3	縄文土器 浅鉢	口径 —	—	胴部破片	内面:磨滅 外面:SK 141と同様の破片の他、やや細い。 赤褐色を呈化し認められる。胴部下半に窪 みを認らしたものが存在。	やや粗い。黒灰色・白色 細粒多量含む。良好	外:褐色 内:褐色・褐色	覆土中破片出 土	SK-141と同一個 体の破片あり。 後遺跡之内1式 断面調査
		底径 —							
		底高 —							

## 4. 西4区

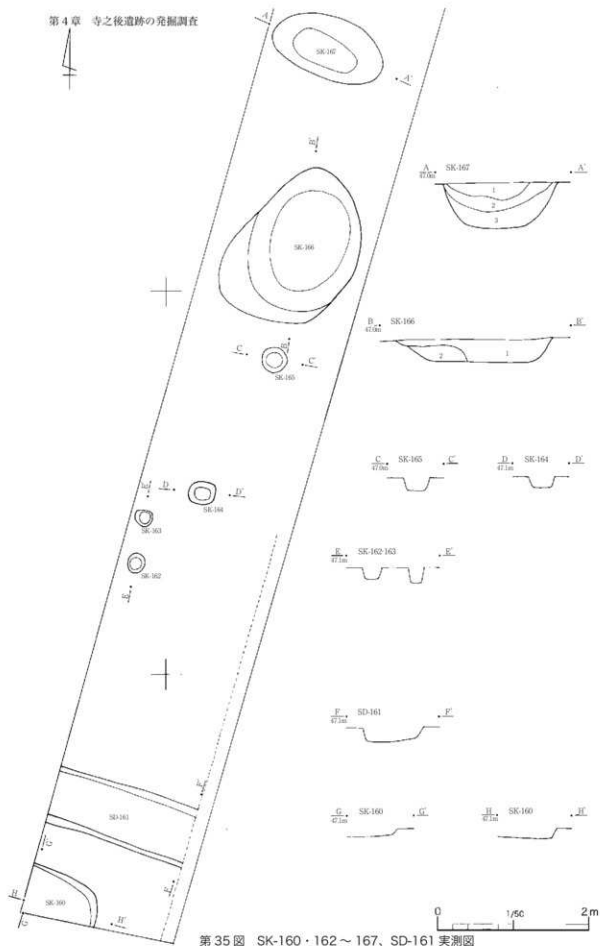
【概要】 西3区の北端から5mほど北が本調査区の南端となる。J-29・30、K-29～34、L-32～34グリッドに位置する。幅2.0-2.2m、長さ25.5m、調査面積約53.5㎡。土坑7基（長径1m前後の楕円形の土坑3基と小土坑4基）、溝1条を検出した。

土坑・溝とも32ラインより南側に位置する。これより北側は遺構の分布は見られなかった。遺物が出土したのはSK-166のみである。土師器と須恵器の小破片が出土しているが、磨滅が著しく図化できるものはない。4基の小土坑はJ-30東からK-30西側にかけてやや纏まって分布する。SD-161は西2区のSD-85・86とほぼ同じ方向に走り、南に近接して確認されたSK-160の長軸方向とも一致する。

西4区の北半の遺構確認面で、旧河川跡と考えられる砂礫層の堆積が確認された。SK-167の北側約10mの間隔において、4区北端から西5区北側まで幅約25mである。調査区の幅が狭いため明確ではないが、東西方向に流れていたものと考えられる。



第34図 西4区全体図



第35図 SK-160・162～167、SD-161実測図

## 西4区土層説明 (第35図:SK-166・167)

## SK-166

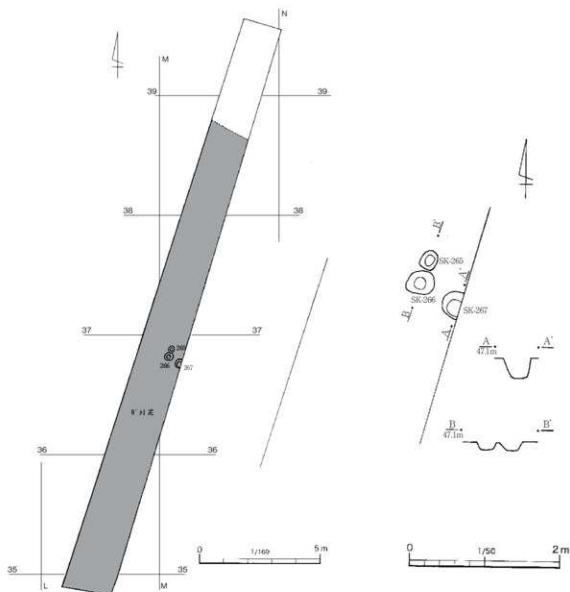
- |          |          |                                     |
|----------|----------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土   | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック・黄色土粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。   |
| 2 にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |

## SK-167

- |        |          |  |
|--------|----------|--|
| 1 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 黄色土ブロックやや少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。                    |
| 2 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック中量、焼土粒子・小礫やや少量、焼土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。 |
| 3 褐色土  | 7.5YR4/4 | 小礫中量、黄色土粒子・焼土粒子やや少量、焼土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。   |

## 5. 西5区

【概要】西側最北の調査区で、西4区の北端から3mほど北が本調査区の南端となる。L-34～37、M-36～39グリッドに位置する。幅1.6-2.0m、長さ25.0m、調査面積約45.0㎡。砂礫層であることから河川跡部分と考えられ、最も低いM-36グリッドで小土坑3基を検出したのみである。遺物は出土していない。



第36図 西5区全体図及びSK-265～267実測図

## 6. 東1区

【概要】 東側最南端の調査区で、G-6・7、H-6～10、I-9～12グリッドに位置する。幅2.0m、長さ34m、調査面積68.0㎡。竪穴建物跡1軒、土坑12基、不明遺構3基を検出した。

SK-262は幅1.0m、長さ3.9m以上で、調査区外に延びるため明確でないが、長楕円形の土坑としておく。これ以外は柱穴状の小土坑である。I-11グリッド南半で5基、H-8～9で4基、G-6グリッド南で2基検出されている。

### SI-248 (第38図、図版一六)

位置：I-11・12グリッドに位置する。重複等：南壁及び北壁を確認したが、東・西壁は調査区外となる。南西でSX-251と重複する。平面形・規模：南壁と北壁は並行ではなく、東側に向かうに従い広がる。南北幅はカマド東側で2.90m、東壁際で3.05mである。東西幅は1.80m以上で、概ね方形のプランと予想される。調査した面積は約6.2㎡である。確認面からの深さは6～12cmと浅い。主軸方向：N-10°-E

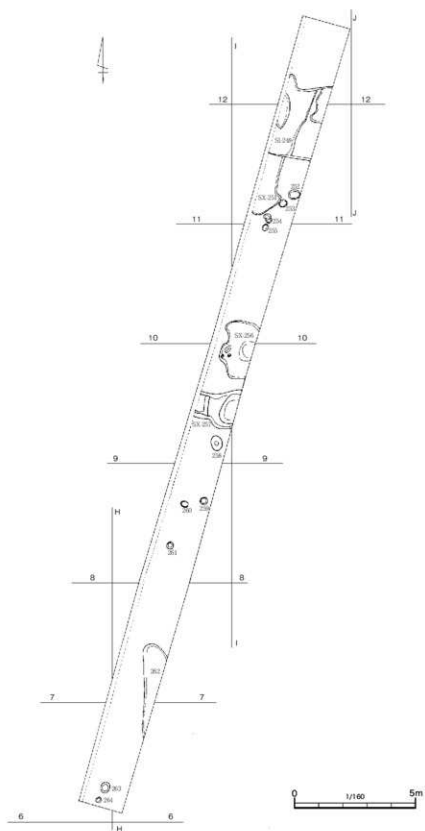
床面：南東部分は地山を平坦にして床面としているが、他はこれより3～13cmほどの下げた後、平坦に埋め戻して床面としている。埋め戻した床面は特に硬化していなかったため、調査時に掘り方まで下げてしまった。付属施設：カマドは北壁の西側で検出された。煙道は壁外へ60cmほどU字状に突出している。西半は調査区外となる。袖や火床面・焚口の位置などは確認できなかった。南北の堆積土は4層に分層されたが、第2層が焼土の量が顕著で、煙道部であったと考えられる。このほか、壁溝・ピット・貯蔵穴などの施設は、調査範囲内では確認されなかった。出土遺物：なし。時期：形状等から古代の竪穴建物跡と思われる。

### SX-251 (第38図、図版一六)

位置：I-11グリッドに位置する。重複等：北側でSI-248と重複する。西側調査区外へと延びる。平面形・規模：残存部分で南北2.6m、東西1.5mほどで、不整形である。確認面からの深さは3～5cmと浅く、立ち上がりはなだらかである。底面：ほぼ平坦であるが、北側がわずかに低くなる。出土遺物：なし。その他：形状等から竪穴建物跡の掘り方の可能性も考えられるが不明。

### SX-256 (第39・41図、図版一六)

位置：I-9・10グリッドに位置する。重複等：東側は調査区外へと延びる。南側0.5mにSX-257が位置する。平面形・規模：南北2.38m、東西は残存部分で1.35mである。概ね楕円形状であるが、西壁ラインに凹凸がみられ、不整形となる。確認面からの深さは3～5cmと浅く、立ち上がりはなだらかである。覆土：4層(第1層：表土、第2層：水田の床土、第3～6層が本遺構の覆土)に分層された。第5・6層がP1の埋土で、第4層はP1を覆うように堆積しており、埋め戻しと考えられる。底面：ほぼ平坦であるが、中央に向かって若干低くなる。東半が調査区外になるが、中央には柱穴状の土坑(P1:81×(60)cm、深さ27cm)、西壁突出部の内側には、3個の楕円形の小穴(P2:35×16cm、深さ10cm、P3:15×10cm、深さ4cm、P4:14×9cm、深さ17cm)が確認されている。小穴が本遺構に伴うかは不明。出土遺物：土師質土器の小皿の口縁及び高台部、須恵器製の小片各1点を図化した。他に摩耗の著しい土師器製の小片が50点ほど出土している。時期：小破片ではあるが、出土遺物から古代から中世の遺構と考えられる。

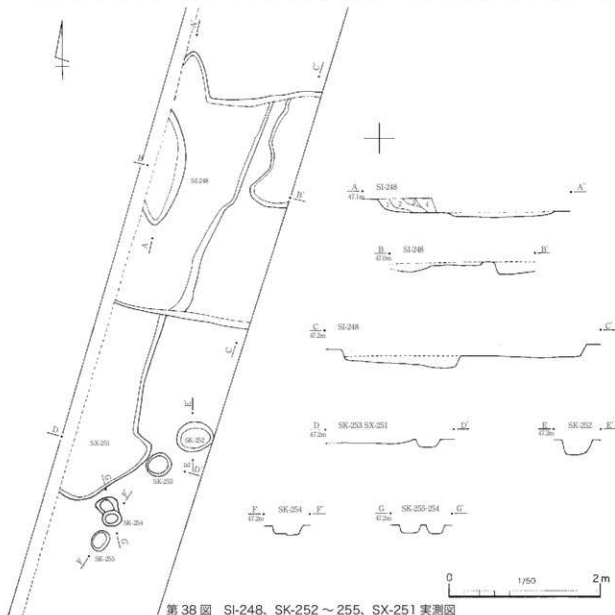


第37図 東1区全体図



SX-257 (第39図、図版一六)

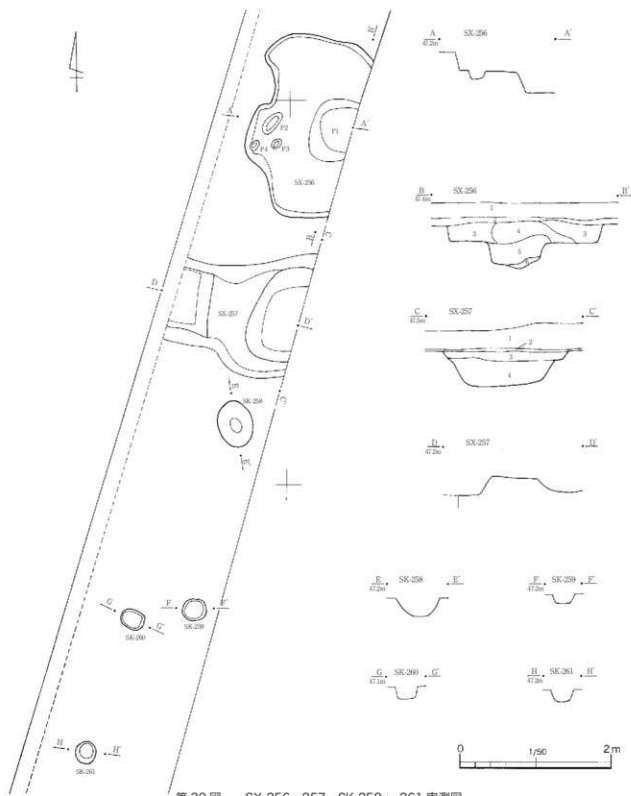
位置：H-9グリッドに位置する。重複等：東西は調査区外へと延びる。北側0.5mにSX-256、南側30cmにSK-258が位置する。一遺構か、複数の土坑の重複であるかは不明。平面形・規模：東西1.8m以上、南北1.1～1.6mの東西に細長い遺構である。西側が方形状(110×50cm以上、深さ48cm)、東側が楕円状(130×65cm以上、深さ38cm)に深く、中央がブリッジ状で深さ25cmと浅い。覆土：4層(第1層：表土、第2層：水田の床土、第3・4層が本遺構の覆土。)に分層された。第3・4層はほぼ水平に堆積し、自然堆積と思われる。底面：西側・中央・東側のいずれの底面も、北側が若干深くなる。出土遺物：なし。時期：不明。



東1区土層説明① (第38図：SI-248)

SI-248 カマド

- |   |         |          |  |
|---|---------|----------|--|
| 1 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3  | 黄色土微粒子多量、焼土粒子・炭化物微粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性く。        |
| 2 | 明赤褐色土   | 5YR5/6   | 黄色土微粒子やや多量、焼土微粒子・焼土ブロック中量、焼土粒子やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。 |
| 3 | 橙色土     | 7.5YR6/6 | 黄色土微粒子やや多量、焼土粒子やや少量、焼土微粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。        |
| 4 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4  | 黄色土微粒子多量、焼土粒子・炭化物微粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。       |



第39図 SX-256・257、SK-258～261 実測図

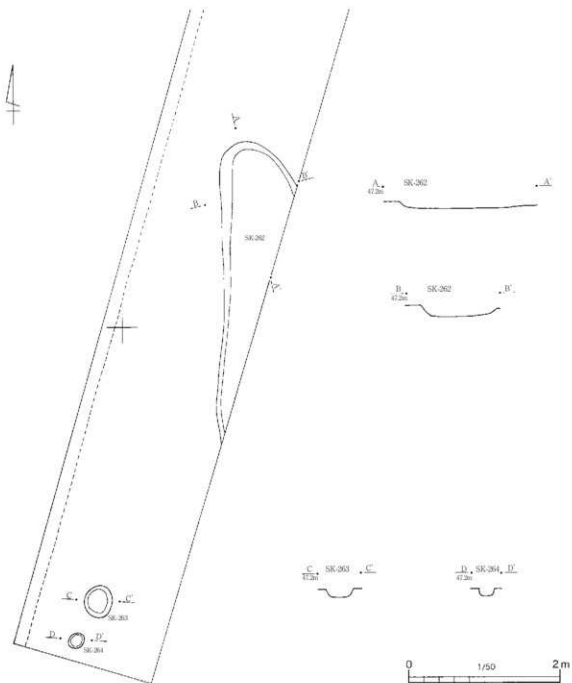
東1区土層説明②(第38図:SK-256・257)

SX-256

- |   |        |          |  |
|---|--------|----------|--|
| 1 | にぶい褐色土 | 7.5YR5/3 | 小礫やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。                             |
| 2 | にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 鉄分やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。                             |
| 3 | 灰褐色土   | 7.5YR4/2 | 黄色土微粒子・黄色土粒子・炭化物粒子・白色粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。 |

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

- |   |      |          |  |
|---|------|----------|--|
| 4 | 明褐色土 | 7.5YR5/6 | 黄色土微粒子・黄色土粒子やや多量、炭化物粒子・白色粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。                |
| 5 | 褐色土  | 7.5YR4/3 | 白色粒子やや少量、黄色土微粒子・黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 6 | 明褐色土 | 7.5YR5/6 | 黄色土ブロックやや多量、白色粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                         |
- SK-257
- |   |        |          |   |
|---|--------|----------|---|
| 1 | にぶい褐色土 | 7.5YR5/3 | 小礫やや少量含む。しまり富む。粘性欠く。                                    |
| 2 | にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 鉄分やや多量含む。しまり富む。粘性欠く。                                    |
| 3 | 灰褐色土   | 7.5YR4/2 | 黄色土微粒子中量、黄色土粒子・炭化物粒子やや少量、黄色土ブロック・焼土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 4 | 褐色土    | 7.5YR4/3 | 黄色土微粒子・黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。        |



第40図 SK-262～264実測図



第41図 SX-256出土遺物

第23表 SX-256出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	形 態	胎土・構成	色 調	出土位置	備 考
1	土師器 小皿	口徑 径深 底高	(7.4) — (1.2)	口縁部小破片	内面：ナブ 外面：ナブ	褐色。灰色細粒少量。赤色細粒微量含む。やや不具	外：黄褐色 内：黄褐色	壁面調査 反転調査 土
2	土師器 小皿	口徑 径深 底高	(5.3) — (1.2)	底面破片	内面：ナブ 外面：ナブ。底面彫刻あり	褐色。灰色細粒少量含む。良野	外：黄褐色 内：黄褐色	壁面調査 反転調査 土
3	土師器 小皿	口徑 径深 底高	(5.6) — (1.2)	高台部破片	内面：ナブ 外面：ナブ	褐色。黒灰色細粒少量。赤色細粒微量含む。やや不具	外：黄褐色 内：黄褐色	接合部で剥落 反転調査 土
4	土師器 壺?	口徑 径深 底高	(1.8) — (1.8)	胴部小破片	内面：ナブ 外面：平行ナブキ	褐色。黒灰色細粒少量含む。やや不具	外：黄褐色 内：灰白色	壁面調査 土

## 7. 東2区

【概要】 L-22～24、M-23グリッドに位置する。幅2m、長さ12.2m、調査面積約24.4㎡。竪穴建物跡2軒、土坑3基を検出した。竪穴建物跡は1mほどの間隔で検出され、いずれも一辺4mほどの方形プランと推定される。SI-246は東壁にカマドが付設される。

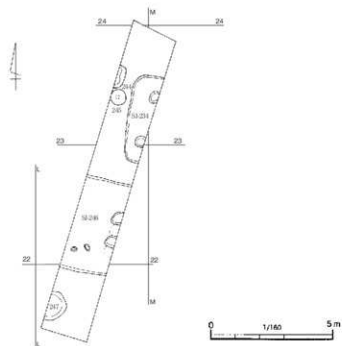
土坑は直径1mほどの円ないしは楕円形と思われる2基（いずれも半分は調査区外）と小穴1基である。いずれの土坑からも遺物の出土はみられなかった。

## SI-234（第43図、図版一七）

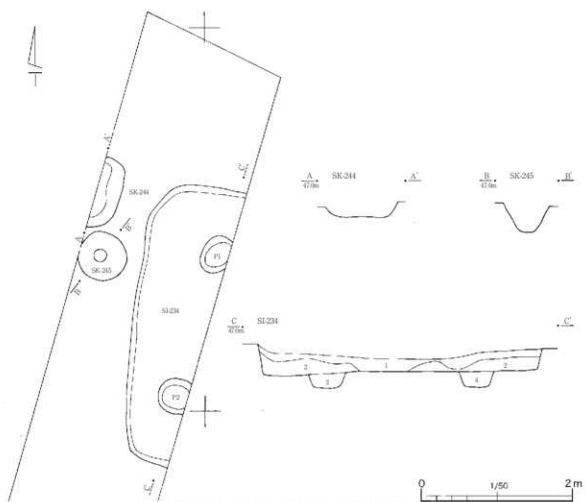
位置：調査した部分はL-22・23グリッドであるが、多くは調査区外のM-23・24グリッドに含まれる。西壁付近を確認したのみで、東側の大半は調査区外となる。重複等：重複はないが、南側1mにSI-246、北西20～30cmにSK-244・245が位置する。平面形・規模：南北3.70m、東西は残存部で北側1.15m、南側0.55mである。調査した面積は約3.3㎡である。北西及び南西コーナーは丸く、隅丸方形のプランと予想される。確認面からの深さは14～17cm、壁は床面からなだらかに立ち上がる。主軸方向：N-6°-E 覆土：2層に分層された。自然堆積で上層に比べ下層の方が黄色土の混入が多い。床面：北西コーナー付近がわずかに高いが、ほぼ平坦である。地山を床面としており、貼り床や硬化した部分等は認められない。ピットは調査区の東側の境界に接して2基検出されている。P1は53×42cmの楕円形で深さ20cm。P2は46×(37)cmの円形で深さ18cm。付属施設：壁溝・カマド・貯蔵穴等は調査範囲内では確認されなかった。出土遺物：なし。時期：竪穴建物跡の形状等から古代と思われるが不明。

## SI-246（第44・45図、図版一七・二六）

位置：調査した部分はL-21・22グリッドであるが、大部分はL-22グリッドである。カマドの位置から建物跡の中央から東側を調査したものと考えられる。東西壁は調査区外となる。重複等：他の遺構との重複はないが、北側1mにSI-234、南側1mにSK-247が位置する。平面形・規模：南北4.00m、東西は残



第42図 東2区全体図

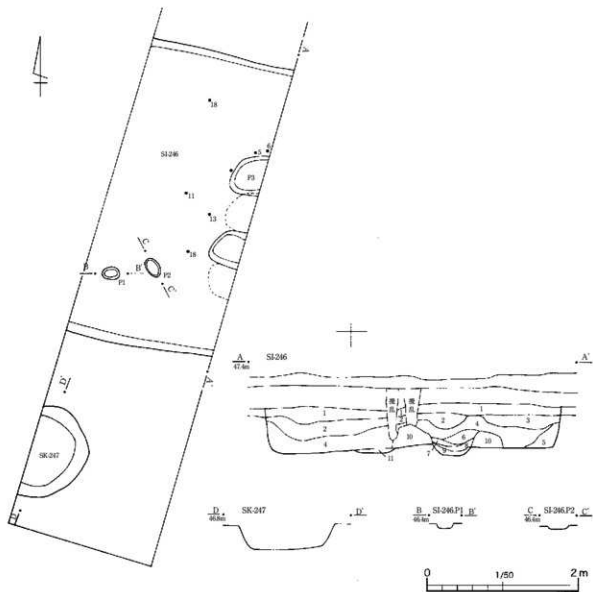


第43図 SI-234、SK-244・245実測図

## 東2区土層説明① (第43図: SI-234)

SI-234

- |        |          |  |
|--------|----------|--|
| 1 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 白色粒子やや少量、黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。                |
| 2 褐色土  | 7.5YR4/4 | 黄色土ブロック・焼土粒子・白色粒子やや少量、黄色土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 3 黒褐色土 | 10YR3/1  | 黄色土微粒子・黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性欠く。                |
| 4 黒褐色土 | 10YR3/2  | 焼土粒子やや少量、黄色土子微粒少量含む。しまり富む。粘性欠く。                            |



第44図 SI-246、SK-247 実測図

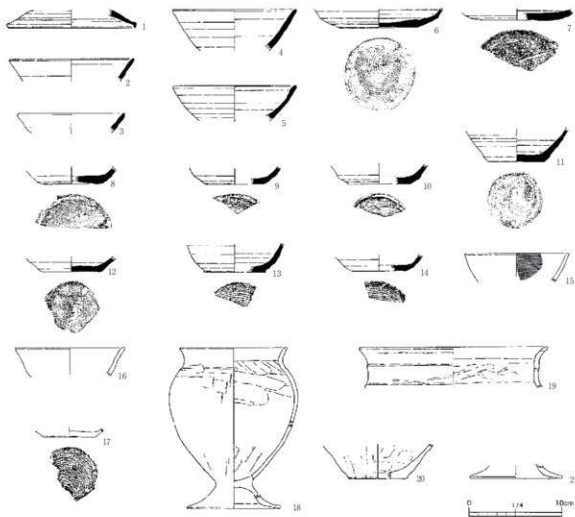
## 東2区土層説明② (第44図: SI-246)

SI-246

- |        |          |  |
|--------|----------|--|
| 1 褐色土  | 7.5YR4/3 | 焼土粒子・炭化物粒子中量、白色粒子やや少量、黄色土粒子・焼土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。               |
| 2 褐色土  | 7.5YR4/3 | 焼土粒子・炭化物粒子中量、黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土ブロック・炭化ブロック・白色粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  |
| 3 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 黄色土粒子・焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・白色粒子やや少量、黄色土ブロック・炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

- |    |         |          |  |
|----|---------|----------|--|
| 4  | 灰褐色土    | 7.5YR4/2 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土ブロック・炭化物粒子中量、焼土粒子・炭化物ブロック・白色粒子やや少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。       |
| 5  | にぶい褐色土  | 7.5YR5/3 | 黄色土粒子やや多量、黄色土ブロック・青灰色土粒子・炭化物粒子・白色粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。           |
| 6  | にぶい褐色土  | 7.5YR5/3 | 黄色土粒子やや多量、黄色土ブロック中量、焼土粒子・焼土ブロック・白色粒子やや少量、炭化物粒子・炭化物ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。 |
| 7  | にぶい橙色土  | 7.5YR6/4 | 黄色土粒子中量、焼土ブロックやや少量、白色粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。                                |
| 8  | 黒褐色土    | 7.5YR3/1 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・白色粒子やや少量、青灰色土粒子・青灰色土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。      |
| 9  | 褐色土     | 7.5YR4/1 | 焼土ブロック多量、焼土粒子やや多量、黄色土粒子・黄色土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック中量、白色粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。   |
| 10 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4  | 黄色土粒子・黄色土ブロックやや多量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  |
| 11 | 黒褐色土    | 10YR3/1  | 黄色土微粒子・黄色土粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性欠く。                              |



第45図 SI-246出土遺物

存部で1.90 mである。調査した面積は約7.6㎡である。コーナーは調査区外となり明確でないが、方形ないしは長方形プランと予想される。確認面からの深さは、北壁で41～48cm、南壁で31～38cm、壁は床面からならだかに立ち上がる。主軸方向：N-13°-E 覆土：カマドを除くと、覆土は5層に分層された。第2～4層は下層ほど焼土粒子・炭化粒子が大きくなる。また、壁際に最初に堆積した第5層は、他の土層に比べ焼土粒子・炭化粒子は圧倒的に少ない。焼土や炭化物は万遍なく認められるが、炭化材や焼土ブロックがまとまって出土していないことから、火災住居ではなからう。床面：ほぼ平坦であるが、中央がやや窪む。地山を床面としており、貼り床や硬化した部分等は認められないが、全体的に硬化している。ピットは中央南寄りから2基、カマド北側から1基検出されている。P1は22×17cmの楕円形で深さ4cm。P2は27×19cmの楕円形で深さ3cm。P3は55×(40)cmの楕円形で深さ3cm、カマド袖と重複する。いずれも浅く、掘り方の一部の可能性が高い。付属施設：壁溝・貯蔵穴等は調査範囲内では確認されなかった。カマドは東側調査区境界の壁の断面で確認された。東壁の中央よりやや南に付設されているが、焚口部以外が

第24表 SI-246 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	物	産	胎土・構成	色調	出土位置	備考
1	煎土器 蓋	口径 13.0 底径 — 部高 13.0	口縁部1/3のみ遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	内産	確認。灰白色細粒少量含む。良好	外：黄灰色 内：灰色	覆土中層片層	反転復原
2	煎土器 坪	口径 13.0 底径 — 部高 12.3	口縁部破片	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	内産	確認。白色細粒少量。灰色細粒微量含む。良好	外：灰色 内：灰白色	覆土中層片層	反転復原
3	煎土器 坪	口径 13.0 底径 — 部高 12.1	口縁部破片	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	内産	確認。灰白色細粒少量含む。良好	外：灰色 内：灰色	覆土中層片層	反転復原
4	煎土器 坪	口径 13.0 底径 — 部高 14.0	口縁一体部1/4のみ遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	内産	確認。灰白色細粒少量含む。良好	外：黄灰色 内：灰白色	覆土中層片出土	反転復原
5	煎土器 坪	口径 13.0 底径 — 部高 15.7	口縁一体部1/4のみ遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	内産	確認。灰色細粒少量。白色細粒微量含む。良好	外：灰白色 内：灰白色	カマド北側床面より4cm土から露出出土。	反転復原
6	煎土器 坪	口径 — 底径 8.2 部高 12.0	底部のみ遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り。同縁の跡	内産	確認。灰色細粒少量。白色細粒微量含む。やや不良	外：オレンジ灰色 内：灰色	カマド北側床面より6cm土から出土。	内面及び底面は面磨削面
7	煎土器 坪	口径 — 底径 9.0 部高 11.1	底部破片	内面：ロクロナデ 外面：磨滅不明	内産	確認。灰色・白色細粒少量含む。良好	外：黄灰色 内：黄灰色	覆土中層片出土	磨滅顕著 反転復原
8	煎土器 坪	口径 — 底径 7.1 部高 11.0	底部1/3遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り	内産	無い。灰白色細粒少量。赤色・白色細粒少量。黒色細粒微量含む。良好	外：赤褐色 内：にじみ褐色	覆土中層片出土	反転復原
9	煎土器 坪	口径 — 底径 6.0 部高 12.0	底面一体部破片	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り	内産	確認。灰白色・白色細粒少量含む。良好	外：灰色 内：灰白色	覆土中層片出土	反転復原
10	煎土器 坪	口径 — 底径 7.1 部高 12.3	底部から体部下半部破片	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り	内産	確認。灰白色細粒少量含む。良好	外：灰白色 内：灰白色	覆土中層片出土	反転復原
11	煎土器 坪	口径 — 底径 5.9 部高 13.0	底面から体部下半部のみ遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り	内産	確認。灰白色細粒少量。白色細粒微量含む。良好	外：灰白色 内：灰白色	中央床面より15cm上から破片出土	体面上方硬化面付着
12	煎土器 坪	口径 — 底径 6.2 部高 11.0	底部のみ遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り	内産	確認。灰白色細粒少量。白色細粒微量含む。良好	外：黄灰色 内：灰色	覆土中層片出土	反転復原
13	煎土器 坪	口径 — 底径 6.0 部高 13.1	底面一体部破片	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ。底面凹断糸切り	内産	確認。白色細粒少量。灰色細粒微量含む。良好	外：灰色 内：灰色	覆土中層片出土	反転復原



#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

14	須恵器 埴輪	長さ 幅 厚さ	— (5.7) (3.7)	底面から床面 下破片	内面：ロクナガ 外面：ロクナガ、底面：黒色切り	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色細粒少量含む、良好	外：黄灰色 内：黄灰色	襷土中破片出 土	反転調査
15	土師器 埴輪	口径 底径 器高	10.0 — (3.1)	口縁部破片	内面：ヘラナガ 外面：ロクナガ	緑泥、黒灰色・白色細粒 少量含む、良好	外：濃い褐色 内：黒色	襷土中破片出 土	内面黒色地層 反転調査
16	土師器 埴輪	口径 底径 器高	11.2 — (3.1)	口縁部破片	内面：— 外面：底面：黒色切り	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色細粒少量、赤色細粒 微量含む、良好	外：褐色 内：褐色	襷土中破片出 土	層状調査 反転調査
17	土師器 埴輪	口径 底径 器高	— 5.6 (9.9)	底面立上りのみ 留存	内面：ロクナガ 外面：ロクナガ、底面：黒色切り	今中緑泥、黒灰色細粒多 量、白色細粒少量、赤 色細粒微量含む、良好	外：褐色 内：褐色	襷土中破片出 土	層状調査 反転調査
18	土師器 甕	口径 頸径1/2及び 器高	11.2 (10.0) (17.0)	口縁部1/2及び 頸部1/4留存	内面：口縁部ココナガ、 頸部ヘラナガ・ナガ 外面：口縁部ココナガ、 頸部ヘラナガ・ヘラナ ガ	今中緑泥、黒灰色細粒多 量、白色細粒微量含む、 良好	外：明赤褐色・暗 褐色 内：褐色～明褐色	カマド周辺に 床面直上破片散 在	床面直上二次堆 成による割断層 反転調査
19	土師器 甕	口径 底径 器高	136.0 — (4.4)	口縁部1/5のみ 留存	内面：ヘラナガ・ココナガ 外面：ヘラナガ・ココナガ	緑泥、黒灰色細粒多量、 赤色・白色細粒微量含む、 良好	外：濃い黄褐色 内：濃い黄褐色	カマド北側床 面直上6cm土 から破片出 土	反転調査
20	土師器 甕	口径 底径 器高	— 86.2 (3.6)	口縁部破片	内面：ナガ 外面：ヘラナガ・ヘラナガ	今中緑泥、黒灰色細粒少 量、白色細粒微量含む、 良好	外：暗褐色 内：濃い黄褐色	襷土中破片混 合	反転調査
21	土師器 甕	口径 底径 器高	— 10.0 (3.4)	翻台部破片	内面：ナガ 外面：ナガ	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色細粒少量含む、良好	外：明褐色 内：褐色	襷土中破片出 土	1/5の翻台部か 層状調査 反転調査

ほとんど調査区外となる。両袖幅142cm。袖は第10層であり、地山（ローム層）を掘り残している。焚口部付近の袖は掘りすぎたが、焚口掘り込みや床面の状況から、調査区境界から30cmほどあったものと考えられる。内側は被熱により赤化した部分は特に認められなかった。天井は壊れてしまっているが、第6・7層がこれに相当する。燃焼部は床面より10cmほど掘り込んでおり、第8・9層がこれに由来する堆積土であろう。出土遺物：破片ではあるが、カマド周辺及び北側の床面直上ないしは第4層中からの出土が多い。須恵器環13点、蓋1点、土師器環3点、甕4点を図示したが、完形に復原できたものは無く、遺存率もすべて50%以下である。他に須恵器小破片23点、土師器小破片約50点、鉄滓1点が出土している。

時期：出土遺物から9世紀後半に比定される。

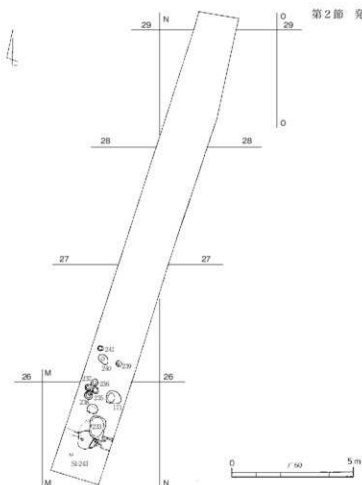
## 8. 東3区

【概要】 M-25～28、N-26～29 グリッドに位置する。幅1.7～2.0m、長さ19.8m、調査面積約24.4㎡。東2区の北端から、東3区の南端まで約6mの未調査区がある。堅穴建物跡1軒、土坑12基を検出したが、M-25からM-26南半までの約6mの範囲に集中する。これらの北側からは、遺構は検出されていない。なお、28ライン付近が緩やかに窪んでおり、西4区北側で確認されて旧河道の延長部分に対応する可能性がある。

東3区の南端で検出された堅穴建物跡は、カマド周辺のみでの調査であったが、東側の調査区で最も北に位置する堅穴建物跡となる。土坑はカマドと重複する楕円形のSK-233以外はピット状の小土坑で、住居北側3mの範囲に集中して確認されている。

### SI-243（第47・48・50図、図版一八・二六）

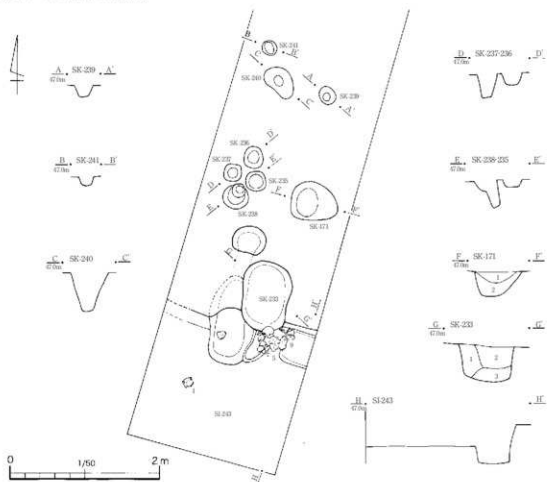
位置：M-25グリッドに位置する。南壁が調査区外となるため明確でないが、南側4～5mにSI-234が位置する。重複等：カマド東側でSK-233と重複する。本遺構のほうが古い。カマドおよびその周辺のみでの調査で、大半は調査区外へ延びる。平面形・規模：カマド及びその前面の南北約2m、東西は約2mを



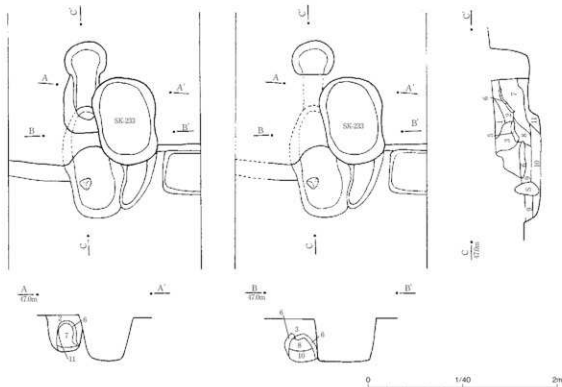
第46図 東3区全体図

調査した。北壁はカマドを挟んで一直線とはならず、東側が20cmほど北側に広がる。コーナーはすべて調査区外となり明確でないが、方形ないしは長方形プランと予想される。確認面からの深さは24cm、北壁は床面から西側はややなだらかに、東側はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方向：N-18°-E 覆土：未記録。床面：地山をほぼ平坦にして床面としている。カマド前面はやや硬化している。付属施設：カマドは北壁の調査区ほぼ中央に付設されている。当初、煙道先端が45×35cmの楕円形の土坑（SK-242）に切られていると考え調査を実施したが、土坑としたものはカマド主軸方向のセクションから煙出部で、直交するセクションから煙道が潰れず残っていることも明らかとなった。北壁から煙道先端までの長さは西側で130cm、東側で80cmほどほどある。第3層は地山で、南側は北壁東側のラインと一致する。北側は煙道先端から幅40cm、長さ90cmほど掘りした後、トンネル状に第1・2層で埋め戻して煙道と煙出部をつくっている。第4～6層は天井に関連する土層で、第6層は焼土化していることから天井内面の土層と考えられる。焚口部・燃焼部は床面を10cmほど掘り下げた後、第10層を埋め戻している。焚口掘り込みから30cm北側の中心からやや西に寄った位置に、長さ28cmほどの細長い三角錐状の礫を立てた支脚が検出されている。10cmほど火床に埋められており、先端は被熱により赤変している。袖は幅40cm、長さ60cmほどの地山を削り残された右側の芯のみが確認された。カマド東側から北壁に接して南北45cm、東西40cm以上（東側は調査区外）、深さ20cmほどの貯蔵穴と思われる長方形の土坑が確認されている。出土遺物：カマド前面の床面上から須恵器の坏（1）、カマド袖の上面から土師器甕（5・9）などが出土している。このほかカマド内およびカマド付近から土師器甕を主とした多くの破片が出土している。時期：出土遺物から9世紀後葉に比定される。

第4章 寺之後遺跡の発掘調査



第47図 SI-243、SK-171・233・235～241実測図



第48図 SI-243カマド実測図

## 東3区土層説明(第47図:SK-171・233、第48図:SI-243)

## SK-171

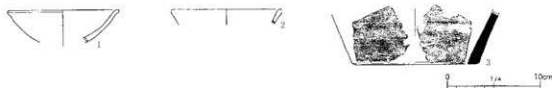
- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土粒子・黄色土ブロック・白色粒子やや少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  
 2 暗褐色土 7.5YR3/4 黄色土粒子・黄色土ブロック中量、焼土ブロック・白色粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。

## SK-233

- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 2 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土粒子・白色粒子やや少量含む。黄色土ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 3 褐色土 7.5YR4/3 炭化物粒子やや少量、黄色土微粒子・黄色土粒子・白色粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。

## SI-243 カマド

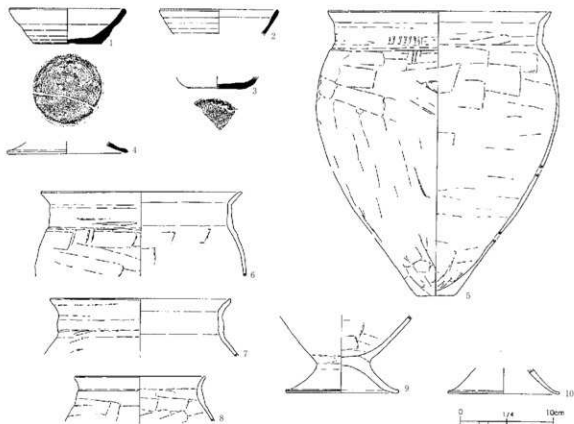
- 1 にぶい褐色土 7.5YR5/4 黄色土粒子・黄色土ブロックやや少量、白色粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 2 褐色土 7.5YR4/4 黄色土粒子・黄色土ブロックやや少量、焼土ブロック・白色粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 3 にぶい褐色土 7.5YR5/4 地山、基本土層第V層、黄色土微粒子多量含む。しまり富む。粘性やや富む。  
 4 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土ブロックやや少量、炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 5 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄色土粒子・黄色土ブロックやや多量、焼土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  
 6 赤色土 10YR4/6 焼土ブロック多量、焼土粒子やや多量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  
 7 褐色土 10YR5/1 焼土粒子中量、黄色土ブロック・焼土ブロックやや少量、黄色土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  
 8 黒褐色土 7.5YR3/2 焼土粒子・焼土ブロック中量、炭化物粒子やや少量、炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 9 褐色土 10YR4/1 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック中量、黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。  
 10 褐色土 10YR5/1 焼土粒子・炭化物ブロック中量、黄色土ブロック・焼土ブロック・炭化物粒子やや少量、黄色土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。  
 11 にぶい黄褐色土 10YR5/4 青灰色土粒子・青灰色土ブロックやや少量、焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。



第49図 SK-233 出土遺物

第25表 SK-233 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(m)	遺存状況	内面	外面	胎土・焼成	色調	出土位置	備考
1	土師器 罎	口徑 0.60 底径 — 器高 1.90	口縁部一休部 1.5m 遺存	内面: 磨滅不明 外面: 磨滅不明	磨滅、黒灰色・赤色顔料少量含む。良好	胎土: 焼成 内: 黄褐色 外: 黄褐色	外: 黄褐色 内: にぶい黄褐色	礎土中層片出土	磨滅調査 反転調査
2	土師器 罎	口徑 0.60 底径 — 器高 1.60	口縁部不破片	内面: ナデ 外面: ナデ	磨滅、黒灰色・赤色顔料少量、白色顔料少量含む。良好	胎土: 焼成 内: にぶい褐色土 外: 褐色	外: 褐色 内: にぶい褐色土	礎土中層片出土	反転調査
3	磨石器 鴨字	口徑 — 底径 03.4 器高 15.7	底面破片	内面: ハウナデ・ナデ 外面: ハウナデリ・ナデ	やや磨滅、黒灰色顔料多量、白色顔料少量含む。良好	胎土: 焼成 内: 灰白色 外: 灰白色	外: 灰白色 内: 灰白色	礎土中層片出土	反転調査



第50図 SI-243出土遺物

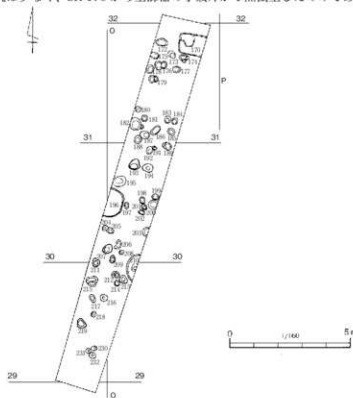
第26表 SI-243出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・産成	色調	出土位置	備考
1	瓶底蓋 片	口徑 12.2 底径 2.1 胎高 3.7	口縁部1/3欠損	内面:ロクロナダ 外面:ロクロナダ, 底部明転赤切り	雑色, 黒灰色・白色細粒少量, 白色細粒若干含む, 良好	外:灰黄色 内:黒灰色	カマド前方 直上正位出土	
2	瓶底蓋 片	口徑 12.0 胎高 3.7	口縁部小破片	内面:ロクロナダ 外面:ロクロナダ	雑色, 黒灰色細粒少量, 赤色・白色細粒微量含む, 良好	外:黒灰色 内:黒灰色	礎土中層片出土	反転位置
3	瓶底蓋 片	口徑 6.3 胎高 1.2	底面破片	内面:ロクロナダ 外面:ロクロナダ, 底部明転赤切り	雑色, 黒灰色細粒少量, 白色細粒微量含む, 良好	外:黒灰色 内:黒灰色	カマド前方 直上出土	磨滅顯著 反転位置
4	瓶底蓋 片 付部?	口徑 12.0 胎高 4.3 胎高 8.3	口縁部1/5のみ遺存	内面:ロクロナダ 外面:ロクロナダ	雑色, 黒灰色細粒少量, 赤色・白色細粒少量, 雲母細粒微量含む, 良好	外:灰色 内:オリーブ灰色	礎土中層片出土	磨滅顯著 反転位置
5	土師器 甕	口徑 23.4 口徑 3.9 胎高 28.5	産後組合せない部分もある 全体の1/3遺存	内面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ・ナダ 外面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ	雑色, 黒灰色細粒少量, 赤色細粒少量, 白色細粒微量含む, 良好	外:明赤褐色 内:橙色	カマド下 横位置 彩色肌 で出土	口縁部内面磨滅 顯著 反転位置
6	土師器 甕	口徑 22.5 口徑 3.9 胎高 18.0	口縁部一翼部 1/4のみ遺存	内面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ・ナダ 外面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ	雑色, 黒灰色細粒少量, 赤色・白色細粒微量含む, 良好	外:橙色 内:濃い・褐色	礎土中層片 出土	磨滅顯著 反転位置
7	土師器 甕	口徑 19.0 口徑 3.6 胎高 16.1	口縁部一翼部 片	内面:口縁部ココナダ 外面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ	雑色, 黒灰色細粒少量, 赤色・白色細粒微量含む, 良好	外:橙色 内:橙色	礎土中層片 出土	磨滅顯著(内面) 反転位置
8	土師器 甕	口徑 13.0 口徑 3.0 胎高 14.7	口縁部一翼部 のみ遺存	内面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ・ナダ 外面:口縁部ココナダ, 胴部ヘクナダ	やや暗い, 黒灰色細粒少量, 赤色細粒少量, 白色細粒微量含む, 良好	外:橙色・赤褐色 内:橙色~にぶい 褐色	カマド内 壁片 出土	磨滅顯著
9	土師器 付付壁	口徑 11.9 口徑 8.3 胎高 8.3	壁台部から 胴部下半のみ遺存	内面:胴部ヘクナダ・ナダ, 胴部ココナダ 外面:胴部ヘクナダ・ナダ, ヘクナダ, 胴部ココナダ	雑色, 黒灰色・赤色細粒少量, 白色細粒, 炭末微粒微量含む, 良好	外:明赤褐色 内:明赤褐色	カマド東 部 から出土	磨滅顯著
10	土師器 付付壁	口徑 11.0 口徑 7.7 胎高 7.7	壁台部から 下半のみ遺存	内面:ココナダ・ナダ 外面:ココナダ・ナダ	暗い, 黒灰色・赤色細粒少量, 白色・雲母細粒微量含む, 良好	外:赤褐色 内:濃い・褐色	礎土中層片 出土	磨滅顯著 反転位置

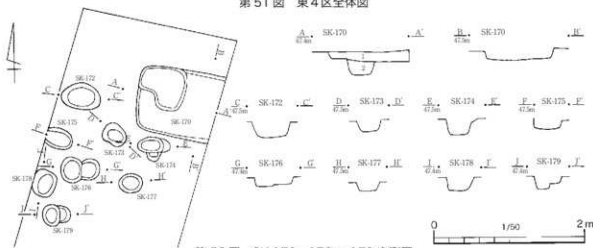
## 9. 東4区

【概要】 N-29～31、O-30～33 グリッドに位置する。幅 1.7～2.0 m、長さ 16.0 m、調査面積約 30.4㎡。東側で最も北に位置する調査区である。東3区の北端から東4区の南端まで約5 mの未調査区がある。

検出された遺構は土坑 59 基である。直径 1.2m ほどの円形土坑 2 基 (SK-196・210)、長方形土坑 1 基 (SK-170) 以外は、直径 30cm 前後の小土坑である。円形及び長方形土坑は、いずれも深さ 10cm ほどの浅い土坑で、半分は調査区外となる。小土坑は調査区内にはほぼ遍なく分布しており、5～6ヶ所のまとまりがみられる。遺物が出土している土坑は少なく、SK-170 から土師器の小破片が 1 点出土したのみである。



第51図 東4区全体図



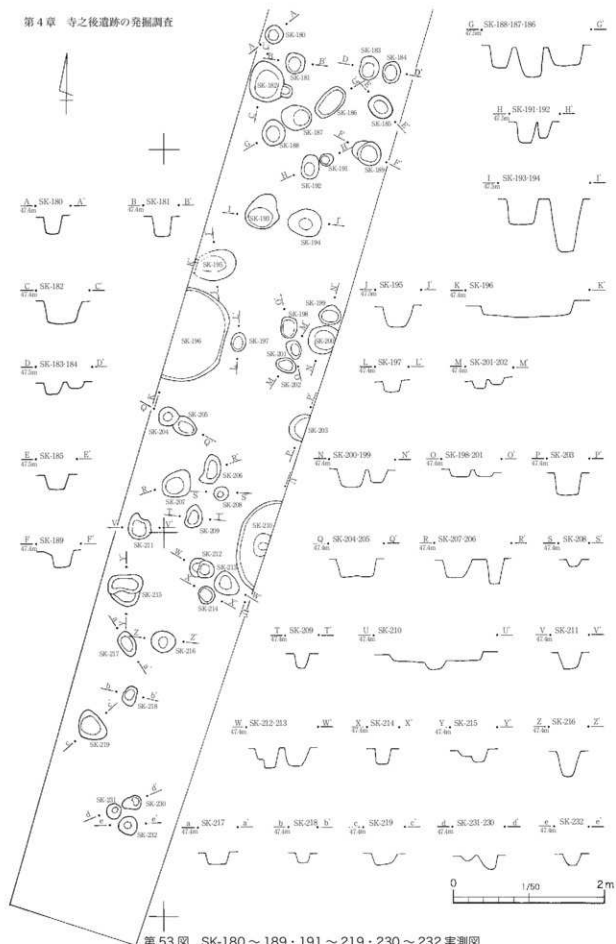
第52図 SK-170・172～179 実測図

## 東4区土層説明 (第52図:SK-170)

## SK-170

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色土粒子中量、黄色土ブロック・黄色土微粒少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
- 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄色土粒子やや少量・黄色土ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

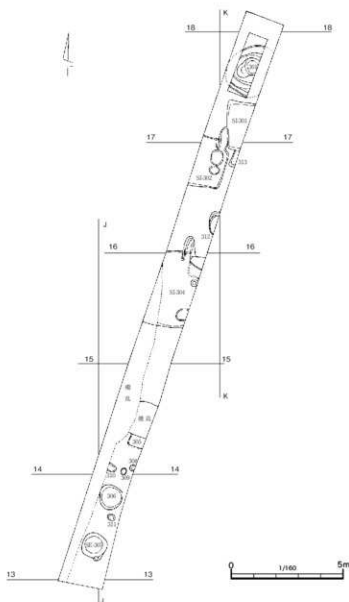


第53図 SK-180～189・191～219・230～232実測図

## 10. 東5区

【概要】平成23年度の調査区で、I-12～14、J-12～17、K-16～18グリッドに位置する。幅1.8～2.0m、長さ27.1m、調査面積約51.5㎡。南端は東1区の北端から1.6m、北側は東2区南端まで16.5mの未調査区がある。南半の西側は長さ15m、幅35～100cmの幅で攪乱を受けている。

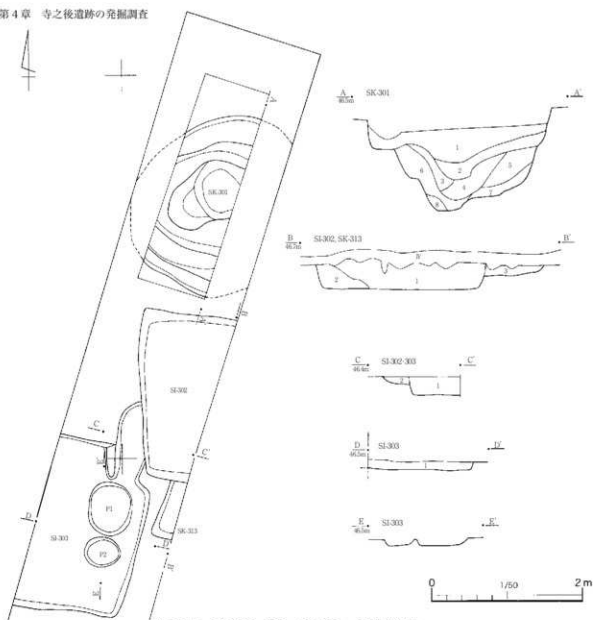
検出された遺構は竪穴建物跡3軒、土坑10基、井戸跡1本である。竪穴建物跡は中央より北側に位置し、SI-302・303は重複がみられる。土坑はまばらに分布しており、SK-301が幅90cmしか調査できなかったため明確でないが、側面が段状になり、他の土坑に比べ規模が抜きんでいる他は、円形の土坑4基と柱穴状の小土坑4基である。今回の調査で唯一確認された井戸跡は南端に位置する。



第54図 東5区全体図



第4章 寺之後遺跡の発掘調査



第55図 SI-302・303、SK-301・313実測図

東5区土層説明① (第55図: SK-301、SI-302・303)

SK-301

- |   |         |          |   |
|---|---------|----------|---|
| 1 | 褐灰色土    | 7.5YR4/1 | 黄色土ブロック・青灰色土ブロック・焼土ブロック・小礫やや多量、黄色土粒子・砂中量、青灰色土粒子・焼土粒子やや少量、炭化物微粒子・炭化物粒子少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 2 | 褐灰色土    | 7.5YR4/1 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、青灰色土粒子・青灰色土ブロック・焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。               |
| 3 | 暗褐色土    | 10YR3/3  | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子・焼土粒子やや少量、青灰色土粒子・青灰色土ブロック・焼土ブロックやや少量、炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。         |
| 4 | 褐灰色土    | 7.5YR5/1 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子・青灰色土粒子やや少量、青灰色土ブロック・焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。                            |
| 5 | 褐灰色土    | 7.5YR5/1 | 黄色土ブロックやや多量、青灰色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。                               |
| 6 | 黒褐色土    | 7.5YR3/1 | 黄色土ブロック・焼土ブロック中量、黄色土粒子・青灰色土粒子・青灰色土ブロック・焼土粒子やや少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。                       |
| 7 | にぶい黄褐色土 | 10YR6/4  | 黄色土粒やや多量、砂中量、黄色土ブロックやや少量含む。しまりやや欠く。粘性やや富む。  |
| 8 | にぶい黄褐色土 | 10YR6/4  | 黄色土粒子やや多量、砂中量、黄色土ブロックやや少量、焼土粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや富む。                                      |

## SI-302・303 カマド

1 褐色土	7.5YR4/1	焼土ブロック中量、焼土粒子やや少量、炭化物粒子・炭化物ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
2 褐色土	7.5YR4/3	黄色土ブロックやや多量、黄色土微粒子・黄色土粒子やや少量、焼土微粒子・焼土粒子・炭化物微粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
3 暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土微粒子・黄色土粒子・炭化物粒子やや少量、黄色土ブロック・焼土粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。
4 にぶい褐色土	7.5YR5/4	黄色土粒子・焼土粒子・焼土ブロック・炭化物微粒子・炭化物粒子中量、黄色ブロック・焼土微粒子やや少量、炭化物ブロック少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。

## SI-303

1 暗褐色土	7.5YR3/4	黄色土ブロック・焼土ブロック・炭化物粒子中量、黄色土粒子・炭化物ブロックやや少量、焼土粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。
--------	----------	---

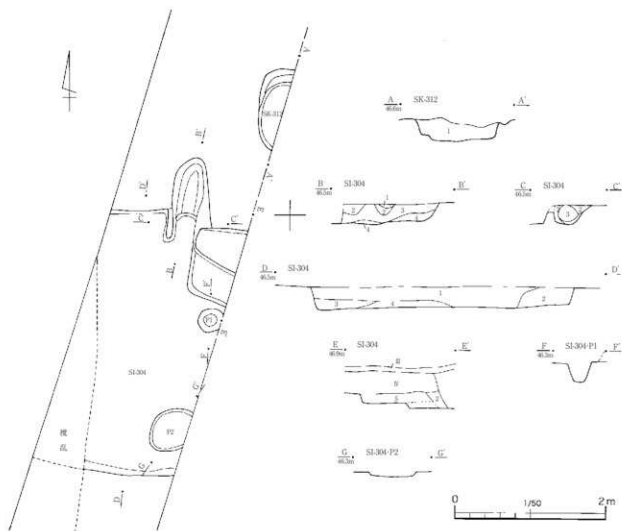
## SI-302 (第55図、図版二一)

位置：K-16・17 グリッドに位置する。重複等：西壁南側でSI-303のカマド、南壁でSK-313と重複する。本遺構のほうが両遺構より新しい。東半は調査区外となる。平面形・規模：南北2.25m、東西は北壁で1.20m、南壁で0.50mである。調査した面積は約1.9㎡である。方形ないしは長方形プランと予想される。確認面からの深さは24cmであるが、調査区東壁のセクションでは30cmほどある。壁は床面からなだらかに立ち上がる。主軸方向：N・4°・E 覆土：2層に分層された。第1層に焼土が多く含まれるのが特徴的である。

床面：地山を平坦にして床面としており、貼り床や硬化した部分などは認められない。付属施設：カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴等は調査範囲内では確認されなかった。出土遺物：なし。時期：SI-303を切っていることから、9世紀後半以降の竪穴建物跡と考えられる。

## SI-303 (第55・58図、図版二一・二七)

位置：J-16・17、K-16・17 グリッドに位置するが、大部分はJ-16 グリッドである。重複等：建物跡の中央から東側を調査したものと考えられる。西半は調査区外となる。カマド煙道部の東側がSI-302と重複する。本遺構のほうが古い。また、南側3mにSI-304が検出されている。平面形・規模：南北2.25m、東西は残存部で1.35mである。調査した面積は約3.0㎡である。カマドの付設により、北東コーナーが北壁延長ラインより50cmほど南になるが、方形ないしは長方形プランと予想される。確認面からの深さは12cmと浅く、壁は床面からなだらかに立ち上がる。主軸方向：N・14°・E 覆土：1層で分層はできなかった。焼土ブロック・焼土粒・炭化ブロック・炭化粒が一定量含まれる。床面：地山を平坦にして床面としており、硬化した部分は特に認められなかった。カマド前面、東壁際に沿って2基の皿状の浅い土坑が確認されている。P1は71×58cmの楕円形で深さ8cm、P2は47×40cmの楕円形で深さ8cmである。付属施設：カマドが北東コーナーに付設されている。主軸方向は建物の主軸とほぼ同じ。煙道は西側で70cm、東側で100cmほど壁外へ突出する。袖は左側の芯部分のみ確認された。壁から長さ22cm、幅22cmで地山を掘り残したものである。被熱による赤化は弱い。東側煙道部が長いことから、南側が右袖を兼ねていたのかも知れない。焚口や火床部の掘り込みなどは特に認められなかったが、煙道先端に向かって若干高くなる。出土遺物：須恵器環1点、土師器環2点、土師器甕底部1点を図示した。いずれも磨減が著しく、2の土師器環以外は小破片である。他に須恵器環1点、同甕4点、土師器環4点、同甕60点以上の小破片が出土している。時期：出土遺物から9世紀後半の竪穴建物跡と考えられる。



第56図 SI-304、SK-312 実測図

東5区土層説明② (第56図: SI-304、SK-312)

SI-304

- |          |          |   |
|----------|----------|---|
| 1 褐色土    | 7.5YR3/4 | 黄色土ブロック・焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロックやや少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。           |
| 2 暗褐色土   | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
| 3 暗褐色土   | 7.5YR3/3 | 黄色土ブロック・黄色土粒子やや少量、焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック少量含む。しまりやや富む。粘性やや欠く。   |
| 4 にぶい橙色土 | 7.5YR7/4 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土微粒子・黄色土粒子中量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。                      |

SI-304 カマド

- |           |          |  |
|-----------|----------|--|
| 1 黒褐色土    | 7.5YR3/2 | 黄色土ブロックやや少量、黄色土粒子・焼土ブロック・炭化物微粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。  |
| 2 にぶい黄褐色土 | 10YR6/4  | 黒色土ブロックやや少量、焼土微粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。                 |
| 3 灰褐色土    | 7.5YR5/2 | 焼土ブロック中量、焼土粒子・炭化物微粒子・炭化物粒子やや少量、炭化物ブロック少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。 |
| 4 にぶい褐色土  | 7.5YR5/4 | 黄色土微粒子・黄色土粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。                  |

SI-304 E-E'

- |          |          |   |
|----------|----------|---|
| 5 にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子中量、焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック少量含む。しまり富む。粘性やや欠く。 |
|----------|----------|---|

SK-312

- |        |          |   |
|--------|----------|---|
| 1 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | 黄色土粒子・黄色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子やや少量、焼土微粒子・炭化物微粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。 |
|--------|----------|---|

## SI-304 (第56・58図、図版二二・二七)

位置: J-15・16 グリッドに位置する。大部分は J-15 グリッドで、カマド煙道部が J-16 グリッドにかかる。

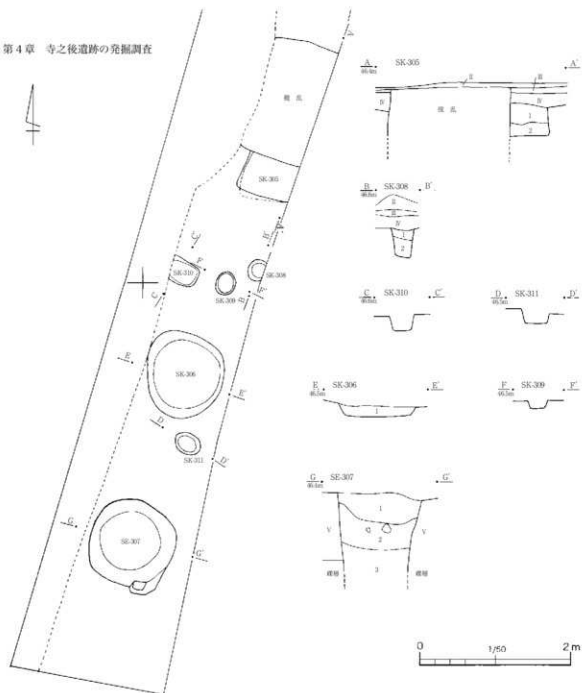
重複等: 他の遺構との重複はないが、南西は大きく攪乱を受けている。東西壁は調査区外となる。北側 3 m に SI-303 が検出されている。平面形・規模: 南北 3.45 m、東西は残存部で 1.85 m である。調査した面積は約 6.4 m<sup>2</sup> である。北壁はカマドの東側に比べ西側が 20 cm ほど北側へ張り出している。方形ないしは長方形プランと予想される。確認面からの深さは北壁で 22 cm、南壁で 30 cm である。壁は北側ではほぼ垂直に、南側では床面からややなだらかに立ち上がる。主軸方向: N-0° 覆土: 4 層に分層された。第 1～3 層は少量ながら焼土・炭化物の混入が認められるが、最下層の第 4 層は焼土・炭化物を全く含まず、黄色土が主体であるのが特徴的である。床面: 地山をほぼ平坦にして床面としている。カマド東側床面は南北 90 cm、東西 60 cm 以上、床面より 15 cm ほど高く地山のロームを削り残した棚状の平坦面 (南側 50 cm ほど掘りすぎ) が認められた。また、東側床面で柱穴状と皿状の 2 基の土坑 (P 1: 30×(30) cm、深さ 26 cm、P 2: 54×(47) cm、深さ 5 cm) を確認した。付属施設: カマドが北壁に付設されている。主軸方向は建物の主軸とほぼ同じか、煙道部が僅かに振れる程度である。煙道は北壁から西側で 65 cm、東側で 95 cm ほど壁外へ突出する。袖は左側のみ確認された。壁から長さ 43 cm、幅 30 cm で、地山を掘り残したものである。被熱による赤化は弱い。SI-302 と同じく東側煙道部が長いことから、南側が右袖を兼ねていたのかも知れない。焚口や火床部の掘り込みなどは特に認められなかったが、煙道部が若干高くなる。天井及び袖内壁はふい黄橙色の第 2 層で、第 3 層が焼土・炭化物を含む流入土、第 4 層は底面整形のための土層と考えられる。出土遺物: すべて破片で、カマド及び覆土第 1 層からの出土が多い。須恵器環 3 点、土師器環 6 点、土師器甕 2 点を図示したが、完形に復原できたものは無く、遺存率も 1 以外は小破片である。他に、須恵器環 1 点、甕 3 点、土師器環 12 点、甕 30 点ほどの破片が出土している。時期: 出土遺物から 10 世紀代と考えられる。

## SK-306 (第57・58図、図版二二・二七)

位置: J-13 グリッドに位置する。重複等: 他の遺構との重複はない。北側に SK-308～310、南側に SK-311 の小土坑が近接して検出されている。東側はわずかに攪乱を受けている。平面形・規模: 確認面で 1.10×1.05 m、底面も 0.85×0.88 m でほぼ円形を呈する。深さ 13 cm で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土: 黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子や少量含むふい褐色土 1 層である。出土遺物: 図示した土師質土器の小皿 1 点と銭貨 (永楽通寶) のほか、土師器環 1 点、同甕 4 点の小破片が出土している。時期: 出土遺物から中世から近世にかけての墓塚と考えられる。

## SE-307 (第57・58図、図版二二・二七)

位置: I-13・J-13 グリッドに位置する。重複等: 他の遺構との重複はない。北側 1.2 m に SK-306 が検出されている。平面形・規模: 確認面は 1.14×1.10 cm のほぼ円形を呈する。確認面から約 1 m の深さで直径 80 cm の円形となり、安全面からそれ以上掘り下げるのは断念したが、ほぼ円筒状に掘られると思われる。南側開口部下には、足掛け状の段が確認されている。覆土: 3 層に分層されたが、第 1 層に 2～3 cm の小礫、第 2 層に拳大の礫が多く含まれる。出土遺物: すべて破片である。図示した須恵器環・土師器環・須恵器甕頸部・在地産の鉢底部各 1 点のほか、小破片であるが常滑産の甕胴部 1 点、須恵器甕 4 点、土師器ないしは土師質土器 25 点 (磨滅顕著) が出土している。時期: 出土遺物から中近世の井戸跡と考えられる。



第57図 SK-305・306・308～311、SE-307実測図

東5区土層説明③ (第57図:SK-305・306・308、SE-307)

SK-305

- |   |      |          |   |
|---|------|----------|---|
| 1 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 黄色土微粒子・黄色土粒子・焼土微粒子やや少量、焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。                 |
| 2 | 橙色土  | 7.5YR6/6 | 黄色土ブロックやや多量、黄色土粒子中量、炭化物ブロックやや少量、焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。 |

SK-306

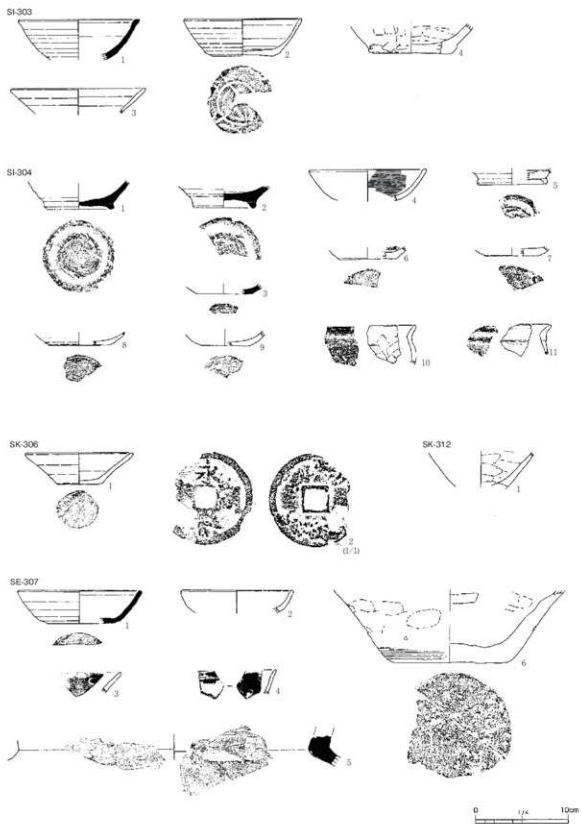
- |   |        |          |  |
|---|--------|----------|--|
| 1 | にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子やや少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。 |
|---|--------|----------|--|

SE-307

- |   |        |       |  |
|---|--------|-------|--|
| 1 | にぶい褐色土 | 7.5YR | 小礫多量、黄色土ブロック・炭化物粒子中量、黄色土粒子・焼土粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。  |
| 2 | 褐色土    | 7.5YR | 黄色土ブロック・炭化物粒子・礫中量、黄色土粒子やや少量、焼土粒子少量含む。しまりやや欠く。粘性やや欠く。 |

SK-308

- |   |        |          |                                       |
|---|--------|----------|---------------------------------------|
| 1 | 褐色土    | 7.5YR4/4 | 黄色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。  |
| 2 | にぶい褐色土 | 7.5YR5/4 | 黄色土ブロック中量、黄色土粒子やや少量含む。しまりやや富む。粘性やや富む。 |



第58図 SI-303・304、SK-306～312、SE-307 出土遺物

## 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

第27表 SI-303 出土遺物観察表

番号	種別	寸法 (cm)	遺存状況	特徴	胎土・構成	色調	出土位置	備考
1	煎茶器 茶碗	口径 12.0 底径 — 器高 14.2	直縁合しな い、口縁一 体部 1/4 遺存	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色粗粒少量含む、やや 良好	外: 灰白色 内: 灰白色	襷土中層片出 土	青銅厨舎 反転遺棄
2	土師器 茶碗	口径 12.0 底径 6.2 器高 3.9	底部および口縁 一体部 1/3 遺 存	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り	胎土、黒灰色細粒多量、 赤色・白色細粒・白色粗 粒少量含む、やや不良	外: 濃い黄褐色 内: 褐色 (約底部 褐色)	襷土中層片出 合	青銅厨舎 内面は二層構成 により 1/2ほど 褐色剥落
3	土師器 茶碗	口径 14.2 底径 — 器高 12.0	口縁部破片	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ	緑泥、黒色細粒多量、赤色 白色粗粒少量含む、良好	外: 褐色 内: 褐色	襷土中層片出 土	青銅厨舎 反転遺棄
4	土師器 甕	口径 — 底径 38.0 器高 13.2	底部破片	内面: ヘナナデ・ナデ 外面: ヘナナデ・ヘナナデ	胎土、黒灰色細多量、赤色 白色粗粒少量含む、良好	外: 褐色 内: 明赤褐色	襷土中層片出 土	青銅厨舎 反転遺棄

第28表 SI-304 出土遺物観察表

番号	種別	寸法 (cm)	遺存状況	特徴	胎土・構成	色調	出土位置	備考
1	煎茶器 高台付丹	口径 — 底径 7.4 器高 13.0	高台部一体部 下半部遺存	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り・ヘナナデ	緑泥、黒灰色・赤色細粒 多量、白色、雲母細粒微 量含む、良好	外: 灰黄色 内: 灰黄色	青銅厨舎直 上出土	高台部及び外面 青銅厨舎
2	煎茶器 高台付丹	口径 — 底径 9.50 器高 12.0	高台部1/2のみ 遺存	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り・ヘナナデ	やや粗粒、黒灰色細粒多 量、赤色細粒少量、白色 粗粒微量含む、やや不良	外: 褐色 内: 灰黄褐色	襷土中層片出 土	反転遺棄
3	煎茶器 茶碗	口径 — 底径 9.0 器高 11.0	底部破片	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り	緑泥、黒灰色細粒少量 含む、良好	外: 褐色 内: 褐色	襷土中層片出 土	反転遺棄
4	土師器 茶碗	口径 12.0 底径 — 器高 13.3	口縁一体部1/4 のみ遺存	内面: ヘナナデ 外面: ロクロナデ	緑泥、黒灰色・赤色細粒 少量、白色粗粒微量含む、 やや不良	外: 濃い褐色 内: 褐色	カマド内層片 出土	内面赤色処理 青銅厨舎 (内面 褐色) 反転遺 棄
5	土師器 高台付丹	口径 — 底径 7.2 器高 11.7	高台部破片	内面: 割付銅舎 外面: ロクロナデ・ナデ	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色・赤色細粒少量含む、 良好	外: 明褐色 内: 褐色	カマド内層片 出土	内面赤色処理? 反転遺棄
6	土師器 茶碗	口径 — 底径 9.2 器高 11.3	底部破片	内面: ヘナナデ 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り	緑泥、黒灰色細粒多量、 赤色細粒少量含む、やや 不良	外: 灰白色 内: 灰白色	襷土中層片出 土	内面赤色処理 青銅厨舎 反転遺棄
7	土師器 茶碗	口径 — 底径 9.0 器高 10.9	底部破片	内面: — 外面: 底部凹縁未切り	緑泥、黒灰色細粒多量、 灰色・赤色粗粒少量含む、 不良	外: 濃い黄褐色 内: 明褐色	襷土中層片出 土	青銅厨舎 反転遺棄
8	土師器 茶碗	口径 — 底径 5.6 器高 11.6	底部破片	内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り	緑泥、黒灰色細粒少量、 白色粗粒微量含む、良好	外: 灰白色 内: 灰白色	襷土中層片出 土	内面赤色処理 青銅厨舎 反転遺棄
9	土師器 茶碗	長さ — 幅 9.0 厚さ 1.4	底部破片	内面: 磨滅 (ロクロナデ?) 外面: ロクロナデ、底部凹縁未切り	緑泥、黒灰色細粒少量、 赤色粗粒微量含む、やや 不良	外: 濃い黄褐色 内: 褐色	襷土中層片出 土	内面赤色処理 青銅厨舎 反転遺棄
10	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 14.0	口縁部破片	内面: コロナデ 外面: コロナデ、唇部ヘナナデ・ヘナナデ	胎土、黒灰色細粒多量、 赤色少量、白色粗粒微量 含む、良好	外: 褐色 内: 黄褐色	襷土中層片出 土	青銅厨舎
11	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 13.2	口縁部破片	内面: コロナデ 外面: コロナデ	胎土、黒灰色・赤色細粒 少量、白色粗粒微量含む、 良好	外: 褐色 内: 褐色	襷土中層片出 土	青銅厨舎

第29表 SK-306 出土遺物観察表

番号	種別	寸法 (cm)	遺存状況	特徴	胎土・構成	色調	出土位置	備考
1	土師器 釜	口径 11.2 底径 4.6 器高 3.3	口縁部一体部 3/4 欠損	内面: ナデ 外面: ナデ、底部ヘナナデ	緑泥、黒灰色・赤色細粒 少量含む、やや不良	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	東明遺跡面か ら3mほど深 いて出土	土から1 層青銅厨舎
2	貝 糸巻遺物	底径 2.5 貝径 0.6 厚さ 0.1	筒縁 (部分) 1/3 欠損	明説、昭和年 1009 年			襷土中出土	飲食厨舎

第30表 SE-307出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	物 産	胎土・焼成	色 調	出土位置	備 考
1	磁器器 片	口径 03.0 底径 0.0 器高 13.0	口縁部一俵部 1/4 遺存	内面：ロクロナダ 外面：ロクロナダ、底面：ワケメリ	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色細粒少量、灰白色粗 粒若干含む、良好	外：黒灰色 内：灰黄緑色	礎土中破片出 土	反転調査
2	土師器 蓋	口径 01.0 底径 — 器高 13.0	口縁部破片	内面：ナダ 外面：ナダ	緑泥、黒灰色・赤色細粒 少量、雲母微粒微量含む、 今中不良	外：にじい・暗色 内：にじい・暗色	礎土中破片出 土	磨滅調査 反転調査
3	磁 器 碗	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部小破片	内面：黒釉 外面：黒釉	緑泥、良好	外：灰白色 内：灰白色	礎土中破片出 土	
4	磁 器 碗	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部小破片	内面：黒釉 外面：黒釉	緑泥、良好	外：黄褐色 内：黒色	礎土中破片出 土	
5	磁器器 甕	口径 03.0 底径 — 器高 13.0	胴部破片	内面：タコナダ 外面：タコナダ・ナダ	今中磨滅、白色細粒多量、 白色粗粒若干含む、良好	外：暗青灰色 内：暗青灰色	礎土中破片出 土	反転調査
6	土師質土器 鉢	口径 — 底径 6.2 器高 13.0	底面から体部 下方破片	内面：ヘウナダ・ナダ 外面：ヘウナダ・ナダ	緑泥、黒灰色細粒多量、 赤色細粒少量含む、今中 不良	外：にじい・暗色 内：暗赤褐色 一部黒色	礎土中破片出 土	磨滅・剥落調査 反転調査

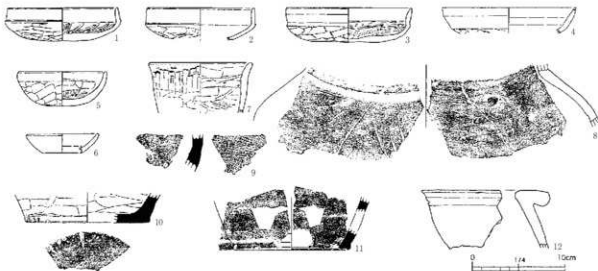
第31表 SK-312出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	物 産	胎土・焼成	色 調	出土位置	備 考
1	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 13.0	胴部下方破片	内面：ヘウナダ・ナダ 外面：磨滅（ナダリ）	緑泥、黒灰色細粒多量、 白色・雲母微粒微量含む、 良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	礎土中破片出 土	外面磨滅調査

## 11. 遺構外出土遺物

東西各5区とも、基本層序第IV層上面まで重機で表土除去を行っていることもあって、遺構に伴わない遺物の量は少なく、遺物収納ケース1箱ほどである。遺構内出土遺物同様、磨滅の著しい小破片が少くない。西1～4区、東1・2区など、南側の調査区から多く出土しており、西1区のものが大半を占める。

時代については、遺構の時期とほぼ同じ古墳時代後期から中近世までの時期のものがある。古墳時代後期の土師器片の破片は、同時期の竪穴建物跡（SI-34）が検出されている西1区から確認されている。平安時代の内面黒色処理が施された土師器片や器壁の薄い甕の破片は、西1～3区、東1・2区から出土している。小破片ではあるが、灰軸陶器も1点確認されている。また、中近世の遺物は少ないが、土師器の小皿や常滑焼の甕の小破片などがある。



第59図 遺構外出土遺物



#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

##### 第32表 遺構外出土遺物観察表

番号	種別	寸法 (cm)	遺存状況	特 徴	胎土・発 成	色 調	出土位置	備 考
1	土師器 灰	口径 11.80 底径 7.0 器高 15.20	底辺少し、口縁 1/4遺存	内面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ 外面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ	緑褐色、黒灰色細粒多量、 白色細粒、雲母微粒若干含む、良好	外：近い(赤褐色) 内：赤褐色・褐色	西区	口縁内面施赤土 反映黄裏
2	土師器 灰	口径 11.20 器高 13.40	口縁部一断面 1/4遺存	内面：口縁部コナナゲ 外面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ	やや暗い、黒灰色・赤色細粒多量、 白色細粒・雲母微粒若干含む、良好	外：近い(褐色) 内：近い(黄褐色)	西区	施赤土 反映黄裏
3	土師器 灰	口径 13.4 底径 8.3 器高 13.60	1/2遺存	内面：口縁部コナナゲ 外面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ	緑褐色、黒灰色細粒多量、 白色細粒少量、雲母微粒若干含む、良好	外：暗褐色 内：褐色	西区	内面施赤土 反映黄裏
4	土師器 灰	口径 14.20 器高 13.70	口縁部一断面 1/4遺存	内面：口縁部コナナゲ 外面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ	やや暗い、黒灰色・褐色細粒多量、 赤色細粒少量含む、良好	外：暗褐色 内：暗褐色	西区	内面施赤土 反映黄裏
5	土師器 灰	口径 13.00 器高 9.40	1/3遺存	内面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ 外面：口縁部コナナゲ、底部ヘナゲキ	緑褐色、黒灰色細粒多量、 赤色細粒若干含む、良好	外：近い(褐色) 内：近い(黄褐色)	西区	反映黄裏
6	土師器 土師土 土師器 土師土	口径 17.80 底径 5.2 器高 2.5	口縁部一断面 1/4遺存	内面：ナゲ 外面：コナナゲ	緑褐色、黒灰色細粒多量、 赤色細粒少量含む、やや不良	外：褐色・明褐色 内：褐色	遺跡内区域	施赤土 反映黄裏
7	土師器 鉢	口径 19.00 器高 15.50	口縁部一断面 1/5遺存	内面：口縁部コナナゲ、胴部ヘナゲキ 外面：口縁部コナナゲ、胴部ヘナゲキ	緑褐色、黒灰色細粒少量含む、良好	外：黄褐色 内：褐色	西区	口縁部施赤土 反映黄裏
8	土師器 皿	胴径 25.60 器高 16.40	胴部破片	内面：ヘナゲキ、ヘナゲキ 外面：ヘナゲキ、胴部斜め方向に黒線4条	やや暗い、黒灰色細粒少量、 白色・雲母微粒若干含む、良好	外：明赤褐色 内：褐色	遺跡内区域	反映黄裏
9	瀬田器 甕	口径 18.0 器高 18.60	胴部破片	内面：ナゲ 外面：平打タタキ	やや暗い、黒灰色・白色細粒多量、 黒灰色・赤色細粒若干含む、良好	外：暗赤褐色 内：暗赤褐色	西区	反映黄裏
10	瀬田器 皿	底径 13.20 器高 13.10	底辺 1/5遺存	内面：ヘナゲキ・ナゲ 外面：ヘナゲキ・ナゲ	緑褐色、白色細粒・黒灰色細粒少量、 黒灰色微粒若干含む、やや不良	外：灰褐色 内：灰褐色	東1区	反映黄裏 底面に近い(赤褐色)
11	瀬田器 甕	底径 12.20 器高 16.30	底部小破片	内面：ナゲ 外面：コロコナナゲ	やや暗い、黒灰色・白色細粒多量、 白色微粒若干含む、良好	外：灰オリーブ色 内：暗褐色	遺跡内区域	
12	土師器土師 土師土	口径 28.40 器高 15.10	口縁部小破片	内面：ヘナゲ 外面：ナゲ	緑褐色、赤色細粒少量含む、 良好	外：明褐色 内：褐色	遺跡内区域	口縁内面施赤土 反映黄裏

##### 第33表 西1区遺構一覧

遺 構 名	グッド	平面形状	主軸方向	上 層 (cm)	下 層 (cm)	深 度	特 徴	出 土 遺 物
SK 1	B-1-2、 C-1	(方形)	N-28°-E	1380 × 1060	1320 × 930	24	大平は調査区外へ延びる。北西コーナーでSK306と重覆。SK306より、北西に向って高低 50 cm、深さ 21 cmの土坑が検出。底面は平地で土坑付近に底面によって重なるように検出される。西コーナー部分の可能性あり。	土師器等灰土・赤褐色土灰土・灰褐色土灰土・灰褐色土灰土・灰褐色土灰土
P1		(横円形)	N-85°-W	60 × 50	33 × 25	21	床面で確認。	
SK 2	B-2	円形	—	48 × 44	16 × 12	34	確認面から 26 cm で有段となる。	
SK 3	B-2、C-2	不整形	—	145 × 90	130 × 90	19	底面はほぼ平地。底面に直径 33 cm、深さ 42 cmの土坑が検出。新旧関係は不明。	
SK 4	B-2	横円形	N-17°-E	38 × 28	25 × 12	31		
SK 5	B-2	横円形	N-10°-E	50 × 30	25 × 18	51	西側でSK6と重覆。第1層は柱状。	灰土・赤褐色土灰土
SK 6	B-2	(横円形)	—	50 × 25	36 × 16	24		
SK 7	B-2	横円形	N-3°-W	65 × 45	20 × 16	64	4基の小土坑 (径 7 × 6 × 11) 重覆。南側でSK8と重覆。西側上層は調査区外。	
SK 8	B-2	(円形)	—	50 × 28	30 × 20	20	北側でSK7、南側でSK10-12と重覆。新旧関係不明。西側は調査区外。	土師器等小破片・灰土 西1区上層
SK 9	B-2、C-2	横円形	N-11°-E	78 × 53	57 × 40	32	北側面に 30 × 19 cm、深さ 5 cm 程度の横円形の小ピット検出。	土師器等小破片・灰土 4区上層上
SK 10	B-2	横円形	N-87°-W	50 × 45	32 × 24	43	西側でSK8・12と重覆。新旧関係不明。	
SK 11	C-2	横円形	N-3°-E	80 × 62	73 × 50	13		
SK 12	B-2	(円形)	—	60 × 25	36 × 20	10	北側でSK8、東側でSK10と重覆。新旧関係不明。西側は調査区外。	
SK 13	B-2	横円形	N-85°-E	70 × 51	60 × 41	23		
SK 14	B-2、C-2	横円形	—	76 × 48	6 × 6	55	底面は小さく平坦状。	
SK 15	B-2-3、 C-2-3	(方形)	N-5°-E	355 × 250	337 × 242	36	東半は調査区外。南壁及び西壁間壁は深さ 10 ~ 15 cmの浅い土坑 (SK17 ~ 19) と重覆。北半床面から 10 ~ 24 cmの土坑を5基検出。	土師器等小破片・灰土 土師器等小破片・灰土 土師器等小破片・灰土 土師器等小破片・灰土 土師器等小破片・灰土
P1		横円形	N-2°-W	36 × 27	20 × 12	16		
P2		横円形	N-3°-E	30 × 25	15 × 10	19		
P3		横円形	N-87°-E	36 × 28	23 × 15	9	位置的に柱穴の可能性が高い。	
P4		円形	—	33 × 23	16 × 15	24	P5と重覆	
P5		(横円形)	N-2°-W	32 × 20	16 × 13	17	P4と重覆	
SK 17	C-2	(略方形)	N-12°-E	57 × 25	45 × 20	15	S16の南壁と重覆。	
SK 18	B-2	(略方形)	N-48°-E	40 × 32	25 × 20	11	S16の南壁と重覆。	
SK 19	B-3	横円形	N-68°-E	62 × 34	48 × 22	21	S16の西壁と重覆。	

第2節 発見された遺構と遺物

SK 20	B-5	円形	—	53 × 52	30 × 27	45	SK21と重覆。	
SK 21	C-3	(長方形)	N-3°-E	105 × 800	90 × 700	12	SK22・SK109と重覆。南土坑より古い。東側は調査区外。	調査土層小横溝 2点、土層中 横溝3点出土。
SK 22	C-3+4	円形	—	96 × (55)	215 × (110)	128	東平は調査区外へ延びる。確認面より60 cmほど下までは円筒状で、以下大きくオーブローミングし、西側「アラス」状を全する。開口部が底面形状のほぼ2倍。	上層部小横溝1 点、中層部小横溝 1点、土層中横溝 1点(調査区外)出土。
SK 23	C-3	(隅丸方形)	N-16°-E	41 × (20)	25 × (12)	37	西平は調査区外。	
SK 24	C-3+4	(隅丸方形)	N-16°-E	42 × (23)	29 × (12)	30	西平は調査区外。	
SK 25	C-3	円形	—	42 × 38	27 × 25	20		
SK 26	C-4	(方形)	N-3°-E	(180) × (55)	(70) × (45)	28	南東コーナーのみ調査。大平が西側の調査区外に延びる。南側でSK24、北側でSK31と重覆。本遺構のほうが高い。底面はほぼ平直で、覆土層から、窪穴等物跡の可能性あり。	上層部横溝から 横溝1点、土層中 横溝1点出土。
SK 27	C-4	横円形	N-13°-E	40 × 29	24 × 18	17	SK26と近接。	
SK 30	C-5	円形	—	44 × (30)	35 × (25)	23	SK33 南壁と重覆。西側は調査区外。	
SK 31	C-5	横円形	N-80°-E	65 × 55	47 × 36	20	SK33 南側平直面を確認。西側土層は調査区外。	
SK 32	C-4	横円形	N-83°-W	72 × 42	46 × 24	23		上層部小横溝1 点出土。
SK 33	C-5, D-5	—	N-4°-E, N-15°-E	—	—	15, 7	2つの段差を持つ平直面を確認。いずれも東西調査区外へ延びる。南側は確認面から12～15 cmほどの段差で、南側に幅90 cm、40 cmほど形状の突出部を持つ。西側で2基の小土坑(SK30-31)と重覆。北側の段差は南壁から1 mほど北側で確認され、ほぼ南側の段差と差を行う。南側の平直面からの段差は70 cmほど高い。北側180 cmにはS101、SK302がある。	
SI 34	C-4	(方形)	N-9°-E	224 × (122)	214 × (164)	15	南西でSK28と重覆する。本遺構のほうが新しい。西側は調査区外、床面で8基の小土坑確認。	互目草類・根腐 菌の遺体・内土 層の遺体、釘等 1点を含む。他 に炭屑類1点、 土層部小横溝1 点(調査区外)出土。
P1	横円形	N-40°-E	39 × 30	29 × 23	21	P2と重覆。		
P2	円形	—	25 × 25	18 × 15	16	P1と重覆。北壁に接する。		
P3	横円形	N-6°-W	40 × 26	26 × 15	27	北東コーナー壁に接する。		
P4	円形	—	29 × 23	14 × 12	9	P7と重覆。東壁に接する。		
P5	横円形	N-51°-W	43 × 29	21 × 10	22			
P6	円形	—	19 × 18	6 × 5	12			
P7	円形	—	22 × 18	7 × 6	15	SK34 覆土を張り込んでいる。P4と重覆。		
P8	円形	—	25 × 25	13 × 11	13	SK34 覆土を張り込んでいる。		
SK 35	C-4	横円形	N-70°-W	50 × 37	36 × 30	16		
SK 36	C-4	横円形	N-12°-E	40 × 34	34 × 21	19		
SK 37	C-4	横円形	N-62°-W	64 × 40	25 × 20	53	北側でSK38と近接。東側段差あり。	上層部小横溝1 点、中層部小横溝 1点、土層中横溝 1点(調査区外)出土。
SK 38	C-4	円形	—	43 × 40	34 × 32	21	南側でSK37と近接。	
SK 39	C-4	不整形	—	123 × 108	82 × 32	28	底面凹凸あり。3基の小土坑(中央95 × 61 cm、深さ27 cm、西55 × (70) cm、深さ8 cm、北:(42) × (40) cm、深さ12 cm)の重覆あり。	中層土層小横溝 2点出土。
SK 40	C-4	横円形	—	34 × 30	20 × 14	19		
SK 41a	D-8	横円形	N-90°	47 × 36	36 × 32	33	SK41aの小土坑の上に、SK41bの横円形の土坑が重覆。	
SK 41b	D-8	横円形	N-0°	75 × 54	70 × 45	21		
SK 42	D-8	円形	—	92 × 90	86 × 75	13		
SK 43	D-8	不整形	N-40°-W	080 × 61	20 × 15	41	60 × (30) cm、深さ41 cmの小土坑に、42 × (35) cm、深さ30 cmの土坑が重覆あり。セクションでは一土坑。西側土層は調査区外。	
SK 44	D-8	円形	—	22 × 20	18 × 14	23		
SK 45	D-8	(横円形)	—	(45) × (17)	(30) × (14)	9	西平は調査区外。	
SK 46	D-8	横円形	N-4°-W	75 × 50	60 × 40	7	西側でSK52と重覆。底面北側で19 × 16 cm、底面からの深さ14 cmの小土坑検出。	
SK 46a	D-8	横円形	N-15°-W	32 × 27	15 × 11	25	3基の小土坑が重覆。新旧関係は不明。	
47b	D-8	(円形)	—	45 × 32	25 × 25	10		
47c	D-8	円形	—	17 × 15	9 × 8	15		
SK 48	D-8	不整形	—	61 × 49	56 × 43	3	南東で人形土坑のSK49を検出。	
SK 49	D-8	円形	—	32 × 31	25 × 25	12		
SK 50	D-8	横円形	N-80°-W	(55) × 46	(45) × 40	12	南側でSK71、東側でSK72、北側でSK51と重覆。SK71より新しい。	上層部小横溝1 点出土。
SK 51	D-8	(円形)	—	(20) × (16)	(23) × (14)	11	南側でSK70・SK72と重覆。	
SK 52	D-8	横円形	N-0°	30 × 26	20 × 15	12	東側でSK46と重覆。	
SK 53	D-7	横円形	N-3°-E	75 × 48	67 × 42	10		
SK 54	D-7	円形	—	22 × 20	11 × 10	11		
SK 55	D-7	円形	—	23 × 20	10 × 9	9		
SK 56	D-7	円形	—	24 × 20	15 × 14	10		
SK 57	D-7	横円形	N-5°-E	35 × 30	20 × 15	14		
SK 58	D-7	横円形	N-0°	45 × 32	34 × 18	20	西側でSK60と重覆。SK60が古い。	
SK 58a	D-7	横円形	N-5°-E	83 × 60	77 × 50	17	底面南側で底面からの深さ3 cmの小土坑(SK58b)検出。	
SK 58b	D-7	円形	—	30 × 24	18 × 17	27		
SK 60	D-7	横円形	N-21°-E	77 × 29	66 × 21	13	北側でSK58と重覆。SK58が新しい。	

第4章 寺之後遺跡の発掘調査

SK 60a	D-7	楕円形	N-17°-E	50×34	29×20	34	2個の小土坑が重畳。	寺域跡内北東部 51(方形)・他 に1土坑(楕円形) 以上。
SK 60b	D-7	(円形)	—	42×(20)	21×(13)	31	2個の小土坑が重畳。	
SK 62	D-7	楕円形	—	46×46	32×30	18		
SK 63	D-6	楕円形	N-0°	32×24	24×17	16	底面北側で11×10cm, 確認部から深さ30cmの小土坑を確認。セクション図から判断すると、この小土坑の南側に新たに20×20cm, 深さ36cmの小土坑が重畳すると判断される。	
SK 64	D-6・7	円形	—	29×25	15×14	9		
SK 65	D-6	楕円形	N-25°-W	64×50	41×48	22		
SK 66a	D-6	楕円形	N-0°	40×38	29×21	20	2個の小土坑が重畳。SK66bが古い。	
66b	D-6	(円形)	—	40×(18)	28×(12)	13	2個の小土坑が重畳。SK66bが新しい。	
SK 67	D-6	楕円形	N-0°	36×30	31×24	16	北側でSK104, 南側でS1101, SK809+105と重畳。新旧関係不明。	
SK 68	D-6	(円形)	—	21×28	15×(15)	8		
SK 69	C-6, D-6	長方形	N-0°	175×130	160×100	11	南側でSK104と重畳。新旧関係は不明。	土層調査で 確認された104・ 69・104+105一部 のD-7
SK 70	D-6	円形	—	28×26	19×18	14		
SK 71	D-8	(楕円形)	N-8°-E	[30]×20	[20]×15	—	SK50と重畳。SK50より古い。	
SK 72	D-8	(円形)	—	40×(30)	34×(25)	26	SK50と重畳。東側は道路により切られている。	
SK 100	D-6	楕円形	N-50°-W	43×32	30×22	38	S1101北西コーナー・SK809と重畳。S1101より新しい。底面よりやや浅く出土。	
SI 101	C-5-6, D-5-6	(長方形)	N-45°-W	[300]×[260]	[285]×[250]	20	東半は調査区外に延びる。南西コーナーで確認。北東コーナーで東半は調査区外に延びる。17°傾斜の土坑よりも古い。カマドは北東北西コーナー一帯に付設されていたと予想される。	土層調査で4点 確認された。他 に1土坑(楕円形) 以上(確認小図 参照)
SK 102	D-5	楕円形	N-0°	190×(120)	130×95	24	北東でS1101と重畳。S1101がない。底面は隅丸長方形。覆土上で確認。数箇出土。	北東部は楕円 の上。土層調査 で4点確認され た。土層調査 で1土坑(楕 円形)以上(認 認小図)以上。
SK 103	D-6	円形	—	42×40	35×34	30	SI101カマド前面で確認。SI101より新しい。	
SK 104	D-6	楕円形	N-85°-W	117×78	78×43	31	SK68+69と重畳。	SK68出土上。
SK 105	D-6	隅丸方形	N-0°	78×58	45×42	23	S1101, SK69と重畳。S1101より新しい。	

第34表 西2区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	主軸方向	上端(m)	下端(m)	長さ	特 徴	出土遺物
SI 73	D-10, E-10	(方形)	N-14°-E	325×300	310×(70)	32	東壁付石礎80cmほど調査。大半は西側調査区外へ延びる。北東コーナー一帯(床面で72×(55)cm, 深さ14cm)の最狭の土坑を確認。浅い。掘り出し位置から貯蔵穴の可能性もあり。	土層調査で4点 確認された。他 に1土坑(楕円形) 以上(確認小図 参照)
SK 74	E-10	円形	—	24×23	16×13	10		
SK 75	E-11	(楕円形)	N-18°-E	125×(50)	112×(45)	12	西半は調査区外に延びる。南東壁側から長さ20cmの残片出土。	
SK 76	F-10	円形	—	19×19	10×8	7		
SI 77	E-11	(方形)	N-0°	(265)×(95)	(250)×(85)	18	北西コーナーから西壁側を確認。大半は東側の調査区外に延びる。南側でSK81と重畳。新旧関係不明。	土層調査で1点 確認された。他 に1土坑(楕 円形)以上(認 認小図)以上。
SK 78	E-11	円形	—	24×23	16×15	11		
SK 79	E-11	楕円形	N-65°-W	(54)×46	35×32	26	西側上端は一部調査区外。上方から長さ約20cmの楕円形残片出土。	
SK 80	E-11	円形	—	29×28	18×18	9		
SK 81	E-11	(円形)	—	(85)×(30)	—	27	西側の上端を確認。大半は調査区外。北側はS177と重畳。	
SI 82	F-11・12, F-12	(方形)	N-2°-W	(310)×(225)	(305)×(225)	28	西側は調査区外。北側はS201と重畳。S201が新しい。カマド・柱穴等は調査区内から掘り出されていない。セクション等からカマドは北側に付設されていたと思われる。	土層調査で1点 確認された。他 に1土坑(楕 円形)以上(認 認小図)以上。
SD 83	E-12, F-12	断面壁台形	N-78°-W	確認幅150	幅48~33	54	東西調査区外へ延びる。南側でSI-82を切る。調査区とはほぼ直交して検出。	西側壁側断面は 1点(石)・他は 土層調査で4点 確認された(3点 以上)。
SK 85	F-13, F-13	楕円形	N-78°-W	803×57	(60)×54	20	西半は調査区外に延びる。北側に直接してSD86が主軸と同方向に延びる。	西側壁側断面は 1点(石)・他は 土層調査で2 点(石)以上(認 認小図)以上。
SD 86	F-13, F-13	断面壁台形	N-77°-W	確認幅145 ~60	幅28~34	10	東西調査区外へ延びる。調査区とはほぼ直交して検出。	西側壁側断面は 1点(石)・他は 土層調査で4 点(石)以上(認 認小図)以上。
SK 87	F-13	円形	—	34×33	15×15	32	西2区南の最北端に位置する。	
SI 89	F-15・16	(方形)	N-0°	324×195	—	3	西半は調査区外。方形で中央が僅かに窪む。底面の状況から貯蔵穴の可能性がある。	
SK 94	O-17	長楕円形	(200)×132	(185)×102	30	西側は調査区外へ延びる。南西上端はなだらかな。北側に位置する。SD95+96a+96bと主軸方向を同じくする。	土層調査で1点 確認された。他 に1土坑(楕 円形)以上(認 認小図)以上。	
SD 95	O-17	断面壁台形	N-87°-W	確認幅73 ~65	幅60~50	19	東西調査区外へ延びる。	西側壁側断面は 1点(石)・他は 土層調査で2 点(石)以上(認 認小図)以上。
SD 96a	O-17・18	断面壁台形	N-89°-E	確認幅52	幅34	16	西側セクションで2条の痕跡であることを確認。東西調査区外へ延びる。	土層調査で1点 確認された。他 に1土坑(楕 円形)以上(認 認小図)以上。

SD 96b G-17・18 断面図平  
なり字状 N-76°-9 礎礎面幅 94 幅 24 22

## 第35表 西3区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	主軸方向	上端 (cm)	下端 (cm)	深さ	特 徴	出土遺物
SI 110	P-21	(方形)	N-10°-E	400 × 200	370 × 200	34	西中と東端部は調査区外。東壁の中央やや幅寄せりにカマドを付設。袖部及び開口のみ調査。北壁及び東壁北端で厚さ1層25cm、深さ7cmの礎礎。カマド袖の内側、南壁部で浅い方形の土坑確認。底面から24 × 20 cm、深さ5 cmほどのピット確認。北東コーナー部寄り床面で幅 × 33 cm、深さ13 cmのピット確認。	厚さ約8 cm、土層厚さ1層厚さ1層を伴った土層が出土。
P-1		方形	N-15°-E	65 × 53	55 × 46	3		
P-2		円形	—	24 × 20	18 × 16	5		
P-3		楕円形	N-54°-E	40 × 33	32 × 23	13		
SK 111	P-21-22	円形	—	63 × 60	45 × 40	18		
SK 112	P-22	(円形)	—	45 × (23)	370 × (20)		東半は調査区外。	
SK 113	P-22	楕円形	N-24°-E	86 × 75	80 × 63	13		
SK 114	P-22	楕円形	N-43°-E	43 × 34	35 × 25	18		
SK 115	P-23、 I-23	楕円形	N-60°-W	115 × 99	88 × 70			土層厚さ約1層厚さ1層を伴った土層が出土。
SK 116	P-23、 I-23	楕円形	N-52°-W	(120) × 120	(102) × 95			
SK 117	I-23	楕円形	N-30°-W	27 × 20	23 × 16			
SK 119	I-24	円形	—	23 × 21	15 × 12	41		
SK 120	I-24	円形	—	28 × 26	16 × 15	40		
SK 121	I-24	楕円形	—	90 × 68	55 × 52	24	北西上端突出	
SK 122	I-24	楕円形	N-30°-E	30 × 24	22 × 19	37		
SK 123	I-24	円形	—	46 × 40	15 × 15	36		
SK 124	I-24	(楕円形)	N-74°-W	(17) × 60	(38) × 39	17	西端は調査区外。	陶器片(東海部)・鉄器片(2点)(1点のみ)。土層厚さ約1層厚さ1層を伴った土層が出土。
SK 125	I-24	円形	—	29 × 25	19 × 16	24		
SK 126	I-24	円形	—	104 × 104	93 × 86	28	南東でSK127と重複。SK127より新しい。	
SK 127	I-24	楕円形	N-50°-W	(27) × 36	(21) × 24	6	北西でSK126と重複。SK126より古い。	
SK 128	I-24	楕円形	N-30°-E	67 × 41	43 × 19	23		
SK 130	I-25	(円形)	—	(12) × (45)	(102) × (40)	28		土層厚さ約1層厚さ1層を伴った土層が出土。
SK 131	I-25	円形	—	27 × 22	16 × 14	14		
SK 132	I-25	円形	—	15 × 14	9 × 9	18		
SK 133	I-25	円形	—	17 × 14	9 × 8	14		
SK 134	I-25	長方形	N-2°-W	87 × 37	75 × 28	21	北側でSK135と重複。SK135より新しい。	
SK 135	I-25	楕円形	N-88°-W	125 × 115	110 × 104	40	南側でSK134、北側でSI 136と重複。SK134より古く、SI 136より新しい。	陶器片(東海部)・鉄器片(1点)。土層厚さ約2点出土。
SI 136	I-25-26、 J-25-26	(方形)	N-2°-E	336 × (162)	325 × (150)	51	東側1/2以上は調査区外。南西コーナーでSK135と重複。SK135より古い。南西コーナー床面で楕円形の土坑。北側床面で2点の土小片出土。	陶器片(東海部)・鉄器片(1点)。土層厚さ約2点出土。
P-1		楕円形	N-0°	77 × 66	63 × 51	16		
P-2		楕円形	N-30°-E	35 × 27	20 × 15	28		
P-3		楕円形	N-43°-W	36 × 30	20 × 13	14		
SK 137	I-26	楕円形	N-0°	47 × 31	40 × 23	30		
SK 138	I-26、 J-26	円形	—	29 × (26)	24 × (20)	13		土層厚さ約1層厚さ1層を伴った土層が出土。
SK 139	I-26、 J-26	円形	—	28 × 23	22 × 16	11	南東に20 × 12 cm、深さ5 cmのピットと重複。	
SK 140	I-26	楕円形	N-0°	36 × 24	25 × 17	18		
SK 141	I-26	円形	—	28 × 26	18 × 16	31	西側上端突出。	
SK 142	I-26	円形	—	49 × 48	39 × 38	30	底面中央北側に直径10 cm、底面から深さ7 cmの小ピット確認。	
SK 143	I-26	円形	—	25 × 24	17 × 16	12		
SK 144	J-26	楕円形	N-21°-W	33 × 20	16 × 12	19		
SK 145	J-26	楕円形	N-70°-W	30 × 24	18 × 15	9		
SK 146	I-26	楕円形	N-60°-W	54 × 27	50 × 24	9	北東コーナー床面で19 × 5 cm、底面から深さ6 cmの小ピット確認。	
SK 147	J-26	楕円形	N-6°-E	44 × 25	36 × 20	9	北東で18 × 11 cm、深さ13 cmの小ピットと重複。	
SK 148	J-26	楕円形	N-15°-E	50 × 30	38 × 24	12		
SK 149	I-26	楕円形	N-0°	49 × 29	40 × 22	19		
SK 150	I-26	楕円形	N-27°-E	42 × 25	32 × 20	17		
SK 151	I-26	(楕円形)	—	56 × (22)	52 × (20)	6		溝と土器片(6点)(3点のみ)出土。
SK 152a	J-26	楕円形	N-80°-W	45 × 25	35 × 17	9	底面から、楕円形の土小片が入れ子状に検出。	

#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

SK 152b	J-26	楕円形	N-38°-W	30×17	18×7	24	新田等は不明。
SK 153	J-27	楕円形	N-09°-W	33×24	21×13	11	
SK 154a	J-27	方形	—	16×15	11×11	32	
154b	J-27	長方形	N-6°	(22)×15	(19)×11	12	
SK 155	J-27	楕円形	N-5°-W	28×24	17×12	10	
SK 156	J-27	楕円形	N-40°-E	32×19	22×14	11	
SK 157	J-27	楕円形	N-33°-E	29×27	22×16	20	西側上端若干陥没。
SI 158	J-27	(方形)	N-9°-E	272×(200)	256×(200)	18	東西壁は調査区外、SK159は床面で確認。
SK 159	J-27	(楕円形)	—	88×(71)	38×(55)	14	整穴住居跡の崩方の可能性もあり。
SK 265	I-26	円形	—	24×24	18×17	33	

上層部は付存した上、石積の遺跡は1区画に限定し、他は土層部(遺構)のみ(詳細調査)の上。

#### 第36表 西4区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	土軸方向	上端 (cm)	下端 (cm)	深さ	特徴	出土遺物
SK 360	J-29	(楕円形)	N-72°-W	(97)×(65)	(92)×(62)	13	北東の一部確認。大半は調査区外。	
SI 361	J-29	野面平床 丸丁字状	N-73°-W	確認面幅77	68~72	14~	東西調査区外。底面は、東端に北-西端が13cmほど低い。	
SK 362	J-30	円形	—	27×22	16×15	15		
SK 363	J-30	円形	—	24×22	15×14	20		
SK 364	K-30	楕円形	N-85°-W	35×25	21×16	15		
SK 365	K-30	円形	—	34×33	21×20	15		
SK 366	K-30-31	楕円形	N-36°-E	208×140	133×100	32	南西上端緩やかに傾斜。	
SK 367	K-31	楕円形	N-65°-W	148×81	78×41	60	自然破壊。	

上層部は表層1区画、東端部は表層1区画、西端部は表層1区画、南端部は表層1区画、北端部は表層1区画、東端部は表層1区画、西端部は表層1区画、南端部は表層1区画、北端部は表層1区画。

#### 第37表 西5区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	土軸方向	上端 (cm)	下端 (cm)	深さ	特徴	出土遺物
SK 266	K-36	円形	—	26×21	15×11	12		
SK 267	K-36	円形	—	36×30	15×15	14		
SK 268	K-36	(円形)	—	36×(25)	21×(17)	14	東半は調査区外。	

#### 第38表 東1区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	土軸方向	上端 (cm)	下端 (cm)	深さ	特徴	出土遺物
SI 248	I-11+12	(方形)	N-10°-E	305×(180)	290×(180)	13	東西壁は調査区外、南西でS3251と重複。南壁と北壁は併行ではなく、東側に向かって広がる。北壁にキマ付設。西キマド西半は調査区外。埋置140cmほど壁外へ突出。物・掘り込み等は確認されなかった。床下の掘り込み=10cm <sup>2</sup> /段差あり。	
SK 251	I-11	不整形	—	(260)×(100)	(255)×(95)	5	北端でS1248と重複。西側は調査区外。整穴住居跡の崩方のような浅い陥没。	
SK 252	I-11	楕円形	N-85°-E	48×30	39×26	15	東側上端若干調査区外。	
SK 253	I-11	円形	—	32×29	26×22	10		
SK 254a	I-10+11	円形	—	25×20	15×13	10		
SK 254b	I-11	楕円形	N-28°-W	26×(18)	16×(14)	10		
SK 255	I-10	楕円形	N-30°-E	28×22	25×15	8		
SK 256	H-9+10、 I-9+10	不整形	—	238×(135)	230×(128)	48	東側は調査区外へ延びる。西側の掘り込みは小ピット3基確認。中央に楕円状の掘り込み(東側は調査区外)確認。	
P1	(楕円形)	—	81×(60)	57×(43)	27		上層部は表層1区画、西端部は表層1区画、北端部は表層1区画、東端部は表層1区画、南端部は表層1区画、北端部は表層1区画。	
P2	楕円形	—	35×16	22×8	10			
P3	楕円形	—	15×10	11×4	4			
P4	楕円形	—	14×9	8×4	17			
SK 257	H-9、I-9	不整形	—	(180)×(60)	(180)×(68)	41	東西調査区外へ延びる。西側が方形状(長さ48cm)。東側は楕円状(長さ38cm)に深く、中央深さ(25cm)がブランク状に浅い。	
SK 258	H-9	楕円形	N-10°-W	61×46	39×14	22		
SK 259	H-9	円形	—	31×29	25×23	10		
SK 260	H-8	楕円形	N-63°-W	31×25	26×26	4		
SK 261	H-8	円形	—	29×26	19×16	3		
SK 262	H-6-7	(楕円形)	—	(590)×(100)	(270)×(80)	14	東側は調査区。底面は南側に向く若干(5cmほど)浅くなる。	
SK 263	G-6	円形	—	42×35	30×25	8		
SK 264	G-6	円形	—	24×19	18×14	8		

#### 第39表 東2区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	土軸方向	上端 (cm)	下端 (cm)	深さ	特徴	出土遺物
SI 234	I-22-23	(隅丸方形)	N-6°-E	370×(115)	252×(110)	16	西壁付石礎確認。東側大半は調査区外。調査区境界の床面で2個の小土柱確認。	
P1	楕円形	—	N-50°-E	53×(42)	41×25	20	床面で確認。東端は調査区外。	
P2	円形	—	—	46×(37)	31×30	18	床面で確認。東端は調査区外。	
SK 244	I-23	(楕円形)	N-17°-E	95×(30)	75×(17)	19	西半は調査区外。	

SK 245	L-23	円形	—	65 × 62	16 × 15	32			
SI 246	L-21-22	(方形)	N-13°-E	400 × (190)	376 × (190)	31-48	東西壁は調査区外、東側調査区側面からカマド軸確認。床面の開口の部みからカマド軸確認。P1～P3は浅く、掘方時の部みやシートの痕跡あり。	遺物層は1点、P1～P3は浅く、掘方時の部みやシートの痕跡あり。遺物層は1点、P1～P3は浅く、掘方時の部みやシートの痕跡あり。	
	P1	楕円形	N-25°-W	22 × 17	17 × 12	4			
	P2	楕円形	N-90°	27 × 19	22 × 13	3			
	P3	(楕円形)	—	55 × (40)	40 × (35)	3	東側は調査区外、カマド軸より古い。		
SK 247	L-21	円形	—	125 × (70)	92 × (55)	30	西中は調査区外。		

第40表 東3区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	主軸方向	上 端 (cm)	下 端 (cm)	深さ	特 徴	出土遺物
SK 171	N-25	楕円形	N-6°-E	63 × 52	36 × 27	33		土師器片1点、瓦片1点
SK 233	N-25	楕円形	N-5°-E	94 × 63	78 × 47	42	西側でSI 243カマドと重複。SI 243より新しい。SI 243の遺物一部と接合。	土師器片2点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点
SK 235	N-25	円形	—	37 × 36	19 × 19	12	SK235～238重複。	
SK 236	N-25-26	円形	—	29 × 25	17 × 13	13		
SK 237	N-25	円形	—	23 × 22	14 × 12	30		
SK 238a	N-25	円形	—	33 × 32	25 × 23	13	同一土坑の段差。	
SK 238b	N-25	円形	—	18 × 17	10 × 9	39		
SK 239	N-26	円形	—	24 × 20	30 × 10	15		
SK 240	N-26	楕円形	N-51°-W	46 × 31	14 × 13	60		瓦片、土師器片
SK 241	N-26	円形	—	21 × 19	16 × 14	9		
SK 242	N-25	楕円形	N-80°-W	45 × 35	30 × 23	40	SI 243の遺物と一部接合。断面図からSI 243のカマド側出し部と判別。	土師器片1点、土師器片1点
SI 243	N-25	(方形)	N-B°-E	(200 × 200)	(193 × 200)	24	東口(南端)に位置し北壁に付設されたカマド周辺約1 m以内は、調査区外となる。カマド側面東側SK233と重複。SK233より古い。カマド右袖のみ遺存。北壁はカマドの高欄に比べ東側が4.0 cmほど北側へ張り出す。カマド東側床面より、北壁に接して方形の土坑検出。約6個と思われる。SK-233・242の遺物と接合。	遺物層中2点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点、土師器片1点

第41表 東4区遺構一覧

遺構名	グリッド	平面形状	主軸方向	上 端 (cm)	下 端 (cm)	深さ	特 徴	出土遺物
SK 170	0-32	(長方形)	N-77°-W	(105 × 89)	(102 × 80)	13	東側は調査区外、北西コーナーに附して60 × 52 cm、透面・20 cm以上の土字状の張り込み確認。	土師器片1点
SK 172	0-32	楕円形	N-86°-W	50 × 32	35 × 25	10		
SK 173	0-32	楕円形	N-54°-W	31 × 25	21 × 15	15		
SK 174a	0-32	楕円形	N-90°-W	33 × 21	25 × 13	20	南側にSK174 bと重複。東側土層は若干異なる。	
SK 174b	0-32	(円形)	—	18 × (10)	12 × (5)	5		
SK 175	0-32	楕円形	—	(34 × 26)	(33 × 16)	9	西側は調査区外。	
SK 176a	0-32	円形	—	35 × 30	24 × 20	11	東側SK176 bと重複。	
SK 176b	0-32	(円形)	—	26 × 24	20 × 18	10		
SK 177	0-32	円形	—	29 × 25	21 × 18	10		
SK 178	0-32	楕円形	N-20°-E	35 × 30	26 × 18	16	西側土層一部調査区外。	
SK 178a	0-32	楕円形	N-1°-W	29 × 22	20 × 14	16	東側SK179 bと重複。	
SK 178b	0-32	(円形)	—	22 × (14)	16 × (9)	9		
SK 180	0-32	円形	—	24 × 24	14 × 13	21	西側土層一部調査区外。	
SK 181	0-32	円形	—	27 × 25	19 × 17	25		
SK 182a	0-32	楕円形	N-22°-E	51 × 44	36 × 29	39	西側土層一部調査区外。	
SK 182b	0-32	楕円形	N-80°-W	18 × (15)	10 × (10)	12	東側SK182 cと重複。	
SK 183	0-32	円形	—	30 × 24	19 × 15	13		
SK 184	0-32	円形	—	27 × 22	21 × 16	7		
SK 185	0-32	楕円形	N-42°-W	32 × 26	20 × 14	20		
SK 186	0-32	楕円形	N-39°-E	46 × 26	36 × 19	24		
SK 187	0-32	円形	—	40 × 33	20 × 20	40		
SK 188	0-32	円形	—	35 × 31	20 × 18	30		
SK 189	0-31・32	円形	—	30 × 30	22 × 20	23	西側土層若干削れている。	
SK 191	0-31	円形	—	18 × 16	11 × 10	21		
SK 192	0-31	楕円形	N-4°-E	32 × 22	17 × 13	26		
SK 193	0-31	楕円形	N-69°-W	46 × 45	31 × 25	32	北側土層若干削れている。	
SK 194	0-31	楕円形	N-82°-W	44 × 34	18 × 15	67		
SK 195	0-31	楕円形	N-88°-E	66 × 39	33 × 20	25	西側は調査区外。	
SK 196	0-31	(円形)	—	124 × 80	116 × 60	16	西中は調査区外。	
SK 197	0-31	楕円形	N-4°-E	25 × 18	17 × 11	12		
SK 198	0-31	楕円形	N-0°	27 × 21	21 × 15	8		



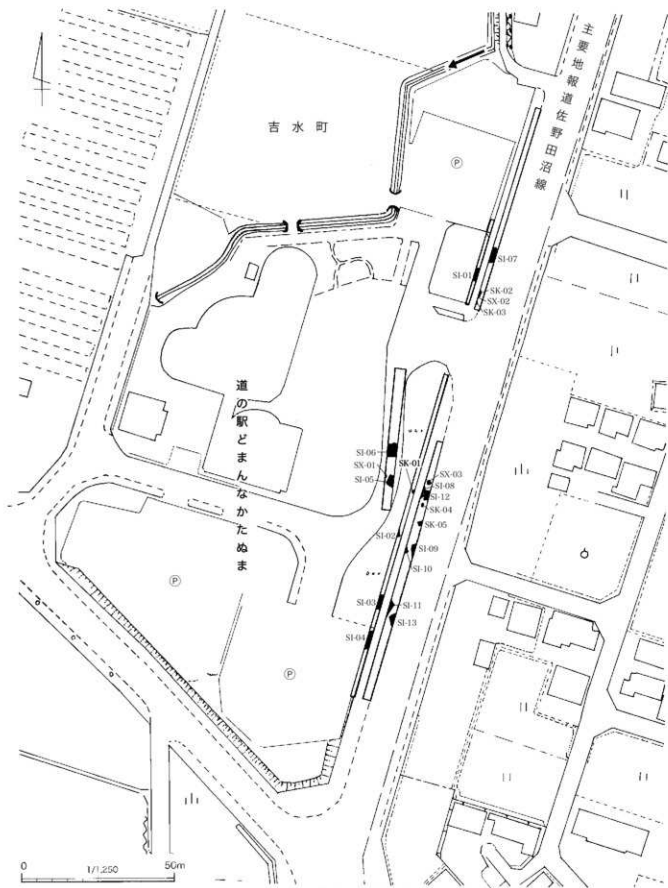
## 第3節 平成12年度工事立会調査

ここでは、平成13年(2001)1月15・16・26日、3月13日の4日間、栃木県教育委員会事務局文化財課が行った主要地方道佐野田沼線の歩道拡幅工事に伴う寺之後遺跡の工事立会調査で検出された遺構と出土遺物について、概要を報告する。工事立会調査の場所は、道の駅「どまんなかたぬま」の東側で、主要地方道佐野田沼線の西側歩道部分と、道の駅への進入路である。西側歩道部分は、今回の発掘調査区(西区)の南側延長上にあたり、過去の2回の調査から寺之後遺跡の中心部分に位置することが予想された。工事立会調査であるため、遺構は個々の角などを起点としてメジャーで測量した略測図のみで、出土遺物も遺構ご

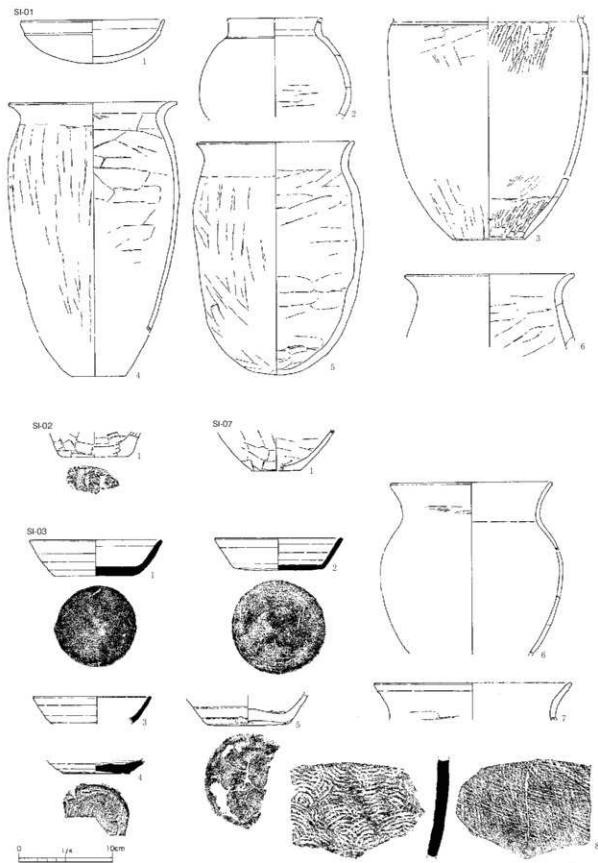
第43表 平成12年度工事立会遺構一覧

遺構	位置	調査範囲	重複・近接する遺構	出土遺物	調査日
SI-01	歩道西側、北寄り	南・北壁を確認、南北間約4m	北東3mにSI-07、南東5mにSK-02が位置する。	土師器環1点・甕1点・甕3点を図化。他に土師器環破片2点、甕胴部破片4点あり。	1月16日
SI-02	歩道西側、中央	南東コーナーを調査	東側3mにSI-07、南東5mにSK-02	土師器甕底部1点のみ図化。	1月16日
SI-03	歩道西側、南寄り	南・北壁を確認、南北間約5.5m	東側にSI-13(同一または重複)が位置する。	須恵器環4点・甕破片1点、土師器甕底部1点・甕2点を図化。他に土師器甕破片3点あり。	1月16日
SI-04	歩道西側、南寄り	南・北壁を確認、南北間約5.5m	北側5mにSI-03が位置する。	なし。	1月16日
SI-05	取り付け道路	住居西半を調査、南北間約4m	西側1mにSX-01、北側5mにSI-06が位置する。	土師器環4点・甕1点、須恵器環1点を図化。他に土師器環破片6点、甕胴部破片3点あり。	1月15日
SI-06	取り付け道路	南・北壁を確認、南北間約4.5m	南側5mにSI-05、SX-01が位置する。	なし。	1月15日
SI-07	歩道東側、北寄り	南・北壁を確認、南北間約4m	南西3mにSI-01が位置する。	土師器甕底部1点のみ図化。	3月13日
SI-08	歩道東側、中央	住居東側を調査	東側SI-12と重複。	棒状鉄製品1点、土師器甕破片8点。	1月26日
SI-09	歩道東側、中央	北西コーナーを調査	西側1mにSI-10が位置する。	土師器甕破片1点。	3月13日
SI-10	歩道東側、中央	南東コーナーを調査	東側1mにSI-09が位置する。	なし。	1月26日
SI-11	歩道東側、南寄り	住居東側を調査、南北間約5.5m	西側にSI-03(同一または重複)、南東でSI-13と重複	土師器環1点、須恵器高台付環1点・甕1点・甕2点を図化。他に土師器環破片4点、甕胴部破片10点あり。	1月26日
SI-12	歩道東側、中央	住居西半を調査	西側SI-08と重複。	土師器環1点のみ図化。他に土師器甕胴部破片2点。	3月13日
SI-13	歩道東側、南寄り	北西コーナーを調査	北西でSI-11と重複。	土師器高台付環1点・甕1点、須恵器甕破片37点を図化。土師器甕の胴部破片9点、須恵器甕胴部小破片約50点あり。	3月13日
SK-01	歩道西側、南寄り	西側一部を調査	東側にSI-08・12、SK-04、SX-03が位置する。	土師器高台付環1点を図化。他に高台部1/3破片あり。	1月16日
SK-02	歩道東側、北寄り	小穴	SX-02と重複。	なし。	1月26日
SK-03	歩道東側、北寄り	東半を調査	北側1mにSX-02が位置する。	なし。	3月13日
SK-04	歩道東側、中央	西半を調査	北側2mにSI-08・12が位置する。	なし。	1月26日
SK-05	歩道東側、中央	東側一部を除き調査	北側5mにSK-04、南側6mにSI-09・10が位置する。	なし。	1月26日
SX-01	取り付け道路	東側一部を調査	東側1mにSI-05が位置する。	土師器環1点を図化。他に土師器甕胴部破片2点あり。	1月15日
SX-02	歩道東側、北寄り	東側一部を調査	SX-02と重複、南側1mにSK-03が位置する。	土師器環1点を図化。	1月26日
SX-03	歩道東側、中央	完掘	南側2mにSI-12が位置する。	なし。	3月13日





第60図 平成12年度工事立会調査位置図

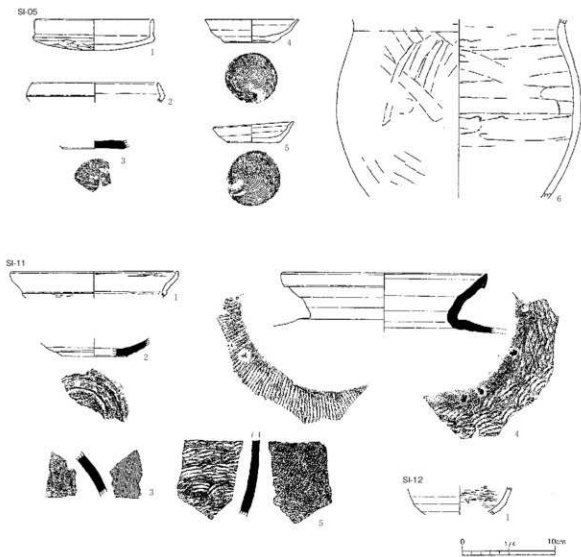


第61図 SI-01～03・07出土遺物

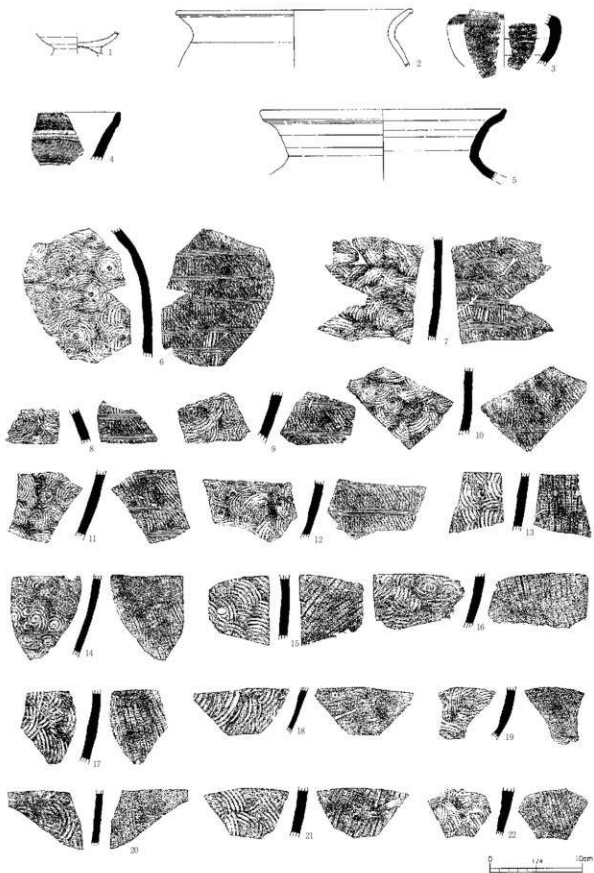
とに取り上げており、出土位置等詳細な記録は行っていない。

遺物カードの日付や略測図などから、工事立会調査の4日間の調査地区を判断すると、1月15日は道の駅進入路の部分、幅3m、長さ40mほどを調査し、竪穴建物跡2軒と不明遺構1基を確認している。歩道の拡幅工事の調査区は、現歩道の西側0.5mと東側1.5mの幅で、長さ150mほどである。1月16日は現歩道西側を調査し、竪穴建物跡3軒、土坑1基を確認した。1月26日には現歩道東側の北半を調査し、竪穴建物跡2軒と土坑2基、不明遺構1基を確認し、南半は3月13日に調査し、竪穴建物跡2軒と土坑1基、不明遺構1基を確認している。遺構は竪穴建物跡(SI)13軒、土坑(SK)5基、不明遺構(SX)3基で、合計21の遺構が確認されており、SI-08とSI-12、SI-11とSI-13が重複している。

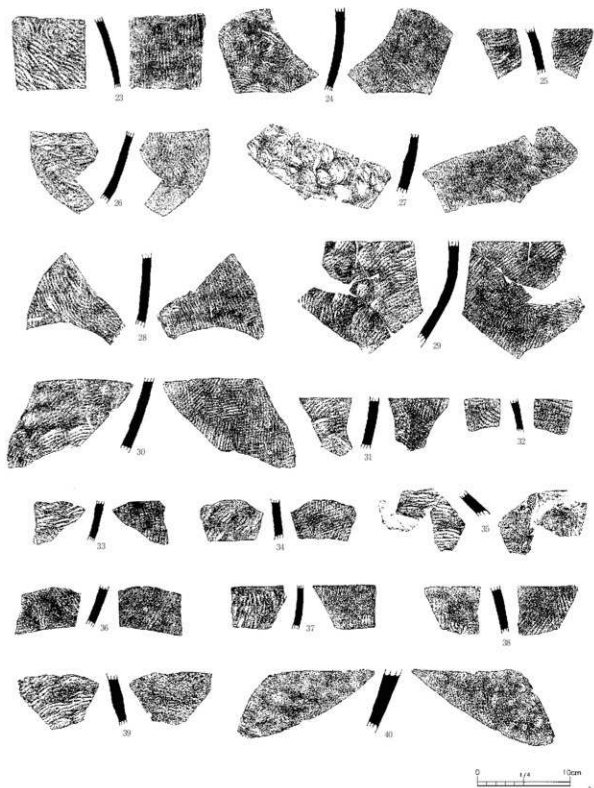
なお、出土遺物から各遺構の時期を推定すると、SI-01が7世紀後葉、SI-02不明、SI-03が8世紀後葉～9世紀前半、SI-05が7世紀代と10世紀以降の遺物があり遺構の重複も考えられる。SI-07は9世紀代、SI-11とSI-13が7世紀代、SI-12が9世紀後葉、SK-01が10世紀前半、SX-01が9世紀後葉、SX-02が10世紀代に概ね比定される。



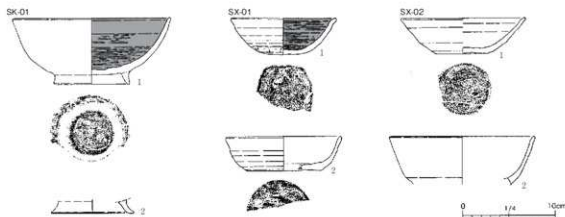
第62図 SI-05・11・12出土遺物



第63図 SI-13出土遺物(1)



第64図 SI-13出土遺物(2)



第65図 SK-01, SX-01・02 出土遺物

第44表 SI-01 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	土師器 埴	口徑 15.0 底径 — 器高 4.6	1/2 遺存	内面：不明 外面：不明	今午焼い、黒灰色細粒多量、赤色・白色細粒少量、黒灰色、白色細粒若干含む、今午不具	外：黒色、明赤褐色 内：じぶい・褐色	内外面磨減顕著
2	土師器 鉢	口徑 10.0 胴径 10.0 器高 10.3	胴部1/3 遺存、破片組合	内面：ヘウナデ・ナデ 外面：磨減不明	今午微焼、黒灰色・赤色細粒少量、白色細粒微量含む、今午不具	外：褐色 内：じぶい・褐色	内外面磨減顕著 胴部下半部黒斑 反転痕跡
3	土師器 甕	口徑 22.2 底径 7.4 器高 33.4	胴部及び底面破片	内面：ヘウナデ・ヘウナミガキ 外面：ヘウナデ・ナデ	今午微焼、黒灰色・赤色細粒多量、赤色粗粒、白色細粒少量含む、今午不具	外：じぶい・褐色 内：黒色	内面黒色処理 外面磨減 反転痕跡
4	土師器 甕	口徑 17.9 底径 — 器高 124.0	胴部下半欠損	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘウナデ・ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘウナデ	細い、黒灰色粗粒多量、白色粗粒・赤色細粒少量含む、良好	外：褐色・じぶい・褐色 内：じぶい・褐色	
5	土師器 甕	口徑 16.8 底径 — 器高 124.0	3/4 遺存	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘウナデ・ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘウナデ	細い、黒灰色粗粒多量、白色細粒少量含む、良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色（胴部下半にじぶい・赤褐色）	胴部外面磨減、剥落顕著
6	土師器 甕	口徑 18.0 底径 — 器高 12.2	口縁部～胴部1/4のみ遺存	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘウナデ・ナデ 外面：口縁部ヨコナデ	今午焼い、黒灰色・赤色・白色細粒多量、黒灰色粗粒少量含む、良好	外：褐色 内：じぶい・褐色	表面化粧土貼り付付、黒斑及び剥離顕著

第45表 SI-02 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	土師器 甕	口徑 — 底径 8.0 器高 12.7	底面小破片	内面：ヘウナデ 外面：ヘウナデ、ヘウナデ	今午微焼、黒色細粒多量、赤色・白色細粒微量含む、良好	外：褐色 内：褐色	反転痕跡

第46表 SI-03 出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	甍色器 埴	口徑 14.0 底径 8.6 器高 3.8	口縁部1/4 欠損	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底面平持ち～ウツケ切	微焼、黒灰色・白色細粒多量含む、良好	外：灰色 内：灰白色	
2	甍色器 埴	口徑 13.7 底径 10.0 器高 3.4	口縁部～胴部1/4 欠損	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底面凹面ヘウツケ切、平持ち～ウツケズリ	微焼、黒灰色・赤色・白色細粒少量含む、今午不具	外：灰白色 内：灰褐色	
3	甍色器 埴	口徑 12.0 底径 — 器高 12.9	口縁部～胴部1/4 遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	微焼、黒色粗粒多量、白色細粒少量含む、良好	外：黄灰色 内：黄灰色	反転痕跡
4	甍色器 埴	口徑 — 底径 7.0 器高 11.0	底面3/2 遺存	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底面凹面平切	微焼、黒灰色粗粒少量、白色細粒微量含む、良好	外：灰白色 内：灰白色	反転痕跡

#### 第4章 寺之後遺跡の発掘調査

5	土師器 土器	口徑 — 底径 9.9 器高 13.2	— — — — —	内面：ロコナデ 外面：ロコナデ	やや粗い。黒灰色・赤色・白色顔料多量。白色顔料少量。黒色顔料少量含む。良好。	外：濃い褐色 内：濃い褐色	底面化粧土取り付く。 底面及び内面磨光。
6	土師器 甕	口徑 16.80 底径 — 器高 18.3	— — — — —	内面：口縁部ココナデ。胴部磨減不明 外面：口縁部ココナデ。胴部磨減不明	細密。黒灰色・赤色顔料少量。赤色顔料若干含む。良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	反転産出
7	土師器 甕	口徑 13.10 底径 — 器高 13.8	— — — — —	内面：ココナデ 外面：ココナデ 口縁部外面に幅0.7cmほどの平足面が凸起	細密。黒灰色・赤色・白色顔料多量含む。良好	外：明赤褐色 内：明赤褐色	反転産出
8	新石器 甕	口徑 — 底径 — 器高 —	— — — — —	内面：同心円文タタキ 外面：格子文の平行タタキ	細密。黒灰色顔料少量含む。良好	外：黄灰色・褐色 内：灰白色	外面磨減顯著

第47表 SI-05 出土遺物観察表

番号	種類	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	土師器 罎	口徑 112.60 底径 — 器高 3.1	— — — — —	内面：口縁部ココナデ 外面：口縁部ココナデ。基部ヘラタズリ 口縁部は亀裂に打ち上がる。	細密。黒灰色顔料・白色顔料多量。赤色顔料・黒灰色顔料若干含む。やや不貞	外：赤褐色 内：赤褐色	内外面磨減顯著
2	土師器 罎	口徑 112.40 底径 — 器高 12.1	— — — — —	内面：ロコナデ 外面：ロコナデ 口縁部は「く」の字に内縁。	細密。黒灰色顔料・赤色顔料多量。白色顔料少量含む。良好	外：赤褐色 内：赤褐色	磨減顯著 反転産出
3	新石器 罎	口徑 — 底径 96.50 器高 96.9	— — — — —	内面：ロコナデ 外面：底面磨減面切り	細密。黒灰色・白色顔料少量含む。良好	外：暗黄灰色 内：暗黄灰色	反転産出
4	土師器 皿	口徑 110.00 底径 4.8 器高 2.4	— — — — —	内面：ロコナデ 外面：ロコナデ 底面磨減面切り	細密。黒灰色・赤色顔料多量。白色顔料少量。灰色顔料若干含む。良好	外：褐色 内：褐色	全体的に磨減
5	土師器 皿	口徑 8.9 底径 6.0 器高 2.2	— — — — —	内面：ロコナデ 外面：ロコナデ 底面磨減面切り	細密。黒灰色・赤色顔料多量。白色顔料少量。灰色顔料若干含む。良好	外：褐色 内：褐色	全体的に磨減
6	土師器 甕	口徑 26.00 底径 — 器高 18.0	— — — — —	内面：ヘラナデ 外面：ヘラナデ・ココナデ	細密。黒灰色・赤色顔料多量。白色顔料少量。黒灰色・白色顔料若干含む。やや不貞	外：赤・赤褐色 内：褐色	外面磨減 反転産出

第48表 SI-07 出土遺物観察表

番号	種類	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	土師器 甕	口徑 — 底径 15.2 器高 16.2	— — — — —	内面：ヘラナデ・ココナデ 外面：ヘラタズリ・ヘラナデ	細密。黒灰色・赤色顔料多量。白色顔料少量。黒灰色顔料若干含む。良好	外：明褐色 内：明赤褐色	内外面磨減 反転産出

第49表 SI-11 出土遺物観察表

番号	種類	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・焼成	色調	備考
1	土師器 罎	口徑 117.80 底径 — 器高 12.8	— — — — —	内面：ヘラタズリ・ココナデ 外面：口縁部ココナデ。基部ヘラタズリ・ヘラナデ	細密。黒灰色・赤色顔料多量。白色顔料少量含む。良好	外：褐色 内：褐色	磨減顯著 反転産出
2	新石器 高台付罎	口徑 — 底径 116.50 器高 12.4	— — — — —	内面：ロコナデ 外面：ロコナデ	細密。黒灰色顔料多量含む。やや不貞	外：灰色 内：黄灰色	高台部剥落 磨減顯著 反転産出
3	新石器 皿	口徑 — 底径 — 器高 —	— — — — —	内面：ナデ 外面：点ナメ	細密。黒灰色・赤色顔料少量含む。赤色顔料若干含む。やや不貞	外：灰色 内：褐色	—
4	新石器 甕	口徑 121.60 底径 — 器高 16.2	— — — — —	内面：口縁部ココナデ。胴部同心円文印赤 外面：口縁部ココナデ。胴部縦方向平行印赤 外面及び胴部内面に磨減付着。	細密。黒灰色・白色顔料多量含む。良好	外：灰色 内：黄灰色・黄灰色	反転産出
5	新石器 甕	口徑 — 底径 — 器高 —	— — — — —	内面：同心円文タタキ 外面：平行タタキ・ナデ	細密。黒灰色・白色顔料多量含む。良好	外：灰色 内：暗灰色	外面磨減顯著

第50表 SI-12出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・地成	色調	備考
1	土師器 片	口径 —	— 底面1.6cmのみ遺存	内面：ヘラミ字 外面：コクロナテ	緑色、黒灰色細粒多量、白色少量、黒灰色粗粒若干含む。やや不貞	外：L2.0~褐色 内：褐色	外面黒色剥離 反転現象
	口径 —						
	底径 12.9						

第51表 SI-13出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・地成	色調	備考
1	土師器 高台付片	口径 —	— 底面のみ遺存	内面：ナテ 外面：ナテ	緑色、赤色細粒多量、黒灰色細粒少量含む。やや不貞	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	剥離現象 反転現象
	口径 —						
	底径 12.3						
2	土師器 甕	口径 15.2	— 口縁一箇所破片	内面：口縁部コナテ 外面：口縁部コナテ	緑色、黒灰色、赤色細粒多量、白色細粒微量含む。やや不貞	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	剥離現象 反転現象
	口径 —						
	底径 16.1						
3	瓶出器 皿	口径 —	— 胴部小破片	内面：ヘラミ字、ナテ 外面：肩位多量の沈線と細粒の縦行短沈線が並ぶ。胴部下半へラミ字	緑色、黒灰色、白色細粒多量含む。良好	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	反転現象
	口径 —						
	底径 15.9						
4	瓶出器 甕	口径 —	— 口部小破片	内面：コナテ 外面：口縁部コナテ。胴部に2cmの間隔で浅い沈線が並ぶ。胴に細粒面状を呈す。	緑色、黒灰色、白色細粒多量、白色細粒少量含む。良好	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	内面全周凹凸あり
	口径 —						
	底径 15.4						
5	瓶出器 甕	口径 27.0	— 口部破片1/4のみ遺存	内面：口縁部コナテ 外面：口縁部コナテ。沈線が並ぶ。外面及び口部内面に黒粒付着。	緑色、黒灰色、白色細粒多量、白色粗粒若干含む。良好	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	同一個体破片2点 反転現象
	口径 —						
	底径 18.0						
6~12	瓶出器 甕	口径 —	— 胴部破片	内面：胴部同心円状で黒粒 外面：縦方向平行印状。2~3cm間隔でカキ	緑色、黒灰色、白色細粒多量含む。やや不貞(胴面赤褐色)	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	反転現象
	口径 —						
	底径 —						
13~19	瓶出器 甕	口径 —	— 胴部小破片	内面：胴部同心円状で黒粒、ナテ 外面：平行印状、ナテ 外面自然黒粒付着の破片あり	緑色、黒灰色、白色細粒多量含む。良好	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	13は胴部破片付着。
	口径 —						
	底径 —						

第52表 SK-01出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・地成	色調	備考
1	土師器 高台付片	口径 16.8	— 口縁部一帯1/3、高台部1/3欠損	内面：ヘラミ字 外面：コクロナテ 内面黒色処理	やや不貞。黒灰色細粒多量、赤色、白色細粒少量。黒灰色粗粒若干含む。やや不貞	外：L2.0~褐色 内：黒色	内面黒色処理 剥離現象
	口径 —						
	底径 8.9						
2	土師器 高台付片	口径 —	— 高台部1/3のみ遺存	内面：コナテ 外面：コナテ	やや不貞。黒灰色細粒少量、赤色、白色細粒若干含む。黒灰色粗粒若干含む。やや不貞	外：L2.0~褐色 内：褐色	剥離現象 反転現象
	口径 —						
	底径 8.6						

第53表 SX-01出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・地成	色調	備考
1	土師器 片	口径 11.2	1/2遺存	内面：ヘラミ字 外面：コクロナテ、膝部下端、底面半円ヘラミ字	やや不貞。黒色、白色細粒少量。雲母微粒、黒色粗粒若干含む。良好	外：赤褐色 内：黒色	内面黒色処理
	口径 —						
	底径 5.8						
2	土師器 片	口径 13.4	1/3遺存	内面：コクロナテ 外面：コクロナテ、底面剥離不明	やや不貞。黒灰色、赤色細粒少量含む。不貞	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	剥離現象 反転現象
	口径 —						
	底径 7.4						

第54表 SX-02出土遺物観察表

番号	種別	寸法(cm)	遺存状況	特徴	胎土・地成	色調	備考
1	瓶出器 片	口径 13.2	— 口縁部一帯1/3欠損	内面：コクロナテ 外面：コクロナテ、底面凹陥未切り	緑色、黒灰色・赤色、白色細粒少量、黒灰色粗粒若干含む。不貞	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色・黄褐色	外面黒色剥離
	口径 —						
	底径 6.6						
2	土師器 埴	口径 15.2	— 1/5遺存	内面：コクロナテ 外面：コクロナテ	やや不貞。黒灰色細粒多量、黒灰色粗粒、白色、赤色粗粒若干含む。やや良好	外：L2.0~褐色 内：L2.0~褐色	全体の2割減。 反転現象
	口径 —						
	底径 15.1						



## 第5章 まとめ

### 第1節 興聖寺城跡・寺之後遺跡の調査成果

今回の興聖寺城跡・寺之後遺跡の発掘調査は、主要地方道佐野田沼線吉水工区の幅員1.5mの歩道を、幅員3.5mの自転車歩行者道に拡幅整備する事業に伴うもので、両遺跡を縦断する道路(N-16°E方向)に沿って幅2mほどのトレンチ調査を行ったようなものであった。そのため、これまで発掘調査が一度も行われていない興聖寺城跡については、西側土塁の外堀の確認、これまで2回の発掘調査が行われている寺之後遺跡については、古代集落跡(古墳時代後期～平安時代)の北への広がりの確認などが期待された。

【興聖寺城跡】調査区は道路の東側で、墓地造成と主要地方道佐野田沼線建設の際に削り取られ狭くなっているが、西側土塁とほぼ並行している。調査の結果、多くの部分は昭和40年代の泉道造成の際に、現地表から1.5～2.0mの深さまで掘削・埋め戻しが行われていることが確認された。今回の調査区は幅が狭く、さらに西側は現歩道に接しており、安全面から1.5m以上は深掘りを断念せざるをえなかったため、外堀の掘り込みや側面などを確認できた調査区はなかった。唯一、4区で現表土から2.5mの深さまで断ち割り調査を行い、堀の覆土の一部を確認したものの、側面や底面を確認するまでには至らなかった。なお、外堀の南側に位置するM-2区から、一部しか調査できなかったが方形竪穴と思われる遺構が1基確認されている。

遺物は、中近世のものと思われる磨滅の著しいかわらけや内耳土器・陶器などの小破片がわずかに出土したのみで、多くは昭和40年代の道路建設の際に埋められた陶磁器や瓦・ガラス類などであった。

なお、試掘調査対応の道路西側については、現在のところ北側の一部の立会調査(平成24年5月10日)を行ったのみであるが、遺構・遺物は確認されなかった。

【寺之後遺跡】今回の調査では、竪穴建物跡17軒、土坑244基(小土坑192基)、溝跡6条、井戸跡1本などを確認した。残念ながら竪穴建物跡は完掘できたものはない。SI-101が古墳時代後期、SI-34が中世の方形竪穴遺構である以外は、平安時代を中心とした竪穴建物跡と考えられる。調査区の間接から推測の城を出ないが、古墳時代後期よりも平安時代の竪穴建物跡の方が北への広がりがみられる。カマドを確認した竪穴建物跡のうち、カマドを挟んで左右の壁が一直線とならないものが3軒(SI-243、303、304)確認された。いずれも平安時代の竪穴建物跡で、カマドは北壁に付設されており、突出する方のみには地山を掘り残した袖がみられるのが特徴的である。

土坑は直径1mを越える土坑は少なく、約8割が直径50cm以下の小土坑である。SK-141・151で縄文土器片が出土している以外は、遺物の出土がほとんどなく時期比定を困難としているが、竪穴建物跡との重複関係や覆土の特徴などから、中近世のものと考えられる。天目埴の破片と五輪塔の地輪が出土したSK-102や、土師器小皿と永楽通寶が出土したSK-306などは墓壇と考えてよさそう。このほか、井戸跡(SE-307)や東西に延びる溝跡(SD-83・85・95・96・161)なども、わずかな出土遺物であるが中近世のものと考えられる。

このように、今回の発掘調査では、過去2回の発掘調査と同じ古墳時代後期から平安時代の竪穴建物跡も確認されたが、新たに中近世の遺構もたくさん検出された。また、明確にはできなかったが、北側の西4区北半から西5区には遺構の分布が認められず、砂礫層が確認されていることから、旧河道が存在したと考えられる。これについては、後述するように、江戸中期頃の作といわれている蓼沼家所蔵の古絵図に描かれている城跡を囲む南側の外堀との関連が考えられる。

## 第2節 興聖寺城関連史料と発掘調査

今回の興聖寺城跡の発掘調査では、大きな成果を得ることはできなかったが、関連史料やこれまでの研究から興聖寺城跡について概要を記し、発掘調査成果を含め、興聖寺城跡の周辺の状況などについて若干述べてみたい。

【城跡の名称について】 本報告書では、この城跡跡を興聖寺城跡としているが、もうひとつ清水城跡の名称がある。興聖寺城跡の名称については、現在、曲輪内が興聖寺の境内となっていることから、『栃木市町村史（昭和30年刊）』以後の『日本城郭体系』や『栃木県中世城跡』等で使用されている。興聖寺は佐野基綱の婦人が千光国師榮西を招請して、天福寺興聖寺として田入（田之入町）に臨濟宗佐野4か寺の一つとして建立され、佐野家没落後の寛永一二年（1635）にこの地に移転し、現在に至っている。興聖寺があるところの城跡跡ということで一般にはわかりやすいが、当時の城の名称ではないことは明らかである。

一方、佐野市では、興聖寺城跡を清水城跡として市の史跡に指定している。古文書『佐野領野村清水御城内』でこの城を「清水御城」「清水ノ城」「吉水ノ城」と記していること、菊沢川の左岸の微高地上に立地し、東には秋山川が流れており、第2章でも述べているように扇状地下の伏流水の湧出が豊富な地点を選地していること、さらに蓼沼家所蔵の古絵図（第66図）でも明らかのように、各曲輪が水堀で囲まれていることなどから、清水城と呼称されていた可能性は高く、正鵠を得ている。

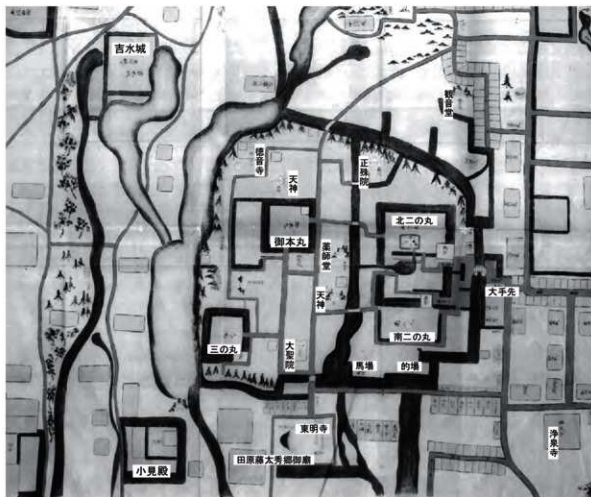
【興聖寺城跡の現況】 現在の興聖寺の境内一帯が城跡跡である。東西116m、南北133mのほぼ方形で、周囲に土塁と堀の一部が残る。東側および北側と南側の東半は、土塁と堀跡が良く残っているが、西側の土塁は墓地造成と主要地方道佐野田沼線建設の際に削り取られ狭くなっており、外堀はすでに埋められてしまっている。土塁付近は竹や木が生い茂って蔽になっている。東側には興聖寺の正門があり、その両側に石垣がみられるが、築城当時のものではなく、興聖寺がこの地に移ったとき築かれたものといわれている。

【興聖寺城跡の築城と廃城】 興聖寺城（清水城）は、『栃木県誌』などによると、安貞2年（1228）、佐野国綱が岩崎義基のために築いたとある。しかし、「清水城及び佐野由来の覚」（内田文書）には、建仁元年（1201）に城が築かれ、大永2年（1522）まで西佐野家が居住したとあることから、築城がさらに四半世紀ほど遅る可能性も指摘されている（出居2012）。

その後は子孫が代々居住したが、永正年間（1504～1521）、義基12代の孫、左馬介重長が岩崎城へ移り、大永元年（1521）には佐野秀綱の居城となるが、慶長19年（1614）、佐野氏改易とともに廃城となった。その後は寛永一二年（1635）に興聖寺がこの地に移され、現在に至っている。

【佐野氏と興聖寺城跡】『尊卑文脈』によると、平安時代末期に秀郷流の藤足利本家から分かれた一族の成俊が「佐野庄司」とあることから、この地の領主になったと考えられている。成俊の後は、甥の基綱が養子となり継いだとされ、その後継については、覚書資料ではあるが「阿曾沼内録」（出井文書）に、新田・足利・佐野の三家が協議し、国綱に家督を相続させた経緯が記されていることから、国綱が最も有力とされている（出居2012）。

佐野氏の祖である基綱や国綱の居住地については諸説ある。基綱については、小野寺や赤見に館を構えたいたとの記述資料があり、さらに御家人として鎌倉に居住し、その自宅が焼失したとの記録もある。一方、国綱は吉水太郎としても知られることから、吉水付近に居住していたと考えられている。また『久賀桂野系図』には「志水太郎」の記述もある。このような記録から、吉水の地に現存する中世の中核的居館であったと考えられる四方を土塁と堀で囲まれている大規模な方形居館の興聖寺城跡が、国綱の居住地であった可能

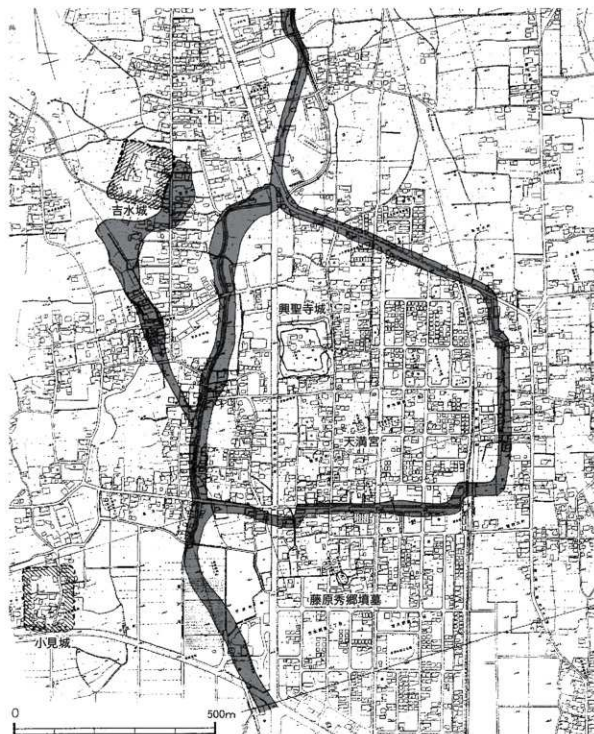


第 66 図 夢沼家所蔵古絵図（興聖寺城跡及び周辺）

性が高いと考えられている。

【興聖寺城跡と周辺の河川・外堀の推定】 興聖寺城跡及びその周辺を知る手がかりとして、江戸中期頃の作といわれる夢沼家所蔵の古絵図（第 66 図）がある。この絵図では、城館は御本丸・北二の丸・南二の丸・三の丸からなり、それぞれの曲輪が水堀で、さらに城域全体を河川と水堀で囲んでいること、城の南及び東周辺には侍屋敷が建ち並び、有力な家臣が配置されていたことなどがわかる。このような拠点となる城館が大規模なものに発展している形態は、戦国末期から近世に見られるものであり、初期の佐野氏が築いたものとは考えにくい。描かれている建物や曲輪の場所などから、大永 2 年（1522）～永禄 2 年（1559）の頃を描いた図の可能性が指摘されているが、この時期、佐野家の日常的な拠点施設が吉水地区にあったことは、ほぼ間違いのないとしている（出居 2012）。

興聖寺城跡の周辺の河川・外堀などについては、すでに大澤伸啓氏により夢沼家所蔵の古絵図と地形から推定が行われている（大澤 2008）。これを基本に今回の発掘調査と踏査から若干改変したものが第 67 図である。第 66 図の古絵図と対比すると、御本丸が興聖寺城跡、田原藤太秀郷御廟が藤原秀郷公墳墓に対応する。今回の発掘調査で西 4 区の北から西 5 区で河川跡と考えられる砂礫層が確認されていることから、古絵図に描かれている南側の外堀は市道 206 号の南に沿っている可能性が高くなった。西側の外堀となる菊沢（美路）川の流路については、吉水小学校の東側は古絵図同様、菊沢川に沿って幅広く川跡の低地が残っており、



第 67 図 興聖寺城跡及び周辺の城館・河川・水路推定図

南側の寺之後遺跡付近は、現在圃場整備によって菊沢川は直線的に南流しているが、古絵図と対比すると圃場整備前の段丘に沿ってやや南東方向に流れていたものと思われる。北及び東側の外堀は現在の道路跡などにその面影が残る。それ以外は整然と区画整理が行われてしまったが、御本丸と興聖寺城跡の縮尺を同じくすると、地図に落とした城域を囲む河川と外堀の推定範囲は古絵図とほぼ重なり、古絵図の正確さが窺える。古絵図と対比すると、東西・南北の区画筋はほぼ同じ方向であり、絵図の道路や堀が対応する部分もあるものと考えられる。

### 第3節 これまでの発掘調査からみた寺之後遺跡の広がり

まず、寺之後遺跡の遺跡名についてふれておく。現在、寺之後遺跡の東には市指定史跡の藤原秀郷公墳墓があるが、蓼沼家所蔵の古絵図にはこれに隣接して東明寺が描かれている。藤原秀郷は940年に平将門を討ち（天慶の乱）、下野国、武蔵国の国守に任じられた人物で、東明寺はこの秀郷が開基となり、大僧都知海法印が開山したと伝えられている。元和3年（1617）に徳川家康公の遺体が東照宮に向かう途中惣宗寺に運ばれ、近隣の住職に召集がかかった際に、遅れたか参集しなかったために廃寺にされたといわれている。この東明寺の西側（裏手）に位置することから、寺之後という小字名が付けられたと考えられる。なお、高さ約3m、半径5mほどの藤原秀郷公墳墓は、現在では古墳（東明寺古墳）の可能性が指摘されている。

さて、寺之後遺跡はこれまで田沼町（2005年佐野市に合併）教育委員会により2回の発掘調査が行われている。昭和55年度の「県営園場整備事業旗川地区」に伴うもの（齋藤1982）と、平成12年度の「道の駅どまんかたぬま」新設工事に伴うもの（上野川・茂木2001）である。園場整備に伴う発掘調査では、道の駅の北側3,000mを調査し、竪穴住居跡24軒（古墳後期7、奈良1、平安11）、掘立柱建物跡1棟、溝状遺構1条を確認し、調査区が寺之後遺跡の北西限で、遺跡は東及び南方に相当広範囲に広がると判断された。道の駅に伴う発掘調査では、1,665mを調査し、竪穴住居跡21軒（古墳後期2、奈良・平安16）、掘立柱建物跡3棟、井戸8基、土坑23基を調査し、その北東の確認調査区域で32軒の竪穴建物跡と中世の墓塚などを確認している（第68図）。

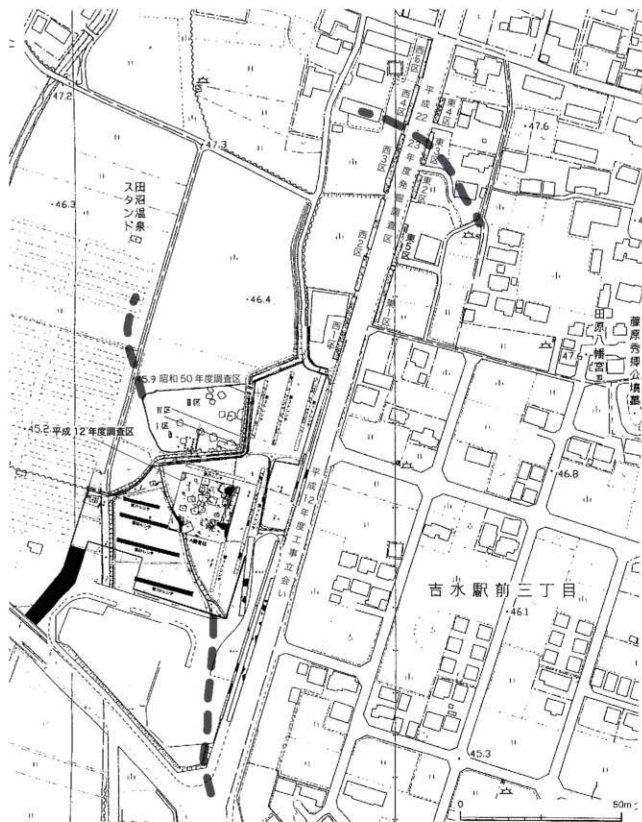
寺之後遺跡については、土地区画整理事業や園場整備事業、道の駅の建設などにより、現在では旧地形がかなりわかりにくくなっているが、基本的には菊沢（美路）川東側の段丘上に営まれた古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡と考えられる。遺跡の広がりについては、開発前には県道西側に北西から南東方向に向かって比高1mほどの段丘となっており、西側は低湿地で、発掘調査からもこれが集落跡の西限となろう。北側については、今回の調査で西3区、東3区南側が竪穴建物跡の北限で、それ以北は旧河道となることから、この付近が北限と考えられる。南側については、平成12年度の工事立会調査や交差点南側が低地となっていることから、南に大きく広がることはないと思される。東側については、区画整理事業のため明確でないが、南東400mに位置するほぼ同時期に営まれた一丁田遺跡とは、谷を挟んで別集落と考えられる。

寺之後遺跡の性格については、これまでの発掘調査から河川や湧水など豊富な水を生業に利用し、古墳時代後期から平安時代（6世紀後半から10世紀中ごろ）までに営まれた集落跡と考えられる。『続日本紀』延暦元年5月3日の条に「下野国安蘇郡主帳外正六位下若麻績部牛養」や、承平年間（931～938）につくられた『和名類聚抄』安蘇郡の部に「麻績」郷の名があり、遺跡の西側に小見という地名が残っていることから、佐野庄の中である程度の位置を占めた麻績郷との関連が注目されている。今回の調査では、これを裏付けるような遺構や遺物は検出されていないが、道の駅建設に伴う発掘調査では、各時代・各住居跡から普遍的に麻績物の製造過程で使用されたと考えられる編み物石と呼ばれている礫が出土していることなどから、麻績郷の中の一集落と予想されている。

また、中近世と考えられる墓塚や溝については、古代の集落が絶えた後、興聖寺城の外堀の南に位置するこの地は、前述した東明寺の墓域として利用されたものと予想される。

#### 参考文献

- ①佐野市教育委員会1999『佐野市遺跡（春日岡城）』②出版 博2011『戦国唐沢山城・武士たちの夢の跡』佐野ロータリークラブ ③田沼町教育委員会2001『寺之後遺跡—道の駅新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』④大澤伸吾2008『佐野の中世遺跡とその特徴』『唐澤山城の重要性を探る』新橋木中世考古学研究会 ⑤田沼町教育委員会1982『寺之後遺跡発掘調査報告書』⑥佐野市史編さん委員



第68図 これまでの発掘調査区と寺之後遺跡の広がり

会 1975 『佐野市史資料編1 原始・古代・中世』 ⑦財団法人 栃木県文化振興事業団 1983 『栃木県中世城館跡』 ⑧田沼町 1984 『田沼町史』 第3巻 資料編2 原始・古代・中世 ⑨田沼町 1985 『田沼町史』 第6巻 通史編(上) ⑩茂木孝行 2008 『佐野氏の城館-唐沢山城以前・以後そして周辺-』 『唐沢山城の重要性を探る』 栃木県中世考古学研究会 ⑪村田修三編 1979 日本城郭体系

## 附章 寺之後遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

寺之後遺跡（栃木県佐野市吉水町）は、足尾山地南東部を流下する秋山川、旗川、彦間川等によって形成された低地内に立地する。本遺跡は微高地であると認識されているが、地形図等によれば秋山川右岸に形成された自然堤防上にあると考えられる。ただし、須藤ほか（1991）による地質図では、秋山川右岸には極めて狭小な田原段丘相当の段丘の分布も記載されているため、このような低位段丘に由来する微高地の可能性もある。なお、田原段丘については、2.7～2.0 万年前の形成年代が示されており（貝塚ほか編,2000）、南関東の立川2面（Tc2）に相当する。

本遺跡の発掘調査では、奈良・平安時代の集落跡が検出され、当該期の土師器や須恵器等の遺物も多数出土している。本報告では、基本層序の確立と遺構の年代の推定、古環境および住居跡カマドにおける燃料材や食料残渣の確認を目的として、自然科学分析調査を実施した。

### 1. 試料

試料は、東2区南壁の堆積層（以下、基本土層）より採取された土壌7点と、東2区で検出された

SI-246 とその上位の堆積層より採取された土壌5点である。以下に、各地点の基本土層および採取試料の概要を述べる。また、各地点の模式柱状図および試料採取位置を図1、図2に示す。

#### (1) 東2区南壁 基本土層（図1）

本地点では、現地表面から深度約1.5m までの基本土層が確認されている。基本土層は、現地表面より現在の耕作土層（層厚約30cm）、暗褐～黒褐色を呈する火山灰土層いわゆる黒ボク土層（層厚約65cm）、灰褐色のシルト層からなる。灰褐色シルト層は、遺跡の立地する自然堤防または低位段丘に由来する微高地の最上部を構成する堆積層であると考えられる。黒ボク土層はその上位に形成された累積性の土壌であり、現地調査所見等から、上位より2、3a、3b、3c の各層に分層されている（1層は現耕作土層）。このうち、2層が旧耕作土層と考えられる暗褐色の黒ボク土、3a層が径約1mmの軽石が散在する黒褐色を呈する黒ボク土、3b層が径約2mmの軽石が混じる3a層よりやや明るい色調の黒褐色黒ボク土、3c層が暗灰褐色を呈するいわゆる漸移層に相当する。

試料は、2層、3a層、3c層から各1点、3b層

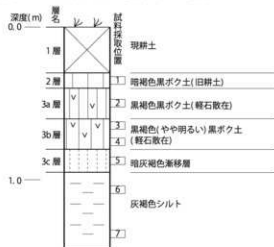


図1. 東2区南壁 基本土層の模式柱状図



図2. SI-246検出地点の模式柱状図

および灰褐色シルト層から各2点が採取されている(図1)。

## 2) 東2区 SI-246 検出地点(図2)

SI-246 は、発掘調査所見により、9世紀代の住居跡と推定されている。SI-246 検出地点の基本土層は、現地表面からSI-246 住居跡床面まで深さ約1.1mを測る。SI-246 検出面は、現地表面から深さ約65cmの層位に確認されており、検出面より上位には、上述した基本土層に対比される黒ボク土層と現耕作土がみられ、下位はSI-246 覆土である。現地調査所見により、検出面より上位の黒ボク土層は、2層と3a層および3b層までの層位に相当すると考えられ、下位の覆土は上部の褐色シルト(覆土1)と、下部の暗褐色シルト(覆土2)に分層されている。

試料は、3a層、3b層、覆土1、覆土2の各層から採取されている(図2)。また、本地点では、SI-246のカマド覆土も試料として採取されている。カマド覆土は、焼土とみられる微量の褐色土粒が混入するが、性質をなす土壌の色調および粒径等の外観の特徴は、上記した覆土2に似る。

本分析では、上記した2地点より採取された試料のうち、東2区南壁基本土層の試料番号1～3、5、7の5点と、SI-246 検出地点の試料番号1～4の4点を対象にテフラの検出と同定を行う。また、東2区南壁基本土層の試料番号4、7の2点を対象に珪藻分析、東2区南壁基本土層の試料番号4とSI-246のカマド覆土を対象に植物珪酸体分析、さらに、カマド覆土については微細物(微細植物片)分析も合わせて行う。

## 2. 分析方法

### (1) テフラの検出・同定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

### (2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法(4時間放置)の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラスに滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではないが、全面を走査する)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer& Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)、渡辺ほか(2005)、小林ほか(2006)等を参照し、分類基準はRound et al.(1990)に、壊れた珪藻殻の計数基準は柳沢(2000)に従う。

同定結果は、中心類(Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱 Coscinodiscophyceae)と羽状類(Pennate diatoms)に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms; 広義のオビケイソウ綱 Fragilariophyceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱 Bacillariophyceae)に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝



類に細分する。各種類の生態性は、Vos & de Wolf (1993) を参考とするほか、塩分濃度に対する区分類に細分する。各種類の生態性は、Vos & de Wolf (1993) を参考とするほか、塩分濃度に対する区分は Lowe (1974) に従い、真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）、貧塩性種（淡水生種）に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。堆積環境の解析にあたり、淡水生種（貧塩性種）については安藤 (1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性については渡辺ほか (2005) の環境指標種を参考とする。

### (3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユワックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。

また、植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈しており、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片等の形で残されている場合が多い。今回の調査では、試料にカマド覆土が含まれたことから、珪化組織片の産出にも注目した。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物 1g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物 1g あたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表と層的变化と珪化組織片の産状を図示する。各分類群の含量は、100 単位として表示し、100 個/g 未満は「< 100」で表示する。また、合計は各分類群の値を合計した後に 100 単位として表示する。

### (4) 微細物分析

試料 230.37g を常温乾燥させた後、水を満たした容器に投入し、容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径 0.5mm の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20～30 回程度）。残土を粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や炭化材（主に径 4mm 以上）などの遺物を抽出する。抽出された炭化材は、最大径と 70℃ 48 時間乾燥後の重量と最大径を表示する。分析残渣は、乾燥重量を表示する。

## 3. 結果

### (1) テフラの検出・同定

結果を表 1 に示す。以下に、各地点のテフラの産状を述べる。

#### 1) 東 2 区南壁 基本土層

スコリアは、3a 層（試料番号 2）に極めて微量認められ、火山ガラスはいずれの試料からも認めることはできなかった。スコリアは最大径約 1mm、黒褐色を呈し、発泡はやや不良である。軽石は、2 層（試料番号 1）と 3b 層（試料番号 3）に微量、3a 層（試料番号 2）に少量認められた。2 層では、特徴的異なる 2 種類の軽石が混在し、3a 層および 3b 層では、その 2 種類に加えてもう 1 種類の計 3 種類の軽石が混在する。2 層の軽石は、最大径約 1.2mm、灰褐色を呈し、発泡はやや不良で斜方輝石の斑晶を包有する軽石が

表1. テフラ分析結果

採集地 (河川名)	層名	試料 番号	スコリア		火山ガラス		軽石		備考
			量	形状・組成・産地	量	形状・組成・産地	量	形状・組成・産地	
奥谷川 基本土層	2層(月耕土)	1	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.0	河床3層の有機物は100%以上腐敗した片断
	3層	2 (+)	0.1	1.0	-	-	(+) GR+sh(top)	2.0	河床3層の有機物は100%以上腐敗した片断
	3層	3	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.5	河床3層の有機物は100%以上腐敗した片断
	3層	5	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.5	河床3層の有機物は100%以上腐敗した片断
	3層	7	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.5	河床3層の有機物は100%以上腐敗した片断
SI-246 (宝樹原)	3層	1 (+)	0.1	1.0	-	-	(+) GR+sh(top)	2.0	河床3層の有機物は100%以上腐敗した片断
	3層	2	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.5	
	層土1	3	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.5	
	層土2	4	-	-	-	-	(-) GR+sh(top)	2.5	

注：(-)試料なし、(+)試料あり、(0)試料なし、(1)試料あり、(2)試料あり、(3)試料あり、(4)試料あり、(5)試料あり、(6)試料あり、(7)試料あり。

GR:珪砂、sh:粘土、top:表層、(+)試料あり、(0)試料なし、(1)試料あり、(2)試料あり、(3)試料あり、(4)試料あり、(5)試料あり、(6)試料あり、(7)試料あり。

g:良好、sg:やや良好、sh:やや不良、sh:不良、s:最大粒径は、

top:2.5mm以下の粒径は、(sh)は粒径0.75mm以上。

表2. 硅藻分析結果

分類群	生態性			標定 種名	東の区画 基本土層	
	塩分	pH	水深		4	7
Bacillariophyta (珪藻植物門)						
Araphid Pennate Diatoms (無殻溝羽状珪藻類)						
<i>Beridion constrictum</i> Halys	0sh-ind	al-il	r-bl	S, T	1	-
Raphid Pennate Diatoms (有殻溝羽状珪藻類)						
Biraphid Pennate Diatoms (双殻溝非珪藻類)						
<i>Aphora montana</i> Krauss	0sh-ind	al-il	ind	RA, U	2	-
<i>Gomphonema nervulum</i> (Grütz.) Grunow	0sh-ind	ind	ind	L	1	-
<i>Rhizosolenia oberrivata</i> (C. Agarch.) Lange & B.	0sh-hil	al-il	r-ph	S, T	1	-
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerstedt	0sh-ind	ind	ind	RS	2	-
<i>Diadesmia biopex</i> Arnett ex Grunow in Van Heurck	0sh-ind	al-il	ind	RA, T	1	-
<i>Diadesmia contorta</i> (Grun. ex Van Heurck) D. G. Mann	0sh-ind	al-il	ind	S, T	2	-
<i>Luticola goepfertiana</i> (Kleisch) D. G. Mann	0sh-hil	al-il	ind	S		1
<i>Luticola arctica</i> (Kütz.) D. G. Mann	0sh-ind	al-il	ind	RA, S	5	-
<i>Noidium alpinum</i> Hustedt	0sh-ind	ac-il	ind	RA	1	-
<i>Caloneis aetophila</i> Bock	0sh-ind	ac-bl	ind	RA, S	1	-
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	0sh-ind	ind	ind	RA, U	2	-
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Kraemer	0sh-ind	ind	ind	S	1	-
管絨藻類						
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	0sh-ind	ind	ind	RA, U	31	1
<i>Vitzschia perminuta</i> (Grun.) Peragallo	0sh-ind	al-il	ind	RI, U	7	-
<i>Vitzschia</i> spp.	0sh-unk	unk	unk		4	-
無殻溝類						
<i>Eumotis minor</i> (Kütz.) Grunow	0sh-hob	ind	ind	S, T	2	-
海水生種					0	0
淡水〜汽水性種					0	0
汽水性種					0	0
淡水〜汽水性種					0	0
淡水性種					67	2
陸地化石類					67	2

【生態性】

H. B. : 塩分濃度	pH : 水素イオン濃度	C. B. : 水深
0sh-hil : 寡塩好塩性種	al-il : 好アルカリ性種	ind : 淡水不定性種
0sh-ind : 寡塩不定性種	ind : pH不定性種	r-ph : 好汽水性種
0sh-hob : 寡塩好塩性種	ac-il : 好酸性種	r-bl : 好汽水性種
0sh-unk : 寡塩不明種	ac-bl : 好酸性種	unk : 淡水不明種
	unk : pH不明種	

【標定種群】

K : 中〜下流性河川指標種、O : 沼沢地地着性種(安部, 1990)、S : 好汚濁性種、C : 広域適応性種、T : 好清水性種(Asai and Watanabe, 1998)、R : 陸生珪藻(RA : A群, RB : B群, RI : 東支分、伊藤・奥内, 1991)

比較的多く、他に最大径約2mm、灰白色を呈し、発泡不良で角閃石の斑晶を包有する軽石が極めて微量認められた。3a層でも、上述した灰褐色軽石が主体を占め、灰白色軽石は極めて微量である。さらに、3a層では、最大径約1.2mm、白色を呈し、発泡良好で斜方輝石の斑晶を包有する軽石も極めて微量含まれる。3b層では、3a層と同様の3種類の軽石が含まれるが、灰白色軽石が他の軽石に比べるとやや多い。

なお、3c層とその下位のシルト層からは、スコリア、火山ガラス、軽石のいずれも検出されない。砂分は、石英や長石類からなる白色の鉱物粒を主体とし、垂角礫状のチャート等の岩石片が少量含まれている。

## 2) 東2区 SI-246 検出地点

スコリアは、3a層(試料番号1)に極めて微量認められ、火山ガラスはいずれの試料からも認めることはできなかった。スコリアは最大径約1mm、黒褐色を呈し、発泡はやや不良である。軽石は、3a層(試料番号1)で中量、覆土1(試料番号3)および覆土2(試料番号4)で少量、3b層(試料番号2)で極めて微量認められた。3a層では、東2区南壁基本土層で認められた灰褐色軽石がほとんどであるが、極めて微量の灰白色軽石も認められた。また、本試料では、径1mmほどの角礫状の黒〜灰黒色を呈する安山岩の岩石片が特徴的に含まれる。この岩石片は、東2区南壁基本土層の軽石が認められた試料でも少量〜微量認められている。3b層(試料番号2)の軽石は、最大径約1.5mmの灰白色軽石のみである。覆土1と覆土2に含まれる軽石は、最大径約2.5mmの灰白色軽石と同約1.5mmの白色軽石の2種類であり、灰褐色軽石は含まれない。また、上述した角礫状の安山岩片も認められない。いずれの試料も、灰白色軽石の方が多い傾向がある。

## (2) 珪藻分析

結果を表2に示す。東2区南壁基本土層の3b層(試料番号4)と灰褐色シルト(試料番号7)の珪藻化石の産出頻度は、何れの試料も非常に少なく、定量解析に有効な化石数は検出されなかった。

3b層(試料番号4)は、67個体が産出したが、産出種の多くは *Hantzschia amphioxys*、*Luticolamutica*、*Neidium alpinum*、*Amphora montana*、*Diademsis contenta*、*Pinnularia borealis* 等の陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻である。灰褐色シルト(試料番号7)は、2個体検出されたのみである。

## (3) 植物珪酸体分析

結果を表3、図3に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されたが、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

### 1) 東2区南壁基本土層

3b層(試料番号4)の植物珪酸体含量は約3.7万個/gである。ネザサ節を含むタケ亜科やヨシ属の含量がやや高く、この他にススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科等も認められる。また、栽培植物であるイネ属の葉部に形成される短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体も検出されるが、その含量はいずれも約100個/gである。なお、珪化組織片としては、イネ属の短細胞列が確認された。

### 2) SI-246 カマド

カマド試料の植物珪酸体含量は約9,500個/gである。検出された分類群は東2区南壁基本土層の3b層と同様であり、ネザサ節を含むタケ亜科やヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科等が検出される。また、栽培植物のイネ属も検出されるが、その含量は短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体ともに100個/g未満である。珪化組織片は全く検出されなかった。

## (4) 微細物分析

表3. 植物珪酸体含量 (個/g)

分類群	東2区南壁 基本土層 4	SI-246 カマド
	イネ科葉部細胞珪酸体	
イネ族イネ属	100	<100
メダケ属ネザサ節	1,700	500
タケ亜科	5,000	1,800
ヨシ属	4,900	1,700
ウシクサ族ススキ属	3,500	800
イチゴツナギ亜科	1,200	200
不明	8,200	900
イネ科葉身細胞珪酸体		
イネ族イネ属	100	<100
メダケ属ネザサ節	1,700	400
タケ亜科	2,100	900
ヨシ属	2,600	1,200
ウシクサ族	1,700	300
不明	3,600	900
合計		
イネ科葉部細胞珪酸体	24,700	5,800
イネ科葉身細胞珪酸体	12,000	3,700
総計	36,700	9,500
珪化組織片		
イネ属細胞遺列	*	-

珪化組織片 - : 未検出, \* : 検出

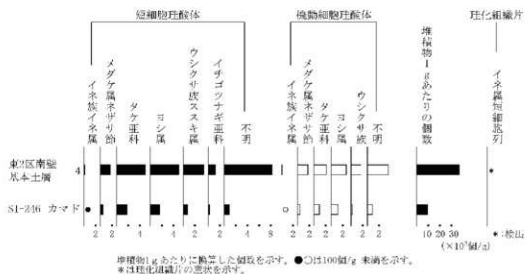


図3. 植物珪酸体含量

SI-246 カマド試料からは、炭化材 (0.006g; 最大3mm) と炭化していない根等の植物片 (0.002g) が回収されたのみであり、炭化種実、動物遺存体等の微細遺物は検出されなかった。なお、分析残渣は砂礫主体 (2.331g) である。

#### 4. 考察

##### (1) 基本層序の対比と住居跡の年代

##### 1) テフラの同定

東2区南壁 基本土層およびSI-246 検出地点からは、いずれも軽石が比較的多く検出された。これらの軽石中には、3種類の異なる特徴を有する軽石が認められた。これらは、それぞれ異なるテフラに由来すると考えられる。3種類の軽石のうち、灰褐色軽石は、その特徴とSI-246 検出地点の3a層において安山岩片

を伴うと考えられることなどから、AD1108年(天仁元年)に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B:新井,1979)に由来すると考えられる。なお、2箇所の3a層で極めて微量認められたスコリアも、おそらくAs-Bに伴うものと考えられる。

次に、角閃石の斑晶を包有する灰白色軽石は、SI-246検出地点における産状により、As-Bより下位の層位に産出する傾向が読み取れる。このような産状と軽石の特徴および本遺跡の地理的位置から、灰白色軽石は、古墳時代に榛名火山より噴出した榛名二ツ岳沢川テフラ(Hr-FA:新井,1979;早田,1989)または榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP:新井,1979;早田,1989)に由来する可能性がある。Hr-FAは6世紀初頭に噴出したとされ、細粒の火山灰と火砕流の噴出を主体としたテフラであり、その分布軸は榛名火山から東方へ向き、南北方向にも幅広い分布が示されている(町田・新井,2003)。一方、Hr-FPは6世紀中葉に噴出したとされ、多量の軽石を噴出したテフラであり、その分布軸は北東方向を向いており、分布幅は比較的狭い(町田・新井,2003)。本遺跡が位置する佐野市付近は、このHr-FPの分布範囲の境界からやや外側に位置している。ただし、今回の分析で検出された砕屑物は、径は小さいが、斑晶を包有する軽石であり、火山ガラスではない。また、早田(1989)のいう遠隔地におけるHr-FAを構成するスポンジ状に発泡した細粒の火山ガラスは認められなかった。これらのことから、今回検出された灰白色軽石は、Hr-FPに由来する可能性が高い。

発泡良好の白色軽石は、その軽石の特徴と包有する斑晶鉱物から、古墳時代に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C:新井,1979)に由来すると考えられる。なお、As-Cの噴出年代については、新井(1979)や町田・新井(2003)では4世紀中葉とされているが、これは、石川はか編(1979)による、群馬県下のAs-Cの堆積層に直接関わる古墳や方形周溝墓、住居跡等から出土した土器型式の年代観から推定されたものである。その後、友廣(1988)は群馬県内における発掘調査成果から、4世紀初頭を下ることはないという見解を示し、最近ではその年代観よりも若干古い3世紀末や3世紀後半といった年代がAs-Cの噴出年代とされる傾向もある。

## 2) 基本土層の対比

上述した検出されたテフラの同定結果により、基本土層の3b層以上の黒ボク土層中にはAs-C、Hr-FP、As-Bの3者が混在、拡散していることが明らかとされた。このような産状から、詳細な年代の特定は困難であるが、3c層からはテフラが検出されなかったことから、As-Cの降灰は3b層の形成時であったことが推定される。すなわち、3b層は古くとも3世紀末～4世紀以降の年代が想定される。その上位の3a層は、3b層に比べてAs-Bの軽石の量比が高いという傾向が看取される。また、上位の2層に比べてもAs-Bの軽石の量比が高いことから、As-Bの降灰は、3a層形成時であった可能性がある。すなわち、3a層は、12世紀前後を含む時期に形成されたと考えられる。したがって、その上位の2層の年代としては、古くとも12世紀まで遡ることはないと考えられる。

## 3) SI-246の年代

SI-246の覆土1および覆土2におけるテフラの産状は、上述したテフラの同定結果から、Hr-FPとAs-Cが混在する状況が確認された。このことから、Hr-FPもAs-Cも覆土埋積時に降灰したのではなく、覆土の由来として考えられる遺構周囲の堆積物(黒ボク土)中に既に含まれていた可能性が高い。すなわち、住居跡廃絶後の覆土形成過程において、既にHr-FPの軽石が黒ボク土中にあったことになり、少なくとも住居構築年代はHr-FPの降灰以降すなわち6世紀中葉以降という年代観が与えられる。また、検出面より上位の3a層は、As-Bの濃集が示唆されたことから、降灰層準に相当する可能性がある。すなわち、12世紀

初頭までには住居跡に由来する凹地は完全に埋没し、さらに3b層の土壌が形成されていたことになる。SI-246の詳細な年代の検討には至らないが、テフラの検出状況から6世紀中葉～12世紀初頭までの年代が推定され、発掘調査所見で示された9世紀代という年代観を支持する。

## (2) 古環境

東2区南壁基本土層の3b層および灰褐色シルトからは、珪藻化石がほとんど検出されなかったことから、珪藻化石群集による堆積環境の推定は困難である。なお、3b層(試料番号4)より検出された珪藻化石の多くが陸生珪藻であったことを踏まえると、好気的環境であった可能性がある。また、同層を対象とした植物珪酸体分析結果では、ネザサ節を含むタケ亜科やヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科等が検出された。ネザサ節やススキ属は開けて乾いた場所に生育する種類が多く、ヨシ属は湿潤な場所に生育することから、調査地周辺には比較的乾いた場所や水湿地等の湿潤な場所が分布していたと考えられる。さらに、3b層からは、栽培植物のイネ属が検出された。イネ属の含量は、短細胞珪酸体・機細胞珪酸体ともに約100個/gと極めて低いことから、稲作が行われていた可能性は低い。なお、上位の3a層は、現地調査所見で旧耕作地の可能性が示唆されていることから、その影響も踏まえた検討が望まれる。

一方、地山とされる灰褐色シルトは、現地調査所見では、微高地上堆植物と想定されたが、前述したように、微高地を形成する地形としては、秋山川の自然堤防あるいは田原段丘相当の低位段丘のいずれかであると考えられる。前者の場合は、灰褐色シルト層は河川の氾濫堆植物由来する砕屑物を主体とするが、後者の場合はローム層すなわち風成塵由来する砕屑物を主体とする。今回の分析では、珪藻化石がほとんど検出されなかったため、堆積環境の検討には至らない。なお、低位段丘上のローム層であった場合には、これまでの周辺分析事例から、立川ローム上部ガラス質火山灰(UG:山崎,1978)と呼ばれているテフラに由来する火山ガラスが含まれている可能性が高い。今回のテフラの分析では、火山ガラスは認められなかったことから、低位段丘上のローム層であることの確証も得られていない。今後、周辺域における微高地とされる地形での層序対比資料を蓄積し、検討する必要がある。

## (3) SI-246 カマド

SI-246カマドの植物珪酸体分析の結果、珪化組織片は検出されなかったことから、イネ科植物由来する燃料材の検討には至らなかった。一方、単体で検出された植物珪酸体の産状についてみると、前述した東2区南壁基本土層の3b層に比べ植物珪酸体含量は低い、群集組成が類似する。カマド試料に認められた産状は、遺構の埋没過程で埋積した堆積物のイネ科植物相を反映している可能性があり、3b層と同様の景観が想定される。また、同試料の微細物分析では、炭化材片が僅かに検出されたのみで種実や骨片等は認められず、当時の動・植物質食料の検討には至らなかった。

## 引用文献

- 安藤一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用,東北地理,42,73-88.  
新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層,考古学ジャーナル,157,41-52.  
Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophylic and saproxenous taxa, *Diatom*,10, 35-47.  
原口和夫・三友清史・小林 弘,1998,埼玉の藻類 珪藻類,埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.  
Hustedt, F.,1937-1939, Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. *Archiv für Hydrobiologie, Supplement*,15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155,

16:274-394.

石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一(編),1979,火山堆積物と遺跡Ⅰ.考古学ジャーナル,159,3-40.

伊藤良永・堀内誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.

貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編,2000,日本の地形4 関東・伊豆小笠原.東京大学出版会,349p.

小林 弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲 保・長田啓五,2006,小林弘珪藻図鑑.第1巻,内田老鶴圃,531p.

近藤謙三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.

小杉正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用.第四紀研究,27,1-20.

Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER, 353p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. *Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1*. Gustav Fischer Verlag, 876p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae, Suredirellaceae. *Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2*. Gustav Fischer Verlag, 536p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. *Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3*. Gustav Fischer Verlag, 230p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthes,Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lincolatae) und Gomphonema. *Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4*. Gustav Fischer Verlag, 248p.

Lowe, R. L.,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. *Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005*. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati. 334p.

町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.

Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G.,1990,The diatoms. *Biology & morphology of the genera*. Cambridge University Press, Cambridge. 747p.

早田 勉,1989,六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害.第四紀研究,27,297-312.

須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨,1991,20 万分の1 地質図幅「宇都宮」,地質調査所.

田中正昭,2002,日本淡水産動物・植物プランクトン図鑑,584p.

友廣哲也,1988,古式土師器出現期の様相と浅間山C 軽石.(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編 群馬の考古学 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団創立十周年記念論集,群馬県考古学資料普及会,325-336.

Vos,P.C.&H.de Wolf,1993,Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands:methodological aspects. *Hydrobiologica*, 269/270,285-296.

渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子,2005,淡水珪藻生態図鑑.内田老鶴圃,666p.

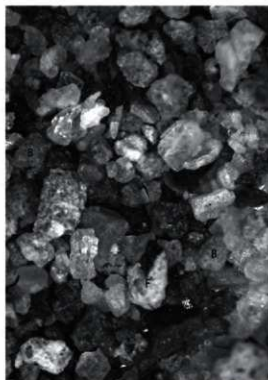
山崎晴雄,1978,立川断層とその第四紀後期の運動.第四紀研究,16,231-246.

柳沢幸夫,2000,Ⅱ -1-3-2- (5) 計数・同定.化石の研究法—採集から最新の解析法まで—,化石研究会,共立出版株式会社,49-50.

図版1 テフラ



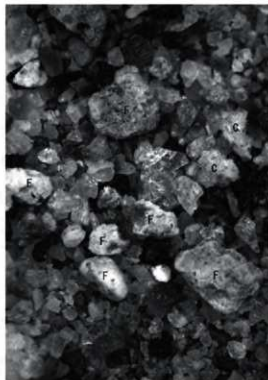
1. As-BとHr-FPの軽石(東2区南壁 基本土層:2)



2. As-BとHr-FPの軽石(東2区南壁 基本土層:3)



3. As Bの軽石(SI 246:1)



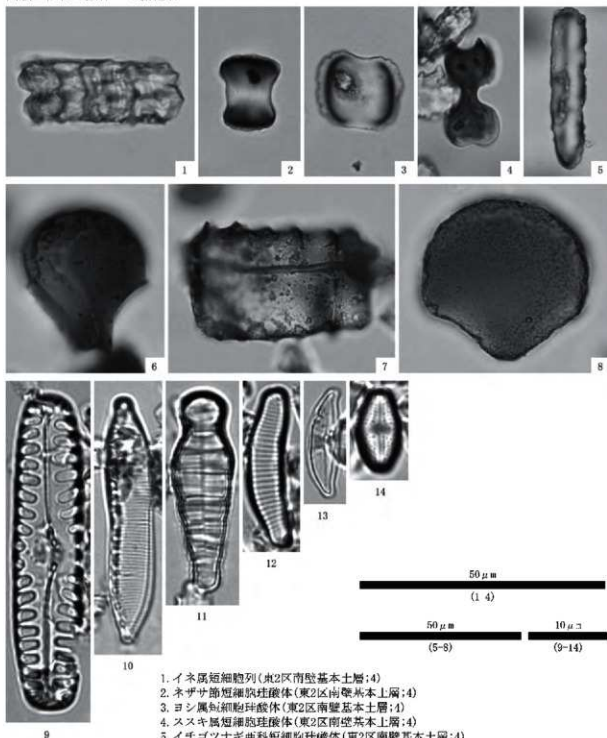
4. Hr FPとAs Cの軽石(SI 246:4)

B:As-Bの軽石, F:Hr-FPの軽石, C:As-Cの軽石,

1.0mm 2.0mm



図版2 植物珪酸体・珪化石



1. イネ属短細胞列(東2区南壁基本土層;4)
2. ネザサ節短細胞珪酸体(東2区南壁基本土層;4)
3. ヨシ属短細胞珪酸体(東2区南壁基本土層;4)
4. ススキ属短細胞珪酸体(東2区南壁基本土層;4)
5. イチゴツナギ非科短細胞珪酸体(東2区南壁基本土層;4)
6. イネ属機動細胞珪酸体(東2区南壁基本土層;4)
7. ネザサ節機動細胞珪酸体(東2区南壁基本土層;4)
8. ヨシ属機動細胞珪酸体(SI 246;カマド)
9. *Pinnularia borealis* Ehrenberg(東2区南壁基本土層;4)
10. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow(東2区南壁基本土層;4)
11. *Meridion constrictum* Ralfs(東2区南壁基本土層;4)
12. *Enotia minor* (Kuetz.)Grunow(東2区南壁基本土層;4)
13. *Amphora montana* Krasske(東2区南壁基本土層;4)
14. *Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann(東2区南壁基本土層;4)

## 写真図版



興聖寺城跡・寺之後遺跡遠景（西上空から）



興聖寺城跡及び発掘調査区（西上空から）



興聖寺城跡全景（南東上空から）



東門付近（東から）



北側土塁・外堀跡（東から）



南側土塁・外堀跡（西から）



調査前状況（西土塁西側を北から）



M-1区 (南から)



M-2区 (南から)



M-2区 S I-1 (南西から)



M-2区 S I-1 セクション (西から)



調査区1 (南から)



調査区3 (南から)



調査区2 (南から)



調査区3 (南から)



調査区 4 (南から)



調査区 4 礫出土状況 (西から)



調査区 4 礫下断ち割り (南から)



調査区 5 (南から)



調査区 6 (南から)



調査区 7 (南から)



調査区 8 (南から)



調査風景 (南から)





寺之後遺跡遠景（北から）



調査区遠景（南東から）



西1区垂直全景(上が東)



SK-4 完掘状況(南から)



SK-5 セクション(南から)



SK-7・8・10・12 完掘状況(西から)



SK-9 完掘状況(東から)



SK-11 完掘状況(西から)



SK-13 完掘状況(西から)





S I-1 6 完掘状況 (南から)



S I-3 4 完掘状況 (東から)



S K-2 6 完掘状況 (東から)



S K-3 2 完掘状況 (東から)



S K-3 9 完掘状況 (東から)



SK-4 1 完掘状況(東から)



SK-4 2 完掘状況(東から)



SK-4 3 完掘状況(東から)



SK-4 5 完掘状況(東から)



SK-4 6・47 完掘状況(東から)



SK-4 8 完掘状況(東から)



SK-5 0・72 完掘状況(東から)



SK-5 3 完掘状況(東から)



SK-5 7 完掘状況 (東から)



SK-5 8・6 0 完掘状況 (東から)



SK-5 9 完掘状況 (西から)



SK-6 1 完掘状況 (西から)



SK-6 2 完掘状況 (西から)



SK-6 5・6 6 完掘状況 (東から)



S K-1 0 1・SK-1 0 2 遺物出土状況 (東から)



SK-1 0 2 遺物出土状況 (東から)



西2区南垂直全景(上が東)



S 1-7 3完掘状況(東から)



S 1-7 7完掘状況(西から)



S 1-8 2・S D-8 3完掘状況(西から)



S K-7 5遺物出土状況(東から)



S K-7 9遺物出土状況(東から)



S K-8 5・S D-8 6完掘状況(西から)



西2区北垂直全景（上が東）



S K-9 4セクション（南から）



S K-9 4完掘状況（西から）



S D-9 5礫出土状況（西から）



S D-9 5・96完掘状況（西から）





西3区垂直全景(上が東)



S I-1 10完掘状況(西から)



S I-1 10カマド完掘状況(北西から)



S I-1 10カマドソデ断ち割り状況(西から)



S I-1 36完掘状況(西から)



S I-1 36完掘状況(南から)



S I-1 36遺物出土状況(南から)



S I-1 36遺物出土状況(南から)



S I-1 58完掘状況(西から)



西4区全景(上が東)



西5区垂直全景(上が北)



SK-265~267完掘状況(西から)



流路跡セクション(西から)





調査区遠景（南東から）



東1区垂直全景（上が西）



SK-252~255完掘状況（東から）



SK-263・264完掘状況（東から）



S1-248・SX-251・SK-252~255完掘状況(東から)



SX-256完掘状況(東から)



SX-257完掘状況(東から)



東2区垂直全景(上が北)



S 1-2 3 4 完掘状況（西から）



S 1-2 4 6 遺物出土状況（東から）



東3区垂直全景（上が西）



S 1-2 4 3 完掘状況（南から）



S 1-2 4 3 遺物 (No1) 状況（南から）



S 1-2 4 3 遺物 (No2) 状況（南から）



S 1-2 4 3 カマドソテ断ち割り（北から）



S K-1 7 1 完掘状況（東から）



SK-235~238完掘状況(東から)



SK-239~241完掘状況(東から)



東4区垂直全景(上が西)



SK-170完掘状況(西から)



SK-172~179完掘状況(東から)



SK-180~194完掘状況(東から)



SK-196完掘状況(東から)





SK-199～203完掘状況（西から）



SK-204～211完掘状況（東から）



SK-210完掘状況（西から）



SK-215～219完掘状況（東から）



東5区垂直全景（南から）



東5区垂直全景（北から）



S 1-3 02・303完掘状況(南から)



S 1-3 02完掘状況(西から)



S 1-3 03カマドセクション(南から)



S 1-3 03カマド完掘(南から)



S 1-3 03礎出土状況(南から)



S I-3 0 4完掘状況(南から)



S I-3 0 4遺物出土状況(北から)



S I-3 0 4カマドセクション(南から)



S K-3 0 1完掘状況(西から)



S I-3 0 5完掘状況(西から)



S K-3 0 6完掘状況(西から)



S E-3 0 7完掘状況(西から)

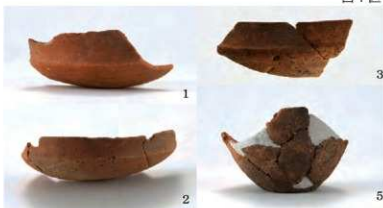




西1区



SI-16



SI-101



SI-34



SK-50  
1

SK-61  
1

SK-102  
1



SK-102



2  
(上面)



SK-104

西2区



SI-73



SI-77



1



SD-83



1



SI-82

3



SD-95



2

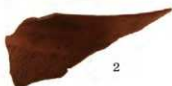
西3区



1



1  
(底面)



2



6

SI-136



1

7



1



2

SI-158



1



2



3



1

SK-141

SK-124



1



2



3

東1区

SK-151



1

2

3

4

SX-256

東2区



SI-246

東3区



SI-243



SK-233

東5区



2



1



2



2  
(底面)



1



2

SI-303

SK-306



1



6



3

4

SE-307  
遺構外



3



3  
(底面)



1  
(内面)

2

4

5

6

7

8

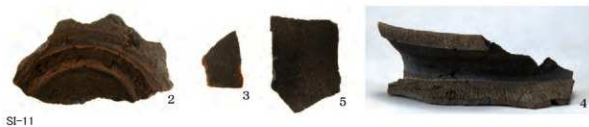
9

10

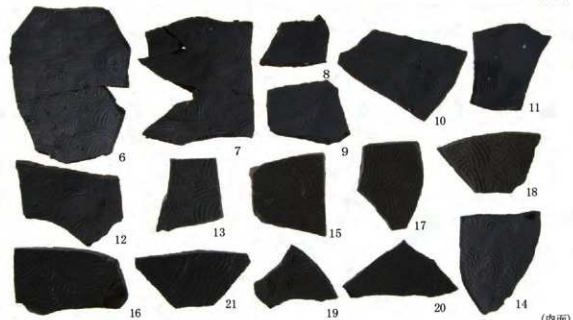
11

12





(外面)



(内面)

SI-13

図版三〇 寺之後遺跡遺物（工事立会調査）



SI-13



SX-02



SX-01



## 報告書抄録

ふりがな	こうしょうじじょうあと・てらのうしろいせき
書名	興聖寺城跡・寺之後遺跡
副書名	安全な道づくり事業費（交付金）主要地方道佐野田沼線新古水工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第357集
編著者名	後藤信祐
編集機関	財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2013年3月25日（平成25年3月25日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
興聖寺城跡 <small>こうせいじじょうあと</small>	佐野市 吉水町 <small>さのし よしかみ</small>	09204	5207	36° 21' 02"	139° 34' 43"	2011.6.6 ～ 2011.8.19	570 ㎡	道路建設 (自転車・歩 道拡幅整備)
寺之後遺跡 <small>てらごしのあと</small>	佐野市 吉水町 <small>さのし よしかみ</small>	09204	5209	36° 20' 54"	139° 34' 34"	2010.10.25 ～ 2011.1.19 2011.5.18 ～ 2011.7.22	1,050 ㎡	道路建設 (自転車・歩 道拡幅整備)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
興聖寺城跡	城館	中・近世	竪穴建物跡 1軒 堀跡 1条	縄文土器片、土師器、須恵器、 内耳土器、銭貨、石鈿	
寺之後遺跡	集落	古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴建物跡 17軒 土坑 244基 溝跡 6条 井戸跡 1本 不明遺構 4基	縄文土器、土師器、須恵器、青 磁、陶器、砥石、五輪塔、鉄製品、 銭貨	

要約	<p>興聖寺城跡は、安貞2年(1228)、佐野国綱が築いた城館で、東西116m、南北133mのほぼ方形の土塁と、その外側(西側以外)に堀跡が良好な状態で残っている。今回の発掘調査では、中近世と思われる土器の小破片は出土したものの、調査区の幅が狭いうえ昭和40年代の県道造成の際の攪乱を受けていることから、西側土塁の外堀の肩などは確認できなかった。</p> <p>寺之後遺跡は、興聖寺城跡の南西700mあり、麻績郷との関連が指摘されている古墳時代後期から平安時代の集落跡である。過去2回の発掘調査が行われているが、今回の調査では集落の北限が確認された。また、中世の遺構・遺物のほか、西4・5区では旧河道が確認されている。これは「夢沼家古絵図」に描かれている本丸(興聖寺城)・北二の丸・南二の丸・三の丸の周囲をさらに800m四方で囲んだ南側の水堀跡との関連が考えられる。</p>
----	---

---

---

栃木県埋蔵文化財調査報告第357集

興聖寺城跡・寺之後遺跡

—安全な遺づくり事業費（交付金）主要地方道北野田沼線新吉水工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市城田1-1-20

T E L 028 (623) 3425

財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町1-8

T E L 028 (643) 1011

平成25年3月25日発行

編集 財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫474番地

T E L 0285 (44) 8441

印刷 下野印刷株式会社

---

---